オーナーズマニュアル

日本語

# HYPERMOTARD 950

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。
所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は 本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで (書面による) 許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

# 目次


概要　7
安全性ガイドライン　7
本マニュアルで使用されている警告シンボル　8
用途　9
ライダーの義務　9
ライダーの教育　10
服装　10
安全のための"ベストプラクティス"　12
燃料の補給　14
最大積載時の運転　15
車両への積載に関する注意　15
危険物 - 警告　15
車両識別番号　17
エンジン識別番号　18

インストルメントパネル (ダッシュボード)　19
インストルメントパネル　19
取扱説明書内で使用される頭字語および略語　22
技術用語集　23
機能ボタン　25
パラメーターの表示　26
主な機能とサブ機能　32
車両速度表示　34
ギア表示　35
エンジン回転数表示　36
DQS 表示 - アクセサリー　37
DTC 表示　39
ABS 表示　44
DWC 表示　50
時計　56
エンジンクーラント温度　57
ライディングモード　58
機能メニュー　63
オドメーター (TOT)　64
トリップメーター 1 (TRIP 1)　65
平均燃費 1 (CONS.AVG 1)　67
平均スピード 1 (SPEED AVG 1)　69
トリップタイム 1 (TRIP TIME 1)　71
外気温 (T AIR)　73

燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)　74
トリップメーター 2 (TRIP 2)　75
瞬間燃費 (CONS.)　77
音楽プレーヤー操作 (PLAYER) ー アクセサリー　78
通話操作 (LAST CALLS) ー アクセサリー　85
ヒーテッドグリップ (HEATING GRIPS) ー アクセサリー　87
設定メニュー (SETTING MENU)　89
設定メニュー - ライディングモード (Riding Mode)　91
設定メニュー - ライディングモード - エンジン設定 (Engine)　94
設定メニュー - ライディングモード - DTC 設定 (DTC)　96
設定メニュー - ライディングモード -ABS の設定 (ABS)　98
設定メニュー - ライディングモード - DWC 設定 (DWC)　100
設定メニュー - ライディングモード - DQS -設定 - アクセサリー (DQS)　102
設定メニュー - ライディングモード - 初期値の回復 (Default)　104
設定メニュー - 全ライディングモードの初期値の回復 (All Default)　105
設定メニュー - PIN コードの登録 (Pin Code)　106
設定メニュー - PIN コードの変更 (Pin Code)　110
設定メニュー - ラップタイム (Lap)　116
設定メニュー - バックライトの調整 (Backlight)　122
設定メニュー - 日時の設定 (Date and Clock)　124
設定メニュー - 単位の設定 (Units)　130
設定メニュー - サービス情報 (Service)　135
設定メニュー - タイヤおよび減速比のキャリブレーション (Tire Calibration)　136
設定メニュー - DRL モード設定 ー アクセサリー (DRL Control)　140
設定メニュー - Bluetooth デバイス設定 ー アクセサリー (Bluetooth)　142
設定メニュー - ターンインジケーターのモード設定 (Turn indicators)　150
設定メニュー - 情報 (Info)　152
ラップタイム (Lap)　154
インフォテインメント ー アクセサリー　156
メンテナンス表示 (SERVICE)　163
Oil Service、Date Service、Desmo Service カウントダウン表示　164
Oil Service、Date Service、Desmo Service 表示　165
DRL 自動モード表示 ー アクセサリー　166
サイドスタンドの状態表示　167
注意および警告　168

エラー　172
ライトコントロール　173
イモビライザーシステム　179
キー　180
キーの複製　181
PIN CODE による車両の解除　182

運転時に必要なコマンド　183
コマンド類の配置　183
イグニッションスイッチ / ステアリングロック　184
ハンドルバー左側スイッチ　185
クラッチレバー　186
ハンドルバー右側スイッチ　187
スロットルグリップ　188
フロントブレーキレバー　189
リアブレーキペダル　190
ギアチェンジペダル　191
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整　192

主要構成部品 / 装備　194
車両上の配置　194
燃料フィラープラグ　195
シートロック　196
サイドスタンド　199
フロントフォーク調整　200
リアショックアブソーバーの調整　202

運転の方法　204
慣らし運転の方法　204
走行前の点検事項　206
ABS 装置　208
エンジンの始動　209
車両の発進　211
ブレーキ操作　212
ABS システム　212
車両の停止　214
パーキング　215
燃料の補給　216
付属アクセサリー　218

主な整備作業とメンテナンス　221
クーラントレベルの点検および補充　221
クラッチ / ブレーキフルードレベルの点検　222
ブレーキパッドの摩耗点検　224
バッテリーの充電　225
トランスミッションチェーン張力の点検　229

チェーンの潤滑　231
ヘッドライドの電球の交換　236
ターンインジケーターの電球の交換　239
ナンバープレートランプ　241
ヘッドライトの光軸調整　242
リアビューミラーの調整　244
チューブレスタイヤ　245
エンジンオイルレベルの点検　247
スパークプラグの清掃と交換　250
車両の清掃　251
長期間の保管　252
重要注意事項　253

メンテナンスプログラム　254
メンテナンスプログラム： ディーラーでおこなうメンテナンス　254
メンテナンスプログラム： お客様が行うメンテナンス　258

テクニカル仕様　259
重量　259
サイズ　260
補給　261
エンジン　263
タイミングシステム　264
性能データ　265
スパークプラグ　265
燃料供給　265
ブレーキ　265
トランスミッション　266
フレーム　267
ホイール　267
タイヤ　267
サスペンション　267
エキゾーストシステム　268
カラーバリエーション　268
エレクトリカルシステム　270

定期点検メモ　274
定期点検メモ　274

# 概要

## 安全性ガイドライン

この度は Ducati 製品をご購入いただきありがとうございます。お客様をドゥカティストの仲間としてお迎えできることは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクを日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しまれることと思います。
Ducati モーターホールディング社は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っております。

お客様のモーターサイクルは、Ducati モーターホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものです。定期点検を必ず実施し、純正スペアパーツを使用することで品質を維持することが大切です。本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでご覧いただけるワークショップマニュアルに記載されております。
お客様ご自身の安全のため、また製品の安全性、信頼性を保証するために、メンテナンスプログラムのすべての作業を Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施していただくことを強くお薦めしますページ 254 参照。

Ducati の熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具を備え、最適な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証する Ducati 純正パーツのみを使用し、最善のサービスを提供いたします。

すべての Ducati モーターサイクルには保証書が付属しております。
車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。
車両や部品の一部であっても改造または変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかったり不十分であった場合、また純正ではないスペアパーツや Ducati が承認していないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全を守ることは非常に重要です。お客様が責任を持ってモーターサイクルをご使用になられますようお願いいたします。
モーターサイクルを初めてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後までよくお読みになり、記載さ

れているガイドラインに正しく従ってください。正しい使用方法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先の正規ディーラーにお問い合わせください。

## 本マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様または他の人に負わせる可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、および警告または重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ

**警告**
これらの注意事項が守られない場合、ライダーや他の人に重大なけがや死亡事故を招くおそれがあります。

**重要**
車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。

**参考**
作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は、車両の進行方向に向かっての左右を意味します。

## 用途

**警告**
このオートバイはオンロード用に設計されていますが、路面状態の良好なオフロードであれば一時的に使用可能です。本来の設計条件以外 (公道以外の場所、山林、原野、海岸、砂漠等) での使用は、車両のコントロールを失い転倒の危険性が高まります。

**警告**
本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

本モーターサイクルにはライダーが搭乗し、パッセンジャーを一人乗せることができます。

**警告**
ライダー、パッセンジャー、荷物、オプションパーツを含む車両総重量が 375 kg / 826.73 lb を超えないようにしてください。

**重要**
ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

## ライダーの義務

運転者は運転免許証を受けていなければなりません。

**警告**
無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。

**警告**
アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないようにしてください。

**警告**
薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。

**警告**
現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。

**警告**
現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

**警告**
事故が起こったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

**警告**
ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されてることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

## ライダーの教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

**警告**
ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

## 服装

モーターサイクルを運転する際に着用する装備は安全を確保する上で大変重要な役割を果たします。モータ

ーサイクルは自動車のように乗員を衝撃から守ることはできません。

適切な装備とは、ヘルメット、目を保護するもの、グローブ、ブーツ、長袖ジャケット、ロングパンツからなります。

- ヘルメットはページ9に記載されている要件を満たしていなければなりません。シールドが付いていないモデルの場合は、適切なゴーグルを着用してください。
- グローブは革製もしくは摩擦に強い素材を用いたもので、5 本指のものを着用してください。
- 運転する際のブーツやシューズは、アンチスリップソールとアンクルプロテクターを装備しているものを着用してください。
- ジェケットとパンツ、もしくはプロテクトスーツについては、革製のものか摩擦に強い素材を用いたもので、視認性を高めるカラーインサートが付いているものを着用してください。

**重要**
車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。

**重要**
安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。

**重要**
パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

## 安全のための"ベストプラクティス"

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

**重要**

慣らし運転期間中は、本冊子の "使用規定" の章に記載されている指示に従ってください。
この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

**警告**

運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

エンジンを始動する前に、本冊子が定める点検を必ず実施してください (ページ 206 を参照)。

**警告**

これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーに重大な傷害を招くおそれがあります。

**警告**

エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。
排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。
走行中は適切な姿勢を保ち、パッセンジャーも同様に正しい姿勢で乗車していることを確認してください。

**重要**

ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

**重要**

走行中、ライダーおよびパッセンジャーは必ず足をペダルに乗せてください。

**重要**

パッセンジャーはシート下のフレームの所定のハンドルバーを常に両手で握ってください。

**重要**

私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などでの交差点では十分に注意してください。

**重要**
相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。

**重要**
右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。

**重要**
モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

**重要**
タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。
トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

**警告**
エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

**警告**
モーターサイクルの傍から離れる際は、必ずイグニッションキーを抜き取り、他人が勝手に使用できない場所にキーを保管してください。

## 燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。
給油中は絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。
エンジンおよびエキゾーストパイプに燃料がかからないように注意してください。
給油の際は燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。
給油中は燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

**警告**

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

**警告**

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹸で洗ってください。

**警告**

燃料は非常に引火しやすいため、間違って衣服に付着した場合には着替えてください。

## 最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。
車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。

**警告**
サイドバッグおよびトップケース装着時の最高速度は 180 Km/h (112 mph) を超えないでください。いずれの場合も法定速度を遵守してください。

**警告**
最大許容重量を超えないようにしてください。また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

## 車両への積載に関する注意

**重要**
積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。

**重要**
車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。

**重要**
バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。

**重要**
車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。

**警告**
タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

"チューブレスタイヤ" (ページ 245) の段落を参照してください。

## 危険物 - 警告

使用済みエンジンオイル

**警告**
使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹸で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

**警告**

車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。

**警告**

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。

**警告**

エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかからないようにしてください。

これらの部品はクーラントが発火するのに十分な熱を持っている場合があります。そのため、見えない炎で火傷を負うおそれがあります。クーラント (エチレングリコール) は皮膚刺激を起こすことがあります。また飲み込むと有害です。お子様の手の届かないところに保管してください。エンジンが熱いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。クーラントは加圧された状態にあり、火傷を引き起こす原因となることがあります。

クーリングファンは自動的に起動しますので、手や衣類を近づけないでください。

バッテリー

**警告**

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

## 車両識別番号

**参考**
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

フレーム　N.

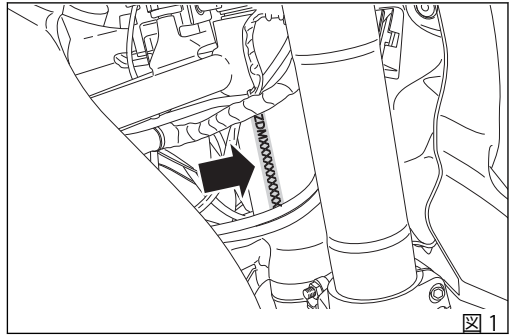


図 1

## エンジン識別番号

**参考**
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

エンジン　N.

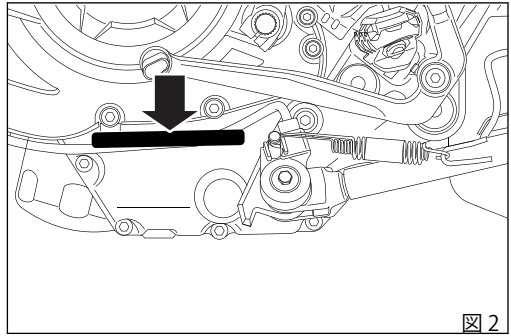


図 2

# インストルメントパネル (ダッシュボード)

## インストルメントパネル

1) ディスプレイ

2) ニュートラルランプ N (緑)
ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。

3) 一般的エラー警告灯 ⚠ (琥珀色)
車両に関連するエラーがあると点灯、エンジンコントロールユニットとは異なるコントロールユニットに起因するエラーに対して点灯します。

4) ハイビーム表示灯 ≡D (青)
ハイビーム点灯時およびフラッシュ起動時に点灯します。

5) リザーブ燃料警告灯 ⛽ (琥珀色)
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します (「補給」をご覧ください)。

6) ターンインジケーター表示灯 ⇔ (緑)
ターンインジケーターを ON にすると点滅します。

7) エンジンオイル圧警告灯 (赤)
エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。
"KEY-ON" 時に点灯しますが、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

**重要**
エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

8) DTC/DWC ステータスランプ (琥珀色)
DTC/DWC システムの起動または解除を表示します。
- ランプ OFF：DTC/DWC 機能作動中
- ランプ ON 点滅：DTC/DWC は起動しているが、性能が制限されている
- ランプ ON：コントロールユニット不具合のため、DTC/DWC は解除されているか作動していない

9) "エンジン診断 - MIL" ランプ (琥珀色)
エンジンに関連するエラーがあると点灯しますが、場合によってはエンジン停止につながることもあります。

10) ABS ランプ (ABS) (琥珀色)
ABS 機能の状態を示します。
- ランプ OFF：ABS 機能作動中

- ランプ ON 点滅：ABS は自己診断中あるいは起動しているが、性能が制限されている
- ランプ ON：ABS コントロールユニット不具合のため、ABS が解除されているか作動していない

11) DTC/DWC 介入 (琥珀色)
- ランプ消灯：DTC 介入なし
- ランプ点灯：DTC 介入

12) サイドオーバーレブ
警告灯はエンジン回転数が第一起点値に達すると点灯します。

13) OVER REV / イモビライザー停止

オーバーレブ：
- ランプ消灯：リミッターの介入なし
- ランプ点滅：リミッター介入

**参考**
エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションで起点値とリミッター値の設定が異なる場合があります。

イモビライザー：
- ランプ消灯：車両 Key-ON 状態、または 12 時間以上 Key-OFF 状態
- ランプ点滅：車両 Key-OFF 状態

14) DRL ランプ (緑)

DRL の状態を示します (中国、カナダ、日本バージョンには装備されません)。
- ランプ消灯：DRL 消灯
- ランプ点灯：DRL 作動
- ランプ点滅：DRL エラー

**重要**
ディスプレイに "TRANSPORT MODE" の文字が表示されている場合は、直ちにドゥカティ正規ディーラーにご連絡ください。正規ディーラーにてこの項目を削除し、バイクの完全な機能の保証を受けてください。

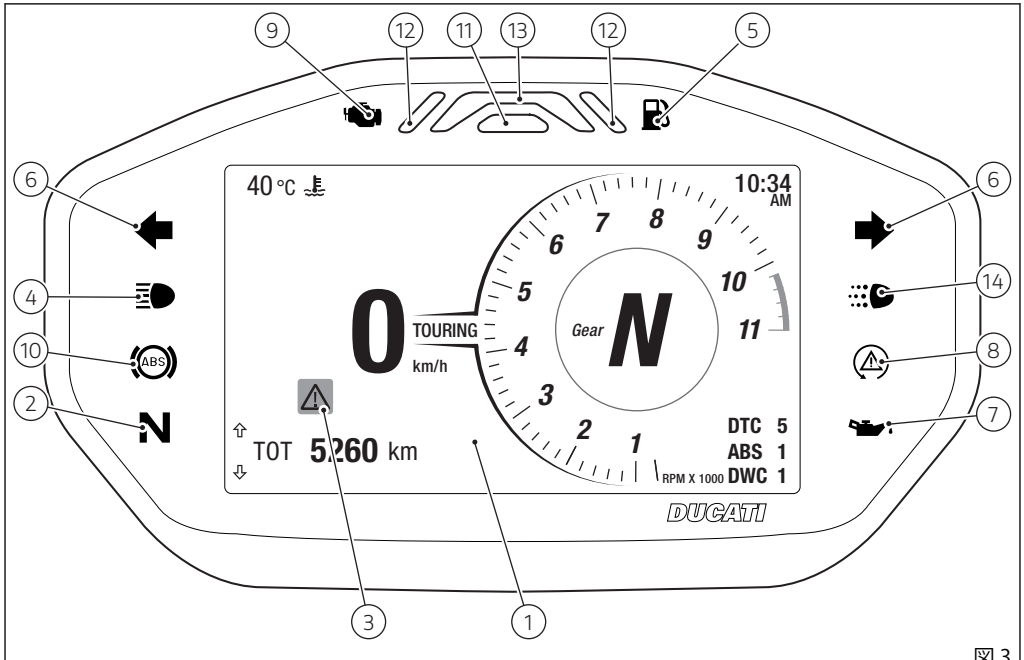

9
12
11
13
12
5
6
6
4
14
10
8
2
7
40 °c
10:34
AM
0
TOURING
km/h
Gear
N
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
RPM X 1000
DTC 5
ABS 1
DWC 1
TOT 5260 km
DUCATI
3
1

図 3

## 取扱説明書内で使用される頭字語および略語

ABS
アンチロックブレーキシステム
BBS
ブラックボックスシステム
CAN
コントローラーエリアネットワーク
EBC
ETV による DUCATI リアタイヤアンチロックシステム
DDA
ドゥカティデータアナライザー
DQS
ドゥカティクイックシフト
DRL
デイタイムランニングライト
DSB
インストルメントパネル
DTC
ドゥカティトラクションコントロール
DWC
ドゥカティウィリーコントロール
ECU
エンジンコントロールユニット
GPS
グローバルポジショニングシステム

## 技術用語集

### ドゥカティトラクションコントロール (DTC)

ドゥカティトラクションコントロール (DTC) はリアホイールのスリップ制御を行い、8 つのレベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル 8 はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー用オフロード走行向けのレベル 1 は許容値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

### ドゥカティウィリーコントロール (DWC)

ドゥカティウィリーコントロール (DWC) はウィリー制御を行い、8 つの介入レベルを基に機能します。各レベルでウィリーの制御に対して異なる値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル 8 ではウィリーの発生を防止し、ウィリーが発生するとそれを制御するために最大限の介入を行います。熟練ライダー専用のレベル 1 ではウィリー防止を最小限にとどめ、ウィリーが発生した場合の制御も最小限に抑えられます。

### アンチロックブレーキシステム (ABS)

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。アンチロックブレーキシステム (ABS) は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。ABS は電子制御油圧システムです。ホイール上のセンサーから送られた信号をコントロールユニットが分析し、いずれかのホイールがロックしそうであることを検知すると、ブレーキ回路内の油圧を制御します。この場合には、ブレーキ回路内の油圧を低下させることでホイールを回転させ続け、路面とのグリップを最適に維持します。続いて、コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を戻してブレーキをかけます。問題が完全に解消されるまで、このサイクルを繰り返します。ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。フロントブレーキシステムとリアブレーキシステムの制御は別々に行われます。Hypermotard 950 と Hypermotard 950 SP が搭載する ABS は、設定レベルに応じた異なるストラテジーを適用して車輪がロックするのを防止するセーフティシステムです。ストラテジーのアクティブプレゼンスと介入レベルは選択レ

ベルに準じます。ABS には 3 通りの介入レベルが用意されており、それぞれライディングモードと連動しています。さらに、Hypermotard 950 と Hypermotard 950 SP が搭載する ABS は「コーナリング」機能を備えており、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。コーナリング機能は全 ABS レベルで作動します。ABS 設定レベルに応じて、リアホイールのリフトアップ制御を有効にでき、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。

### ドゥカティクイックシフト (DQS)

UP/DOWN 機能を備える DQS システムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。ペダルの作動機構に内蔵された双方向マイクロスイッチからな成り、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。システムは、ギアチェンジとシフトダウンで別々に作用します。

## 機能ボタン

1) コントロールボタン UP " ⇧ " (メニュー操作)
インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン " ⇧ "。

2) コントロールボタン DOWN " ⇩ " (メニュー操作)
インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン " ⇩ "。

3) フラッシャーランプ / LAP ボタン
フラッシャーランプ機能ボタンは LAP 機能に使用する場合もあります。

4) ターンインジケーター作動 / メニュー決定ボタン " ○ "
このボタンは通常ターンインジケーターの作動に使用しますが、メニュー決定 " ○ " にも使用します。

5) DRL ボタン (アクセサリー)
このボタンで DRL ライトを起動 / 解除します。

6) ハザードボタン
4 つのターンインジケーターの起動 / 解除に使用するボタン (ハザード機能)。

7) ロービーム / ハイビームライトボタン
このボタンでロービームライトとハイビームライトを起動 / 解除します。

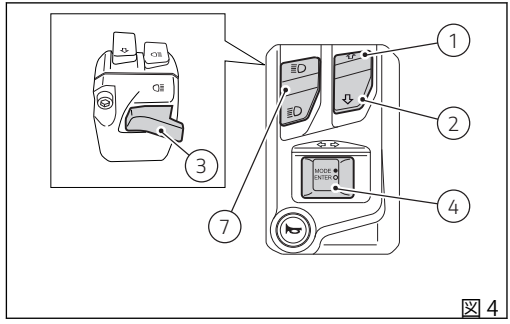


図 4

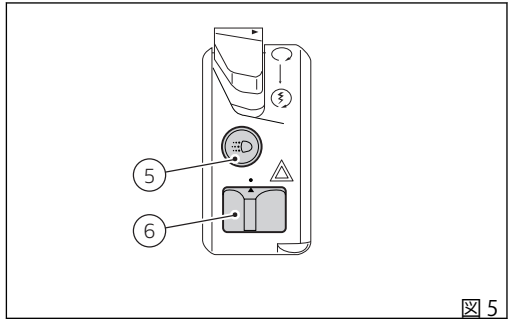


図 5

## パラメーターの表示

起動時、インストルメントパネルにDUCATIのロゴが表示され、LEDランプのチェックを順番に実行します。
点検終了時、インストルメントパネルにはKey-OFF前に使用していた設定モード(SPORT、TOURING、URBAN)のメイン画面が表示されます。

点検中に車両速度が10 km/h (6 mph) (実速度)を超えると、インストルメントパネルはランプとディスプレイの点検を直ちに中断し、メイン画面を表示します。

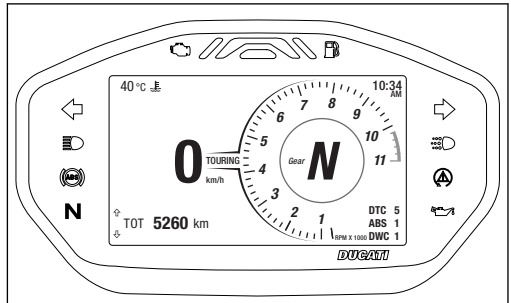


図 6

3 種類のメイン画面があり、それぞれの画面は対応する次のライディングモードに連動しています。
SPORT、TOURING、URBAN。
各画面は、ディスプレイ中央に表示されているライディングモード名と色、エンジン回転数グラフのフレームカラーが次のように異なります。

- ライディングモード SPORT は赤色 (A)
- ライディングモード TOURING の DAY モードはブラック、NIGHT モードはホワイト (ページ 122 を参照) (B)
- ライディングモード URBAN はグレー (C)

すべてのメイン画面には以下の情報が表示されます。

1) 車両スピード
2) エンジンクーラント温度
3) 設定ライディングモード (Riding Mode)
4) ギア表示
5) タコメーター
6) 時計
7) 設定ライディングモードに連動する値のパラメーター表示
8) 機能メニュー
9) ラップタイム (Lap) (起動時のみ)
10) Bluetooth 表示 (Bluetooth が搭載されており、起動している時のみ)

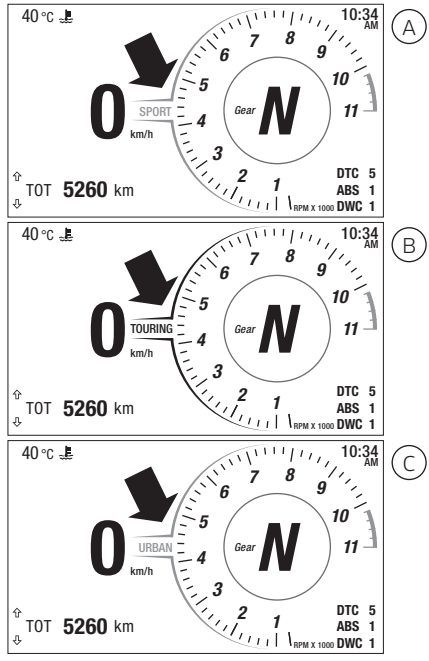
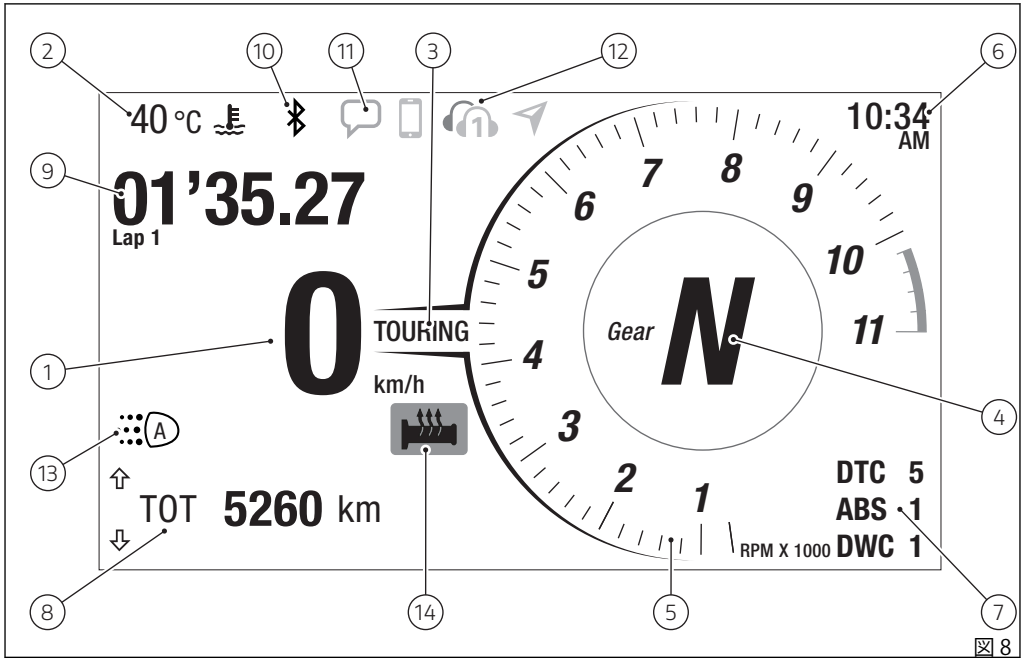



図 7

11) 不在着信、またはSMS / MMS / E メール受信表示 (Bluetooth が搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
12) 接続デバイス表示 (Bluetoothが搭載されており、起動している時のみ)
13) DRL (Auto、マニュアル、停止) / ロービームライト (点灯 / 消灯) の状態：このエリアは、DRL とロービームライトの表示灯が交互に表示されます (中国、カナダ、日本バージョンにはDRLは装備されません)。
14) ヒーテッドグリップ (装備している場合)

以下の機能が有効な時は、これらの詳細情報が表示されます。
- 注意 / 警告表示 (Warning)
- サイドスタンドの状態 (Side Stand)
- SERVICE 表示
- SERVICE カウントダウン表示



2
10
11
3
12
6
40 °C
10:34
AM
9
01'35.27
Lap 1
7
8
6
9
5
10
0
TOURING
Gear
N
11
1
4
km/h
4
A
3
13
2
DTC 5
ABS 1
TOT 5260 km
1
RPM X 1000
DWC 1
8
14
5
7

図 8

左側スイッチのボタン (1) またはボタン (2) を押すと、メイン画面にメニュー内の機能をスクロール表示することができます。

- オドメーター (TOT)
- トリップメーター 1 (TRIP 1)
- 平均燃費 1 (CONS.AVG 1)
- 平均スピード 1 (SPEED AVG 1)
- トリップタイム 1 (TRIP TIME 1)
- 外気温 (T AIR)
- 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)
- トリップメーター 2 (TRIP 2)
- 瞬間燃費 (CONS.)
- 音楽プレーヤー操作 (PLAYER OFF - PLAYER ON) – Bluetooth モジュールが搭載されており、少なくとも 1 台のスマートフォンが接続されている場合のみ
- 通話操作 (LAST CALLS) – Bluetooth モジュールが搭載されており、少なくとも 1 台のスマートフォンが接続されている場合のみ
- ヒーテッドグリップ (HEATING GRIPS) ー アクセサリー
- 設定メニュー (SETTING MENU)

各種機能がスクロール表示できる時は、メニューの右側に UP ⇧ および DOWN ⇩ 矢印が現れます。矢印はそれぞれ左側スイッチのボタン (1) とボタン (2) に相

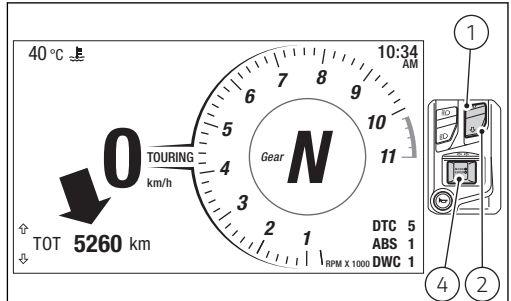


図 9

当します。丸印 O の表示は、左側スイッチのボタン (4) を押して表示する機能と統合できることを示します。例えばトリップメーター 1 (TRIP 1、 ページ 65) のリセットです。

インストルメントパネルには Key-OFF 時に使用していたメニューの設定が記憶されます。
次に Key-ON した時、インストルメントパネルのメニューに 10 秒間 "オドメーター" 機能が表示され、その後前回の Key-OFF 時に保存した機能が表示されます。この最初の 10 秒間にボタン (1) またはボタン (2) を押すと、オドメーター (TOT) の 10 秒間の強制表示が中止

され、前回のKey-OFF時に保存した機能が表示されます。

急なKey-OFF(電源供給が突然途絶えた)の場合、次のKey-ON時にインストルメントパネルはメニュー内にオドメーター(TOT)機能を表示します。

## 主な機能とサブ機能

スタンダードスクリーンに表示される機能
メイン機能

- 車両スピード
- エンジン回転数表示
- エンジンクーラント温度
- 時計
- ギア表示
- 設定ライディングモード (Riding Mode)
- 設定ライディングモードのパラメーター
  - DQS (アクセサリー)
  - DTC
  - ABS
  - DWC
- 機能メニュー：
  - オドメーター (TOT)
  - トリップメーター 1 (TRIP 1)
  - 平均燃費 1 (CONS.AVG 1)
  - 平均スピード 1 (SPEED AVG 1)
  - トリップタイム 1 (TRIP TIME 1)
  - 外気温 (T AIR)
  - 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)
  - トリップメーター 2 (TRIP 2)
  - 瞬間燃費 (CONS.)
  - 音楽プレーヤー操作 (PLAYER OFF - PLAYER ON) – Bluetooth モジュールが搭載されており、少なくとも 1 台のスマートフォンが接続されている場合のみ
  - 通話操作 (LAST CALLS) – Bluetooth モジュールが搭載されており、少なくとも 1 台のスマートフォンが接続されている場合のみ
  - ヒーテッドグリップ (HEATING GRIPS)
  - 設定メニュー (SETTING MENU)

設定メニューのうち以下の機能はユーザーによる変更が可能です。

- ライディングモードのパーソナライズ (Riding Mode)：このメニューから以下の変更が可能です。
  - エンジン設定 (Engine)
  - DTC 設定 (DTC)
  - ABS 設定 (ABS)
  - DWC 設定 (DWC)
  - DQS 設定 (DQS) - アクセサリー
  - 初期値の回復 (Default)
  - 全ライディングモードの初期値の回復 (All Default)
- PIN CODE の起動および変更 (Pin Code)
- ラップタイム (Lap)
- バックライトの調整 (Backlight)

- 日時の設定 (Date and Clock)
- 単位の設定 (Units)
- サービス情報 (Service)
- タイヤおよび減速比のキャリブレーション (Tire Calibration)
- DRL モード設定 ー アクセサリー (DRL Control)
- Bluetooth デバイス設定 ー アクセサリー (Bluetooth)
- ターンインジケーターのモード設定 (Turn indicators)
- 情報 (Info)

サブ機能
- インフォテインメント ー アクセサリー
- ラップタイム LAP
- メンテナンス表示 (SERVICE)
- Oil Service、Date Service、Desmo Service カウントダウン表示
- Oil Service、Date Service、Desmo Service 表示
- 注意および警告
- DRL AUTO / MANUAL 表示 ー アクセサリー
- サイドスタンドの状態表示
- エラー

## 車両速度表示

インストルメントパネルは車両の実速度 (km/h で算出) 情報を受信し、それに 5% 上乗せしたデータを設定した単位 (km/h または mph) で表示します。

以下の場合には 3 本の点線 "- - -" と単位が表示されます。

- スピード = 299 km/h (186 mph) の場合、またはインストルメントパネルがスピード情報を受信しない場合 ("- - -" 点灯)
- リアスピードセンサーに異常がある場合 ("- - -" 点滅)

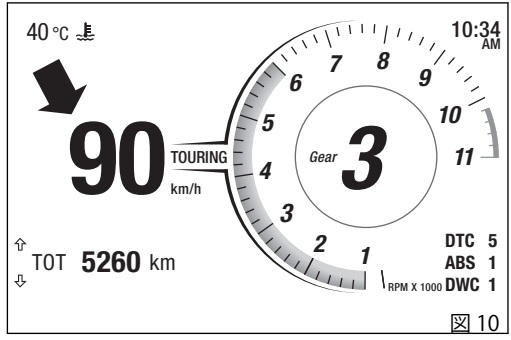


図 10

**参考**

インストルメントパネルが単位情報を受信できない場合は、最後に設定した単位を点滅表示します。

## ギア表示

インストルメントパネルは車両のギアに関する情報を受信し、ディスプレイにその値を表示します。
ギアが挿入されている時は 1 から 6 の値が表示され、ニュートラルの時は "N" の文字が表示され、ニュートラルランプ (ランプ 2、 図 3) が点灯します。

以下のような場合には線 "-" が表示されます。

- ギアの学習が実施されていない場合は、線 "-" とニュートラルランプ (ランプ 2、 図 3) が点滅します。
- ギアセンサーエラーの場合は、線 "-" が点灯し、ニュートラルランプ (ランプ 2、 図 3) が点滅します。
- インストルメントパネルがギアデータを受信できない時は、線 "-" が点滅します。

**参考**
線 "-" が点灯し、ニュートラルランプが消えている場合は、ギアが機械的に安定した位置にない可能性があります。その場合は、ギアが正しく表示されるまで、ギアを操作してください。

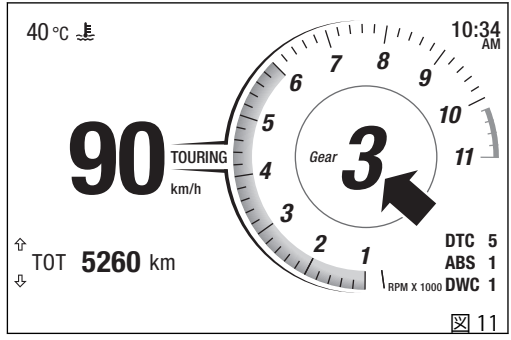


図 11

**参考**
エンジン回転数表示の軌跡が琥珀色に変わると、シフトアップするタイミングであることを示します。

## エンジン回転数表示

インストルメントパネルがエンジン回転数の情報を受信すると、そのデータをデジタルタコメーターでディスプレイに表示します。

エンジン回転数の軌跡は、DAY モードではグレー、NIGHT モードでは白色に表示されます。
エンジン回転数表示の軌跡が琥珀色に変わると、シフトアップするタイミングであることを示します。
リミッター (オーバーレブ) が作動すると、ランプ (12 および 13、 図 3) が点灯し、軌跡が赤色に点滅します。
回転数が 1,000 rpm を下回っている場合は、軌跡は表示されません。

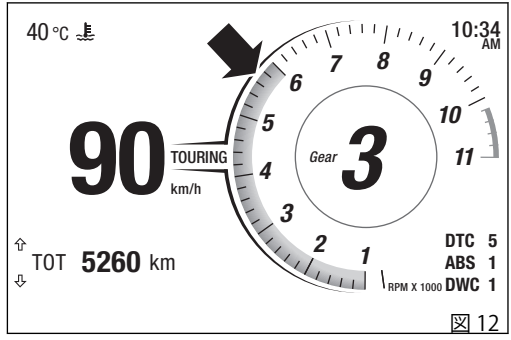


図 12

## DQS 表示 - アクセサリー

DQS が搭載されている場合、インストルメントパネルはディスプレイに DQS 機能の状態を以下のように表示します。

- DQS システムが起動している場合は、シフトチェンジを “DQS U/D” の文字で示します。
- DQS システムが機能制限モードにある場合は、シフトチェンジの “DQS U/D” の文字が点滅します。
- DQS システムエラーまたはコントロールユニットエラーの場合は、"DQS Err" の文字が赤色で表示されます。
- DQS システムが解除されている場合は、"DQS OFF" の文字で示されます。

UP/DOWN 機能を備える DQS システムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。
ペダルの作動機構に内蔵された双方向マイクロスイッチからな成り、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。
システムは、ギアチェンジとシフトダウンで別々に作用します。

この機能を最大限に活用するためのいくつかのヒントを以下に示します。

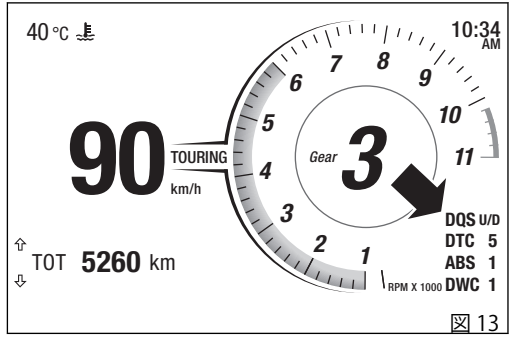


図 13

- ドゥカティクイックシフトでは、このシステムを搭載ない車両と同様にギアチェンジペダルの操作を必要とします。
  ドゥカティクイックシフトはギアチェンジを自動で行うためのシステムではありません。
- ギアをチェンジする時 (シフトアップまたはシフトダウン) は、ギアチェンジペダルを停止している位置からシフトしたい方向に動かしてください。その際、スプリングの反発力に抵抗してペダルを一定距離動かし、ギアが完全に締結されるまでその位置を維持してください。ギアチェンジが完了したら、ドゥカティクイックシフトで次のギ

アチェンジができるようにペダルを完全に放してください。ドゥカティクイックシフトのリクエスト時にギアチェンジペダルをストロークエンドまで確実に動かさないと、ギアが完全に入らない場合があります。
- クラッチレバーを操作する場合には、ドゥカティクイックシフトのアシストは作動しません。クラッチレバーを引いたとき、ドゥカティクイックシフトは起動しません。
- スロットルが完全に閉じている場合にのみ、ドゥカティクイックシフトはシフトダウンを実行します。
- 万一ドゥカティクイックシフトのストラテジーが作動しない場合でも、クラッチレバーを操作してギアチェンジを完了することができます。
- ギアチェンジペダルを上下いずれかの方向に 30 秒以上押し続けると (誤って操作した場合でも)、不正なエラーとしてコントロールユニットに記録され、ドゥカティクイックシフトの機能が停止することがあります。こうした場合にシステムを再起動するには、ペダルを放してインストルメントパネルを一旦切り、5 秒待ってからもう一度起動してください。
- ドゥカティクイックシフトは、エンジン回転数 2,500 rpm 以上で作動するように設計されています。
- ドゥカティクイックシフトを使ったシフトダウン機能は、すべてのギアにおいて定義された回転数の限界値以下でのみ作動します。これは、シフトダウンした時にエンジンの最高回転数を超えてしまうのを防ぐためです。

## DTC 表示

インストルメントパネルはディスプレイにDTC機能の状態を以下のように表示します。

- DTC が ON の場合、"DTC" の文字と設定介入レベル 1 から 8 までの数値。
- DTC が ON の時に機能制限モードである場合は、"DTC" の文字と 1 から 8 までの数値が点滅、さらに DTC/DWC ステータスランプ (ランプ 8、 図 3) が点滅します。
- DTC エラーの場合は、"DTC" の文字と "Err" の文字が赤色で表示され、さらに DTC/DWC ステータスランプ (ランプ 8、 図 3) が点灯します。
- DTC が OFF の場合は、"DTC" と "OFF" の文字が点灯、さらに DTC/DWC ステータスランプ (ランプ 8、 図 3) が点灯します。

**警告**

システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

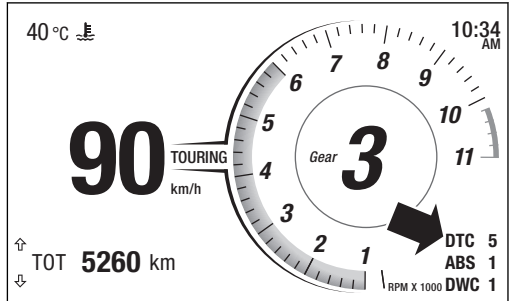


図 14

**警告**

DTCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時、サーキット走行時、オフロード走行時のすべてにおいて使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で

確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適したDTC介入レベルと、ユーザーが選択可能な"ライディングモード"のどれにデフォルト設定されているかを示します。

| DTC レベル | ライディングタイプ | 用途 | DEFAULT |
|---|---|---|---|
| OFF | | DTC システムは解除されています。 | NO |
| 1 | TRACK プロフェッショナル | 非常に熟練したライダー向けサーキットでの使用。スキッドします。 | NO |
| 2 | TRACK | 熟練ライダー向け一般道およびサーキットでの激しいスポーツライディング。 | NO |
| 3 | SPORT | 路上およびサーキット上で、スポーツライディング。 | ライディングモード"SPORT"のデフォルトレベル |
| 4 | TOURING | 郊外でのツーリング。 | ライディングモード"TOURING"のデフォルトレベル |
| 5 | CRUISE | 長距離ツーリング。 | NO |
| 6 | URBAN | 市街地のライディング。 | ライディングモード"URBAN"のデフォルトレベル |
| 7 | RAIN | 濡れた、あるいは湿った道路。 | NO |
| 8 | HEAVY RAIN | 強い雨で濡れた道路、あるいは非常に滑りやすいアスファルト。 | NO |

## レベルの選択に際しての注意事項

**警告**
お客様の車両のDTCシステムの8レベル調整は、車両に装着されている標準タイヤ(メーカー、モデル、サイズなどの特徴)によって決定されています。標準装備のタイヤと異なるサイズのタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を及ぼす可能性があります。

システムのキャリブレーションは次のタイヤ用に最適化されています。
- Pirelli Diablo Rosso III – フロント 120/70 ZR17、リア 180/55 ZR17
- Pirelli Supercorsa SP v3 – フロント 120/70 ZR17、リア 180/55 ZR17

標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるものの、サイズクラスが同じ(リア=180/55-17、フロント=120/70-17)など違いが僅かなタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルからより適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。
サイズクラスの異なるタイヤやサイズが大幅に異なるタイヤを着用する場合、システム機能が影響を受けることにより、選択可能な8レベルのいずれにおいても満足のいく結果が得られない可能性があります。この場合、システムを解除することをお勧めします。

レベル8を選択すると、DTCコントロールユニットはリアタイヤのわずかなスピンにも介入します。レベル8とレベル1の間には、その他に8つのレベルが存在します。
DTCの介入度はレベル8から1に向かい減少します。レベル1、2ではDTCコントロールユニットはリアタイヤにカーブ出口でのスピンおよびスリップを許容します。これらのレベルはサーキット内での使用および熟練者の使用時に設定することが推奨されます。

正しいレベルの選択は、3つの観点から行います。
1) グリップ(タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
2) レイアウト/行程(同じような、または全く異なったスピードでのカーブ)
3) ライディングスタイル(より"スムーズ"に、またはより"シャープ"に)

### グリップ状態からのレベル選択
正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況と密接に関係しています(後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイスを参照)。

### レイアウトタイプからのレベル選択
レイアウト/行程に均等な速度で走行するカーブがある場合、カーブごとに満足できる介入レベルを見つけることはとても簡単です。その反対に、他のカーブと比

較して特に緩いカーブがある場合は、より譲歩した介入レベルが必要になります (DTC はその他のカーブよりも緩いカーブでより介入しようとします)。

### ライディングスタイルからのレベル選択

カーブ出口で早めに車体を起こし "シャープ" に操縦する場合よりも、バイクを深く倒して "スムーズ" に操縦する場合に DTC はより介入を行う傾向があります。

### サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するため、タイヤを温める間の数周はレベル 6 に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを 5、4 と変えながら最適な DTC レベルに達するまで調整します (タイヤを温めるため、各レベルごとに数周します)。
過度な介入が起こる 1 つか 2 つの緩いカーブを除けば納得のいくレベルである場合、直ぐに介入レベルの変更を考える前に、緩いカーブ出口で早めに車体を起こすようにし、少し "シャープ" なライディングスタイルで走行してみてください。

### 一般道での使用時のアドバイス

DTC を起動した後、DTC 6 を選択し、好みのスタイルで運転します。DTC が介入しすぎると感じる場合は、DTC 5 を試します。このライディングモードでも介入しすぎると感じる場合には、DTC 4 を試します。どのレベルでも満足できない場合は、好みの介入レベルが見つかるまで上記の表を参考にし、レベル選択をすることが可能です。
グリップ状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更してもまだ設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します (例：レベル 7 では DTC が介入しすぎると感じる場合はレベル 6 に、レベル 7 では DTC の介入が全くないと感じる場合はレベル 8 に変更します)。

## ABS 表示

インストルメントパネルはディスプレイに ABS 機能の状態を以下のように表示します。

- "ABS" の文字と設定介入レベル 1 から 3 までの数値。
- システムの自己診断中は、“ABS” の文字と設定介入レベル、ABS ランプ (ランプ 10、図 3) が点滅します。
- 異常が発生したため ABS システムが機能制限モードにある場合は、"ABS" の文字と設定介入レベルの数値が点滅、さらに ABS ランプ (ランプ 10、 図 3) が点滅します。
- ABS エラーの場合は、"ABS" の文字と "Err" の文字が赤色で表示され、さらに ABS ランプ (ランプ 10、 図 3) が点灯します。

**警告**

システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

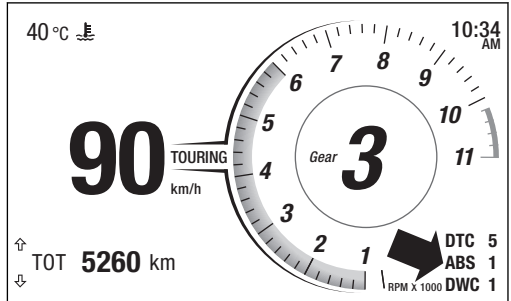


図 15

アンチロックブレーキシステム (ABS) は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABS は電子制御油圧システムです。ホイール上のセンサーから送られた信号をコントロールユニットが分析し、いずれかのホイールがロックしそうであることを検知すると、ブレーキ回路内の油圧を制御します。この場合には、ブレーキ回路内の油圧を低下させること

でホイールを回転させ続け、路面とのグリップを最適に維持します。

続いて、コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を戻してブレーキをかけます。問題が完全に解消されるまで、このサイクルを繰り返します。ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。フロントブレーキシステムとリアブレーキシステムの制御は別々に行われます。

Hypermotard 950 と Hypermotard 950 SP が搭載する ABS は、設定レベルに応じた異なるストラテジーを適用して車輪がロックするのを防止するセーフティシステムです。ストラテジーのアクティブプレゼンスと介入レベルは選択レベルに準じます。ABS には 3 通りの介入レベルが用意されており、それぞれライディングモードと連動しています。

さらに、Hypermotard 950 と Hypermotard 950 SP が搭載する ABS は「コーナリング」機能を備えており、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。コーナリング機能は全 ABS レベルで作動します。

ABS 設定レベルに応じて、リアホイールのリフトアップ制御を有効にでき、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。

ABS のレベル 1 では、さらに「ブレーキング時のスライド制御」が作動します。一定の起動条件下で、ライダーの安全を最大限に確保しながらも、ABS システムは車両のヨーイングまたはスライドを可能にするリアの大幅なスリップを許可し、コーナーに高速で進入できるようにします。フロントブレーキを激しくかけている時に、リアブレーキも操作した場合にこのコントロールが作動します。このシステムの作動中、リーンアングルに応じて安全なレベル内に維持するため、ABS は車両のスリップまたはスライドレベルを監視します。車両のスリップまたはスライドレベルが高くなりすぎると、ABS は通常機能に戻り車両を再調整して安全を確保します。

**警告**

2つあるブレーキコマンドの片方だけを使用すると、車両のブレーキ性能が低下します。

2つあるブレーキコマンドの片方だけを使用すると、車両のブレーキ性能は一部しか発揮されません。

急激に過度の力を掛けてブレーキコマンドを操作しないでください。後輪が浮き上がり(リフトアップ)、車両のコントロールを失うおそれがあります。

雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。

規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

下記の表は、各ライディングタイプに適したABSレベルと、ユーザーが選択可能な"ライディングモード"のどれにデフォルト設定されているかを示します。

| ABSレベル | ライディングタイプ | 特徴 | DEFAULT |
|---|---|---|---|
| 1 | TRACK | このレベルは熟練したライダー向けに設計されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用し、コーナリング機能が作動します。リフトアップ制御機能は作動しません。このレベルでは「ブレーキング時のスライド制御」も作動します。制動力を優先するこのレベルは、ブレーキ性能を最大限に引き出すことができるライダーのために設計されています。 | NO |
| 2 | SPORT | このレベルはグリップの良い路面での走行用に設計されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用し、コーナリング機能およびリフトアップ制御機能が作動します。このキャリブレーションにおいてはブレーキ力が優先され、同時に制動時の高い安定性とリフトアップ制御を確保します。 | ライディングモード"SPORT"のデフォルトレベル |

| ABS レベル | ライディングタイプ | 特徴 | DEFAULT |
|---|---|---|---|
| 3 | ALL/URBAN/WET CONDITION | このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、安全かつ安定したブレーキングを可能にするよう設定されています。このレベルでは、ABS は両方のホイールに作用し、コーナリング機能およびリフトアップ制御機能が作動します。 | ライディングモード "TOURING" および "URBAN" のデフォルトレベル |

レベルの選択に際しての注意事項

**警告**

選択可能な全レベルにおいて、標準装備のブレーキシステムおよび標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、ABS システムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ：
– Hypermotard 950 フロント 120/70 ZR17 M/C (58W) Pirelli Diablo Rosso III - リア 180/55 ZR17 M/C (73W) Pirelli Diablo Rosso III
– Hypermotard 950 SP フロント 120/70 ZR17 M/C (58W) Pirelli Supercorsa SP - リア 180/55 ZR17 M/C (73W) Pirelli Supercorsa SP

標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低下することがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。
レベル 3 を選択すると、ABS システムは非常に安定したブレーキングとリフトアップ制御を行い、コーナリング機能によりカーブ走行時を含むあらゆるブレーキングにおいて高い車体安定性を維持します。
レベル 2 を選択すると、ABS システムはより制動力を優先させ、同時に最適なリフトアップ制御を維持します。レベル 2 では ABS コーナリング機能が作動します。
ABS システムのレベル 1 は熟練ライダー向けに開発されています。このレベルでは制動力が最も重視され、安定性とリフトアップ制御は損なわれます。ただし、コーナリング機能は作動します。また、レベル 1 では「ブレーキング時のスライド制御」機能が作動します (このレベルでのみ利用できます)。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。
- タイヤ/路面のグリップ (タイヤタイプ、タイヤの磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)。
- ライダーの経験と感覚：熟練ライダーは制動距離を最小限に抑えるためリフトアップを制御することができますが、経験の少ないライダーには、急なブレーキングでも車体の安定性が維持できるようレベル 3 の使用が推奨されます。

## DWC 表示

インストルメントパネルはディスプレイに DWC 機能の状態を以下のように表示します。

- DWC が ON の場合、"DWC" の文字と設定介入レベル 1 から 8 までの数値。
- DWC が ON の時に機能制限モードである場合は、"DWC" の文字と数値が点滅、さらに DTC/DWC ステータスランプ (ランプ 8、 図 3) が点滅します。
- DWC エラーの場合は、"DTC" の文字と "Err" の文字が赤色で表示され、さらに DTC/DWC ステータスランプ (ランプ 8、 図 3) が点灯します。
- DWC が OFF の場合、"DWC" と "OFF" の文字。

**警告**

システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

**参考**

DTC が OFF に設定されている場合は、DWC も強制的に OFF に設定されます。

ドゥカティウィリーコントロール (DWC) はウィリー制御を行い、8 つの介入レベルを基に機能します。各レベルでウィリーの制御に対して異なる値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル 8 ではウィリーの発生を防止し、ウィリーが発生するとそれを制御するために最大限の介入を行います。熟練ライダー専用のレベル 1 ではウィリー防止を最小限にとどめ、ウィリーが発生した場合の制御も最小限に抑えられます。

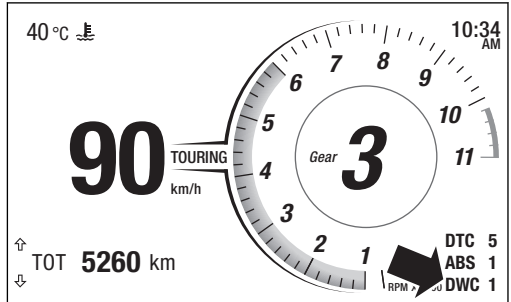


図 16

**警告**

DWC はライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサーキット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適したDWC介入レベルと、ユーザーが選択可能な"ライディングモード"のどれにデフォルト設定されているかを示します。

| DWC レベル | 用途 | | DEFAULT |
|---|---|---|---|
| OFF | | DWC システム解除 | NO |
| 1 | HIGH PERFORMANCE | 熟練ライダー向けストリートおよびサーキットでの使用。ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。 | NO |
| 2 | PERFORMANCE | 熟練ライダー向けストリートおよびサーキットでの使用。ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。 | NO |
| 3 | SPORTIVE | 熟練ライダー向けサーキットおよびストリートでの使用。システムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には介入を行います。 | ライディングモード"SPORT"のデフォルトレベル |
| 4 | SPORTIVE | すべてのライダー向け、サーキットおよびストリートでの使用。システムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には介入を行います。 | NO |

| DWC レベル | 用途 | | DEFAULT |
|---|---|---|---|
| 5 | SAFE & STABLE | すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。 | ライディングモード "TOURING" のデフォルトレベル |
| 6 | SAFE & STABLE | すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。 | ライディングモード "URBAN" のデフォルトレベル |
| 7 | HIGH SAFE & STABLE | すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。 | NO |
| 8 | HIGH SAFE & STABLE | すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を最小限に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。 | NO |

## レベルの選択に際しての注意事項

**警告**
選択可能な全レベルにおいて、標準装備の最終減速比および標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、DWCシステムの最適な動作が保証されるものです。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

DWCのレベル8を選択すると、システムはウィリーが発生する傾向を最小限に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。レベル8からレベル1の順にDWCシステムの介入レベルが小さくなります。レベル1、2、3ではウィリーをしやすくなっていますが、同時にウィリー時の減速を行います。これらのレベルの使用は、自らウィリーを制御することができる熟練ライダーがサーキットで使用する場合にのみ推奨されます。その場合システムはウィリーの発生を助けるというよりも、ウィリーが発生する速度を抑えることでライダーを補助します。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。
- ライダーの経験
- レイアウト/行程(低速ギアでの立ち上がり、もしうは高速ギアでの立ち上がり)

### ライダーの経験
使用するレベルはウィリーを自ら制御するライダーの経験度と密接に関連しています。レベル1、2、3を適切に利用するためには高い能力が求められます。

### レイアウトタイプからのレベル選択
レイアウト/行程に低速ギアで立ち上がる速度の低いカーブが存在する場合、より低いレベルを選択する必要があります。逆に高速サーキットなどではより高いレベルを選択することが可能です。

### サーキットでの使用時のアドバイス
システムの作動特性を理解するため、最初の数周はレベル8に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを7、6と変えながら最適なDWCレベルに達するまで調整します(タイヤを温めるため、各レベルごとに数周します)。

### 一般道での使用時のアドバイス
DWCを起動した後、レベル8を選択し、好みのスタイルで運転します。DWCが介入しすぎると感じる場合は、レベルを7、6と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。行程タイプが変化したため設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整し

ます(例：レベル7ではDWCが介入しすぎると感じる場合はレベル6に、レベル7ではDWCの介入が全くないと感じる場合はレベル8に変更します)。

## 時計

インストルメントパネルは時間を次のように表示します。

- AM (12:00 から 11:59) または PM (12:00 から 11:59)。
- hh (時間) : mm (分)

電源供給が中断された場合 (Battery OFF) は、次回の Key-ON 時に 4 本の点線 "--:--" が表示されます。設定メニューから時計が設定されるまで “A.M.” の文字が点灯して中央のコロンが点滅します。

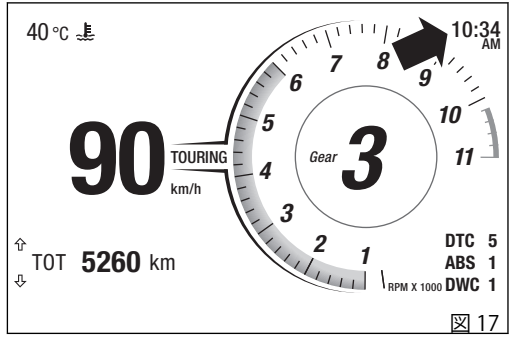



図 17

## エンジンクーラント温度

インストルメントパネルは、エンジンクーラント温度と設定単位(° C または ° F)、エンジン温度マークをディスプレイに表示します。
エンジン温度の表示範囲は 40 ° C ～ +120 ° C (+104 ° F ～ +248 ° F) です。
データが以下の場合：

- -40 ° C (-40 ° F) 以下の場合、3 本の点線 "- - -" が点滅表示されます。
- -39 ° C (-38 ° F) ～ +39 ° C (+102 ° F) の場合、" LO" の文字が点灯します。
- +40 ° C (+104 ° F) ～ +120 ° C (+248 ° F) の場合、データが固定表示されます。
- +121 ° C (+250 ° F) 以上の場合、"HI" の文字が点滅表示されます。

クーラント温度センサーエラーの場合、設定単位と共に 3 本の点線 "- - -" が点滅表示されます。
インストルメントパネルがクーラント温度のデータを受信しない場合、単位と共に "- - -" が固定表示されます。

**参考**
インストルメントパネルが単位情報を受信できない場合は、デフォルト単位を点滅表示します。

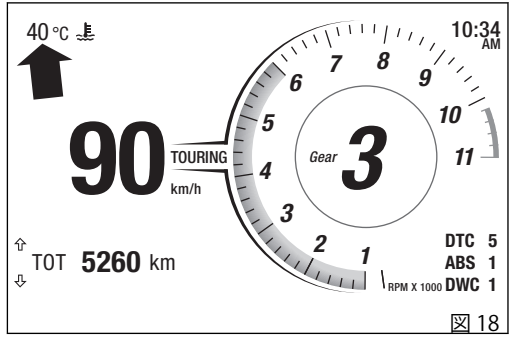


図 18

## ライディングモード

インストルメントパネルから好みのライディングモードを選択することが可能です。あらかじめ設定された3通りのライディングモードは SPORT、TOURING、URBAN。
選択、設定されたライディングモードが、ディスプレイ中央の速度とタコメーターの間に表示されます。

各ライディングモードは専用の画面と連動しています。各画面は、ディスプレイ中央に表示されているライディングモード名と色、エンジン回転数グラフのフレームカラーが次のように異なります。

- ライディングモード SPORT は赤色 (A)
- ライディングモード TOURING の DAY モードはブラック、NIGHT モードはホワイト (ページ 122 を参照) (B)
- ライディングモード URBAN はグレー (C)

それぞれのライディングモードにはドゥカティが以下の設定したパラメーター、またはユーザーが設定メニューページから変更したパラメーターが連動しています。

- DTC ドゥカティトラクションコントロールの介入レベル (1、2、3、4、5、6、7、8、OFF)
- ABS システムのキャリブレーション (1、2、3)

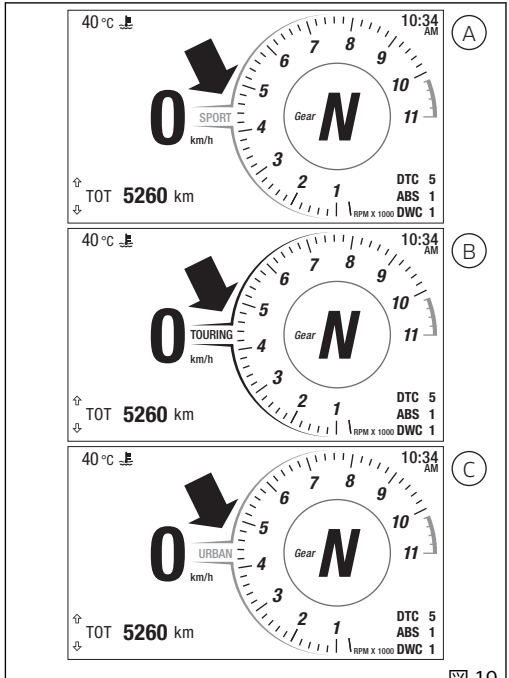



図 19

- APS (アクセルポジションセンサー) の挙動を変更する ENGINE エンジン出力 (HIGH、MEDIUM、LOW)
- DQS ドゥカティクイックシフト (装備している場合) のキャリブレーション (UP、DOWN、UP/DOWN、OFF) (BBS で有効な場合)
- DWC ドゥカティウィリーコントロールの介入レベル (1、2、3、4、5、6、7、8、OFF)

ライディングモード変更機能
この機能では、車両の静止時および走行時にライディングモードを変更することができます。次の3通りのライディングモードがあります。SPORT、TOURING、URBAN。
ライディングモードを選択するには、ボタン (4) を 1 秒間長押しする必要があります。
ディスプレイの右側に速度が表示されたまま、ディスプレイの左側に以下のリストが表示されます。
- < Exit
- SPORT
- TOURING
- URBAN
- < Exit

この機能に入ると、現在設定されているライディングモードが強調表示されます。
ボタン (1) とボタン (2) を使用して、リスト内の項目をスクロールすることができます。
項目 "< Exit" を選択してボタン (4) を押すと、インストルメントパネルはライディングモードを変更せずに機能を終了します。
ライディングモードをスクロールしていくと、選択しているライディングモードのパラメーターと現在設定されている値が画面中央に表示されます。表示される

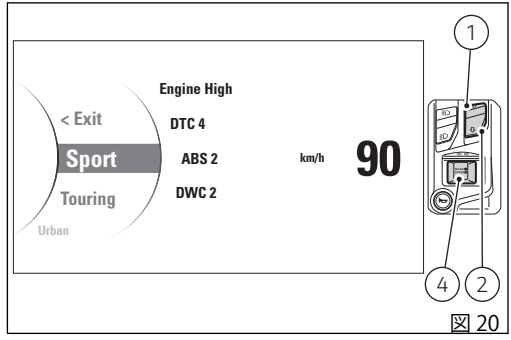


図 20

パラメーターは、Engine、DTC、ABS、DWC、DQS (装備している場合) です。
選択したライディングモードの設定を行うには、ボタン (4) を押します。

走行速度 5 km/h (3 mph) 以下の時、インストルメントパネルはスロットルグリップの位置だけを点検します。

- スロットルグリップが閉じている場合、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認します。ライディングモード名が 3 秒間点滅してから、スタンダードスクリーンに戻ります。
- スロットルグリップが開いている場合、インストルメントパネルは “Close throttle” (スロットルを閉じてください) (A) と表示します。スロットルグリップが閉じられた場合にのみ、選択したライディングモードを承認し、スタンダードスクリーンに戻ります。

走行速度が 5 km/h (3 mph) を超えている場合、インストルメントパネルはスロットルグリップ位置、フロントブレーキおよびリアブレーキの圧力を確認します。

- スロットルグリップが閉じており、ブレーキがかかっていない場合、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認します。ライディングモード名が 3 秒間点滅してから、スタンダードスクリーンに戻ります。
- スロットルグリップが開いている場合、インストルメントパネルは “Close throttle” (スロットルを閉じてください) (A) と表示します。スロットルグ

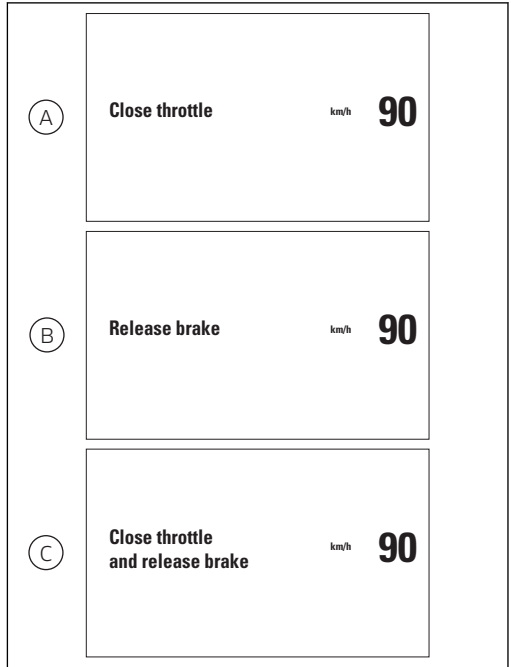


図 21

リップが閉じられた場合にのみ、選択したライディングモードを承認し、スタンダードスクリーンに戻ります。

- スロットルグリップが閉じているもののブレーキがかかっている場合、“Release brakes” (ブレーキを放してください) (B) と表示します。ブレーキが放された場合にのみ、選択したライディングモードを承認し、スタンダードスクリーンに戻ります。
- スロットルグリップが開いている、あるいはブレーキがかかっている状態で車両が動いている場合、インストルメントパネルは "Close throttle and release brakes" (スロットルを閉じてブレーキを放してください) (C) と表示します。すべての条件が確認された場合にのみ (ガスグリップが閉じており、ブレーキがかかっていないか車両が停止している)、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認し、スタンダードスクリーンに戻ります。

“Close throttle”、“Release brakes” または “Close throttle and release brakes” の表示が現れてから 5 秒以内にライディングモード変更を有効にする上記の条件が満たされなかった場合は、選択手順は中止されます。インストルメントパネルは設定を変更せずに前の表示、ライディングモード選択入口画面に戻ります。

## 機能メニュー

左側スイッチのボタン (1) またはボタン (2) を押すと、メイン画面にメニュー内の機能をスクロール表示することができます。

メニューには以下の機能が表示されます。

- オドメーター (TOT)
- トリップメーター 1 (TRIP 1)
- 平均燃費 1 (CONS.AVG 1)
- 平均スピード 1 (SPEED AVG 1)
- トリップタイム 1 (TRIP TIME 1)
- 外気温 (T AIR)
- 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)
- トリップメーター 2 (TRIP 2)
- 瞬間燃費 (CONS.)
- 音楽プレーヤー操作 (PLAYER OFF - PLAYER ON) ー アクセサリー、Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ
- 通話操作 (LAST CALLS) ー アクセサリー、Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ
- ヒーテッドグリップ (HEATING GRIPS) ー アクセサリー
- 設定メニュー (SETTING MENU)

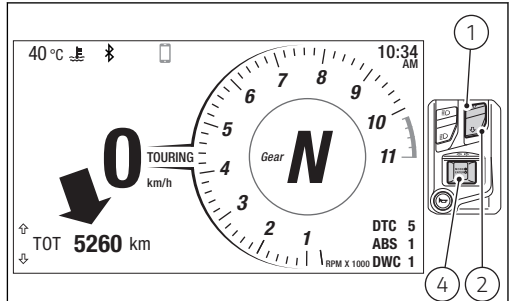


図 22

各種機能がスクロール表示できる時は、メニューの左側に UP ⇧ および DOWN ⇩ 矢印が現れます。矢印はそれぞれ左側スイッチのボタン (1) とボタン (2) に相当します。丸印 O の表示は、左側スイッチのボタン (4) を押して表示された機能を操作できることを示します。例えばトリップメーター 1 (TRIP 1、ページ 65) のリセットです。

## オドメーター (TOT)

オドメーターは車両の総走行距離を設定単位 (キロまたはマイル) でカウント、表示します。
オドメーターに対応する数値 (キロ またはマイル) は、"TOT" の文字と単位で表示されます。最大値 (199999 km または 199999 mi) に達するとインストルメントパネルにその値が表示されたままになります。
オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットすることはできません。

電源の供給が中断 (バッテリー OFF) してもデータは消去されません。

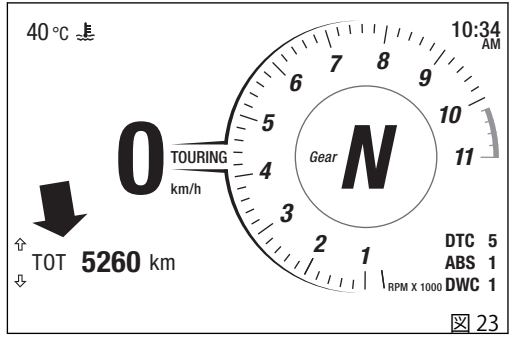


図 23

**参考**
オドメーター機能で点線 " ----- " が点滅表示される場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

**参考**
インストルメントパネルを起動すると、この機能が 10 秒間表示され、その後インストルメントパネル停止前に設定されていた機能に戻ります。

## トリップメーター 1 (TRIP 1)

トリップメーター 1 は車両の部分走行距離を設定単位 (キロまたはマイル) でカウント、表示します。
TRIP 1 の値 (キロまたはマイル) は、"TRIP 1" の文字と単位で表示されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

TRIP 1 (TRIP 1) は、平均燃費 1 (CONS. AVG 1)、平均スピード 1 (SPEED AVG 1)、トリップタイム 1 (TRIP TIME 1) の算出に使用されます。

ボタン (4) を押すと、TRIP 1 がリセットされます。

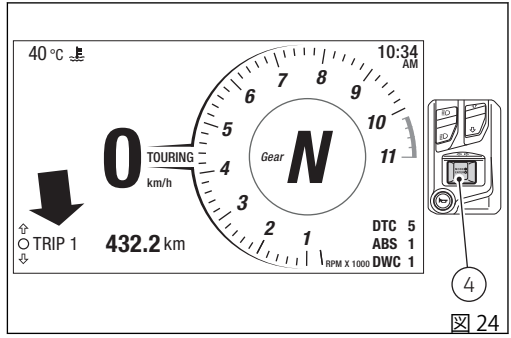


図 24

TRIP 1 のリセット
トリップメーターの表示中にボタン (4) を押すと、インストルメントパネルに "RESET ?" (リセットしますか) の文字が表示されます。
ボタン (1) またはボタン (2) を押すと、データをリセットせずにトリップメーターの表示に戻ります。
一方、ボタン (4) を押した場合は、TRIP 1 のデータがリセットされます。インストルメントパネルは “0.0” と設定単位の表示に戻ります。

**参考**
TRIP 1 がリセットされると、平均燃費 1 (CONS. AVG 1)、平均スピード 1 (SPEED AVG 1)、トリップタイム 1 (TRIP TIME 1) のデータもリセットされます。

以下のような場合には、TRIP 1 カウンターが自動的にリセットされます。
- 平均燃費 1 (CONS. AVG 1) がリセットされた時
- トリップタイム 1 (TRIP TIME 1) がリセットされた時
- 電源供給が中断された時 (Battery Off)
- 設定メニューからシステムの測定単位を手動で変更した場合

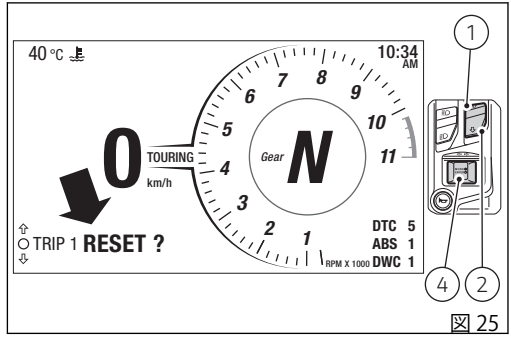


図 25

## 平均燃費 1 (CONS.AVG 1)

この機能では、最後にトリップメーター 1 (TRIP 1) をリセットしてから算出された平均燃費を表示します。平均燃費は “CONS. AVG 1” の文字と共に単位 (km/L、L/100 km または mpg UK、mpg USA) で表示されます。

TRIP 1 がリセットされるとデータがリセットされ、最初の数値はリセットから 10 秒後に表示されます。数値が表示されない最初の 10 秒間は点線 “- - -.-" が平均燃費の値として表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます。車両が停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません。

ボタン (4) を押すと、CONS.AVG 1 がリセットされます。

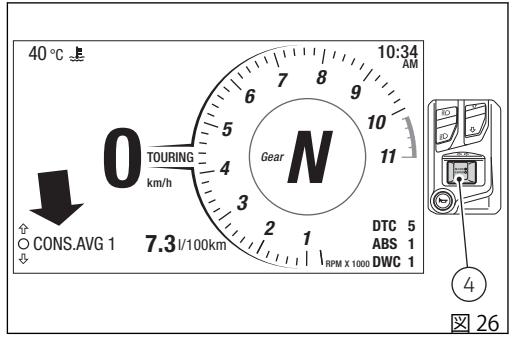


図 26

CONS.AVG 1 のリセット
平均燃費の表示中にボタン (4) を押すと、データと単位の代わりに "RESET ?" (リセットしますか) と表示されます。
ボタン (1) またはボタン (2) を押すと、データをリセットせずに平均燃費の表示に戻ります。
一方ボタン (4) を押すと、平均燃費がリセットされ、数値が表示されない最初の 10 秒間は点線 "- - - .-" が設定単位と共に表示されます。

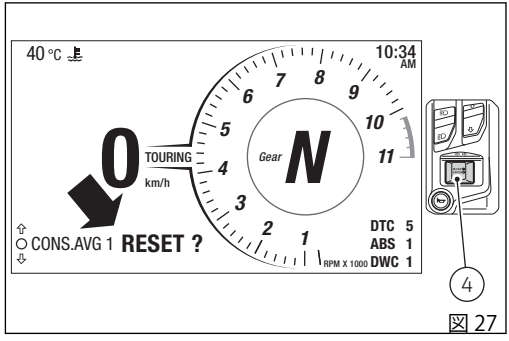


図 27

**参考**
CONS.AVG 1 がリセットされると、トリップメーター 1 (TRIP 1)、平均スピード 1 (SPEED AVG 1)、トリップタイム 1 (TRIP TIME 1) のデータもリセットされます。

以下のような場合には、CONS. AVG 1 のデータが自動的にリセットされます。
- トリップメーター 1 (TRIP 1) がリセットされた時
- トリップタイム (TRIP TIME 1) がリセットされた時
- 電源供給が中断された時 (Battery Off)
- 設定メニューからシステムの測定単位を手動で変更した場合

## 平均スピード 1 (SPEED AVG 1)

この機能では、最後にトリップメーター 1 (TRIP 1) をリセットしてから算出された平均スピードを表示します。
車両の平均スピードは “SPEED AVG.1” の文字、単位 (km/h または mph) と一緒に表示されます。
平均スピードは車両スピードの表示と同様に、実速度に 5 %上乗せした値が表示されます。

TRIP 1 がリセットされるとデータがリセットされ、最初の数値はリセットから 10 秒後に表示されます。数値が表示されない最初の 10 秒間は点線 "- - -" が平均スピードの値として表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます。車両が停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません。

ボタン (4) を押すと、SPEED AVG 1 がリセットされます。

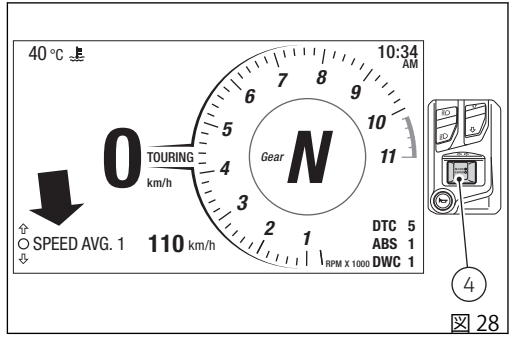


図 28

SPEED AVG.1 のリセット
平均スピードの表示中にボタン (4) を押すと、データと単位の代わりに "RESET ?" (リセットしますか) と表示されます。
ボタン (1) またはボタン (2) を押すと、データをリセットせずに平均スピードの表示に戻ります。
一方ボタン (4) を押すと、平均スピードがリセットされ、数値が表示されない最初の 10 秒間は点線 "---" と設定単位が表示されます。

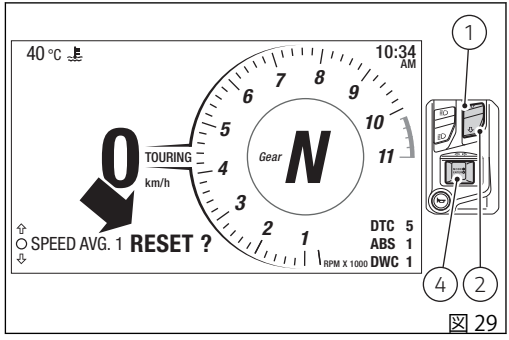


図 29

**参考**
SPEED AVG.1 のデータがリセットされると、トリップメーター 1 (TRIP 1)、平均燃費 1 (CONS. AVG 1)、トリップタイム 1 (TRIP TIME 1) のデータもリセットされます。

SPEED AVG.1 のカウンターは、以下のような場合に自動的にリセットされます。
- トリップメーター 1 (TRIP 1) がリセットされた時
- トリップタイム (TRIP 1 TIME) がリセットされた時
- 平均燃費 (CONS. AVG 1) がリセットされた時
- 電源供給が中断された時 (Battery Off)
- 設定メニューからシステムの測定単位を手動で変更した場合

## トリップタイム 1 (TRIP TIME 1)

インストルメントパネルは、最後にトリップメーター 1 (TRIP 1) をリセットしてから算出された走行時間を表示します。
"hhh:mm" 形式のデータを "TRIP 1" の文字と共に表示します。

車両が停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます停車中でエンジンが停止している時間は自動的に止まり、エンジンが作動すると自動的に時間計測を再開します。
表示時間が "511:00" (511 時間 00 分) を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

ボタン (4) を押すと、TRIP TIME 1 がリセットされます。

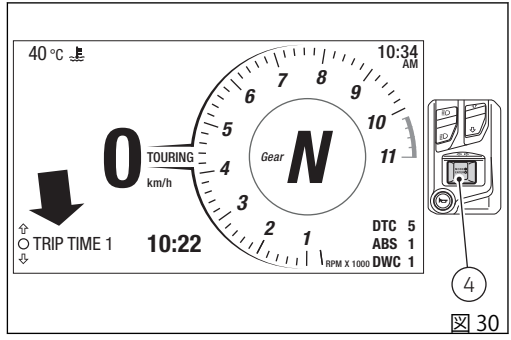


図 30

TRIP TIME 1 のリセット
トリップタイムの表示中にボタン (4) を押すと、日付の代わりに "RESET ?" (リセットしますか) と表示されます。
ボタン (1) またはボタン (2) を押すと、データをリセットせずにトリップタイムの表示に戻ります。
一方ボタン (4) を押した場合は、トリップタイムのデータがリセットされます。インストルメントパネルは TRIP TIME 1 の表示に戻り、“0:00” を表示します。

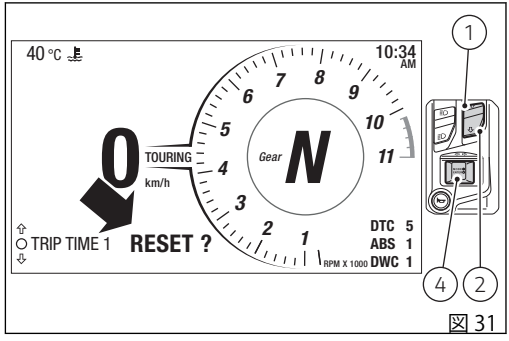


図 31

**参考**
TRIP TIME 1 がリセットされると、トリップメーター 1 (TRIP 1)、平均スピード 1 (SPEED AVG 1)、平均燃費 1 (CONS. AVG 1) のデータもリセットされます。

以下のような場合には、CONS. AVG 1 カウンターが自動的にリセットされます。
- トリップメーター 1 (TRIP 1) がリセットされた時
- 平均燃費 (CONS. AVG 1) がリセットされた時
- 電源供給が中断された時 (Battery Off)
- 設定メニューからシステムの測定単位を手動で変更した場合

## 外気温 (T AIR)

インストルメントパネルは外気温を "T AIR" の文字と単位 (° C または ° F) で表示します。

温度データは -39° C～+124° C (-38° F～+255° F) の場合に表示されます。
温度が -39° C (-38° F) 未満あるいは +124° C (+255° F) を超える場合には 3 本の破線 "---" と単位が表示されます。

インストルメントパネルが気温のデータを受信しない場合、単位と共に 3 本の破線 "---" が固定表示されます。

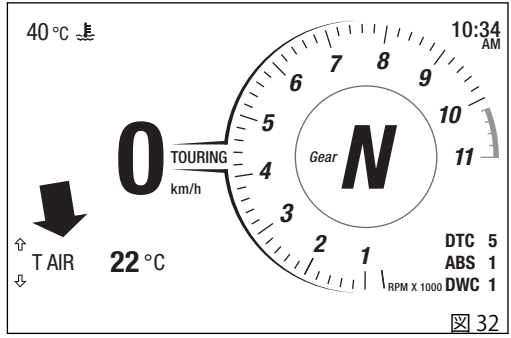


図 32

**参考**
エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

## 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)

機能メニューからこの機能を選択するには、ボタン (1) および (2) で機能をスクロールし、項目 "TRIP FUEL" を表示します。

燃料リザーブトリップメーターは、リザーブでの走行距離 (燃料リザーブランプ (ランプ 5、 図 3) が点灯した時点からの車両の走行距離) を設定単位 (キロまたはマイル) でカウント、表示します。
燃料リザーブランプ (ランプ 5、 図 3) が点灯すると、ディスプレイにその時点で表示されている機能に関係なく TRIP FUEL 機能が表示されます。その後、機能メニューの他の機能をスクロール表示することができます。
リザーブタンク使用の状態が続く場合は、Key-OFF 後もデータは記憶されます。カウンターはリザーブ状態でなくなった時点で自動的に中断されます。
TRIP FUEL に対応する数値 (キロまたはマイル) は、"TRIP FUEL" の文字と単位で表示されます。
データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。
TRIP FUEL 機能が起動していない場合は、機能メニュー内に対応する値を表示することはできません。

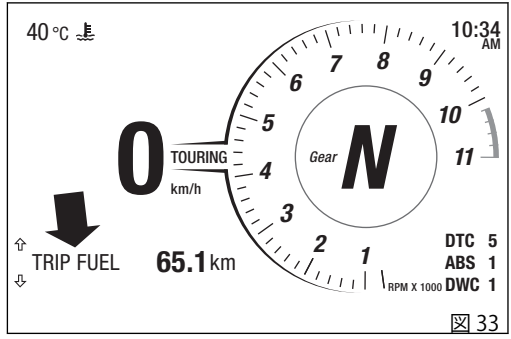


図 33

## トリップメーター 2 (TRIP 2)

トリップメーター 2 は車両の部分走行距離を設定単位 (キロまたはマイル) でカウント、表示します。
TRIP 2 の値 (キロまたはマイル) は、"TRIP 2" の文字と単位で表示されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

ボタン (4) を押すと、TRIP 2 がリセットされます。

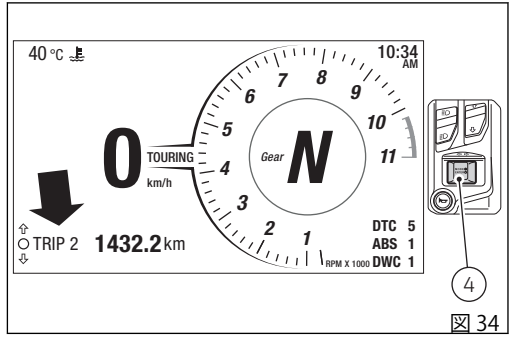


図 34

TRIP 2 のリセット
トリップメーターの表示中にボタン (4) を押すと、インストルメントパネルに "RESET ?" (リセットしますか) の文字が表示されます。
ボタン (1) またはボタン (2) を押すと、データをリセットせずにトリップメーターの表示に戻ります。
一方、ボタン (4) を押した場合は、TRIP 2 のデータがリセットされます。インストルメントパネルは “0.0” と設定単位の表示に戻ります。

以下のような場合には、TRIP 2 カウンターが自動的にリセットされます。
- 電源供給が中断された時 (Battery Off)
- 設定メニューからシステムの測定単位を手動で変更した場合

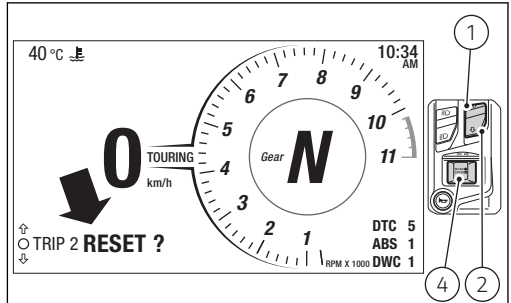


図 35

## 瞬間燃費 (CONS.)

インストルメントパネルは瞬間燃費を算出して表示します。
瞬間燃費は “CONS.” の文字と共に単位 (km/L、L/100 km または mpg UK、mpg USA) で表示されます。

数値はエンジンが作動しており車両が動いている場合にのみ計算されます (車両速度がゼロ、あるいはエンジン停止状態で車両が停車している間は計算されません)。
計算されていない時は、ディスプレイ上に 3 本の破線 " - - .- " が瞬間燃費として固定表示されます。

設定メニューから、燃費の単位を変更することができます (平均燃費、瞬間燃費を同時に変更)。

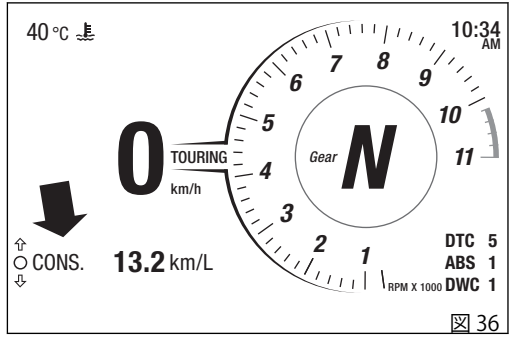


図 36

## 音楽プレーヤー操作 (PLAYER) ー アクセサリー

この機能は音楽プレーヤー操作を有効、無効にします。
Bluetooth コントロールユニットを搭載し、スマートフォンが接続されている場合にのみ利用できます。
機能を “OFF” または “ON” に設定します。

**重要**
インストルメントパネルに Bluetooth 接続しているスマートフォンの接続が切れたり電源が切れたりした場合は、「音楽プレーヤー操作 (PLAYER)」はメニューの機能リストには表示されません。スマートフォンがインストルメントパネルに Bluetooth 接続された時に、再び表示されます。

**参考**
スマートフォンの他にライダーヘルメットインターコムが接続されている場合は、音楽はヘルメットのイヤホンを通して再生されます。

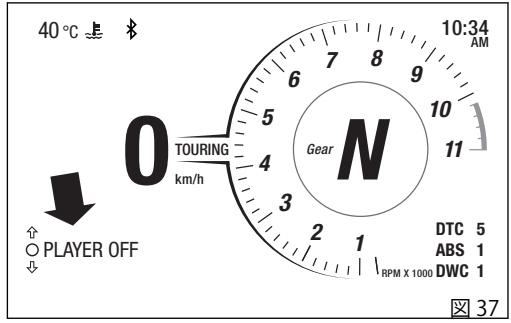


図 37

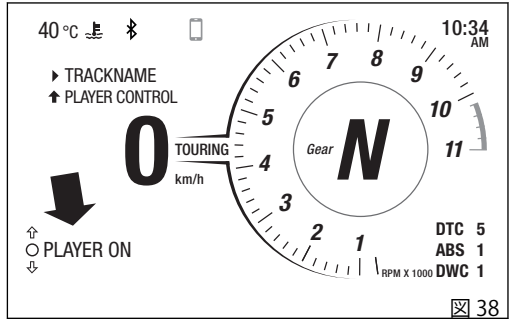


図 38

音楽プレーヤー操作の起動 (OFF から ON)
音楽プレーヤー操作が “OFF” に設定されている場合、ボタン (4) を押すとプレーヤー操作が起動します。音楽プレーヤー操作が起動中は、接続しているスマートフォンで再生中の曲のタイトル (A)、可能な操作 (B)、“EXIT” の表示とその前に下向きの黒色矢印 (C) がディスプレイに表示されます。

完全な曲名は一度だけ右から左にスクロールで表示され、その後は曲名の最初の数文字だけが表示されます。曲タイトルが利用できない場合は、“NOT AVAILABLE” の文字が表示されます。

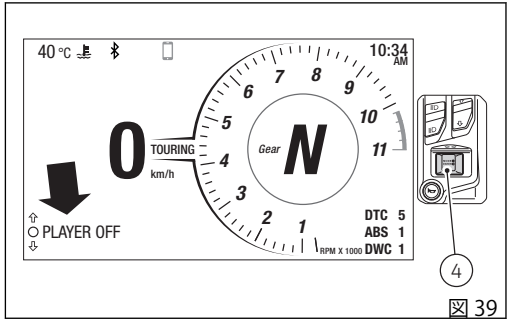


図 39

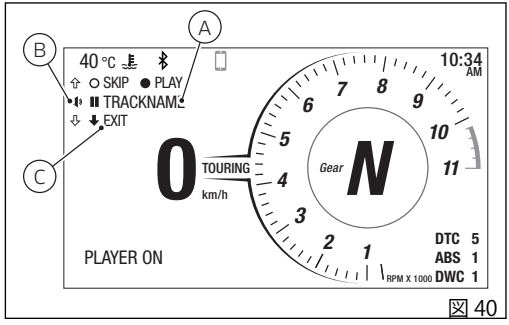


図 40

音楽プレーヤー操作

操作が起動している時、ボタン (1)、ボタン (2)、ボタン (4) は音楽プレーヤー操作専用ボタンになります。具体的には：

- 再生 / 一時停止：ボタン (4) を 2 秒間押します。
- “SKIP” (次の曲に移動)：ボタン (4) を短く押します。
- “+” (音量を上げる)：ボタン (1) を短く押します。ボタンを押している間は “+” マークが消えて、ボタンが押されたことを示します。
- “-” (音量を下げる)：ボタン (2) を短く押します。ボタンを押している間は “-” マークが消えて、ボタンが押されたことを示します。
- “EXIT” (音楽プレーヤー操作から出る)：ボタン (2) を 2 秒間押します。

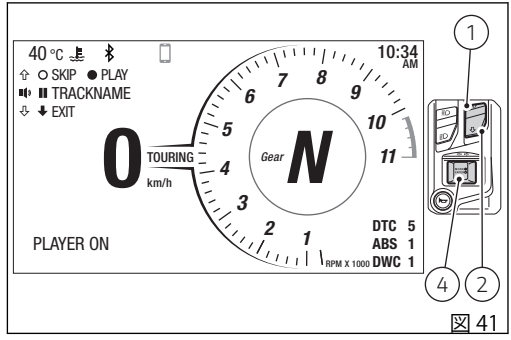


図 41

再生 / 一時停止

曲の一時停止中 (A) は、曲の左側にマーク " ⏸ "、上に黒色丸印 " ● "、横に "PLAY" が表示されます。これは、ボタン (4) を 2 秒間押して再生を再開できることを示します。

曲の再生中 (B) は、曲の左側にマーク " ▶ "、上に黒色丸印 " ● "、横に "PAUSE" が表示されます。これは、ボタン (4) を 2 秒間押して曲を一時停止できることを示します。

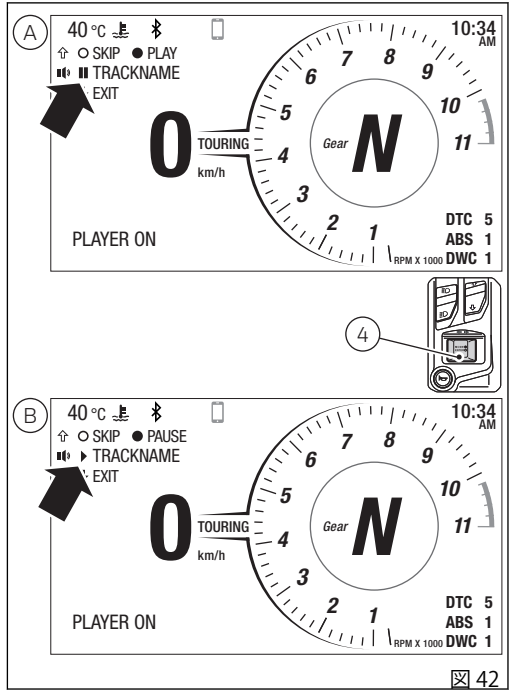



図 42

起動中の音楽プレーヤー操作から出る (ON)：
曲の再生中など音楽プレーヤーを起動したままプレーヤー操作から出るには (A)、ボタン (2) を 2 秒間押します。

これにより、ボタン (1)、ボタン (2)、ボタン (4) の機能が音楽プレーヤー操作ではなく、通常のインストルメントパネル操作に戻ります。

プレーヤーの起動中であれば、機能を変更しても (例：TRIP 1)、再生中の曲名はディスプレイに表示され続けます。

“音楽プレーヤー操作 (PLAYER)” 機能を起動すると、メニュー内に “PLAYER ON” の表示が現れます。再生中の曲の下には、黒色の上向き矢印と “PLAYER CONTROL” の文字が表示されます (B)。

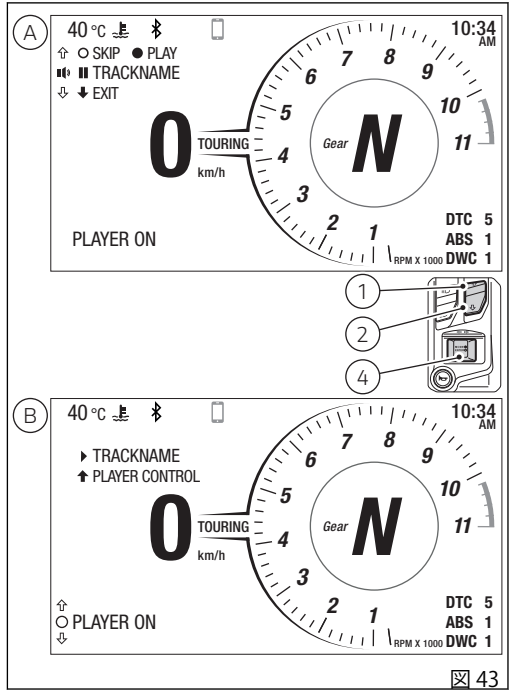


図 43

音楽プレーヤー操作に戻る (ON)：
音楽プレーヤーを起動した後で別の機能に切り替えるために一旦プレーヤー操作から出た場合、再び音楽プレーヤー操作に戻るには、メニューに “音楽プレーヤー操作 (PLAYER)” 機能を表示してから (A)、ボタン (1) を 2 秒間押してください。

音楽プレーヤー操作に再びアクセスすると、ボタン (1)、ボタン (2)、ボタン (4) は音楽プレーヤー操作専用ボタンに戻ります (B)。

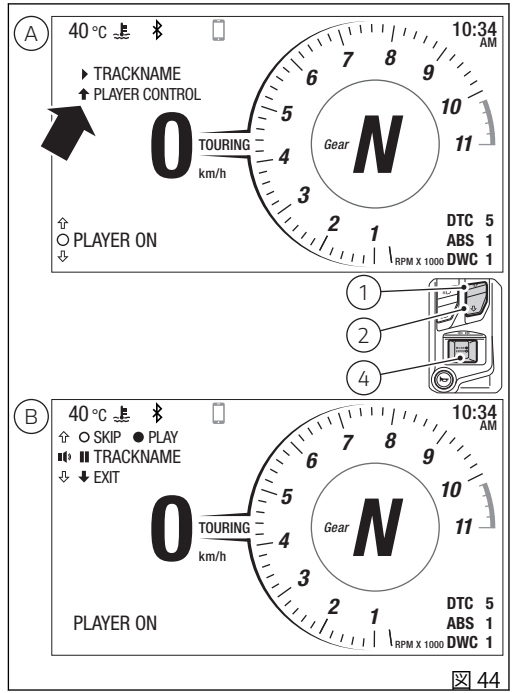


図 44

音楽プレーヤー操作の停止 (ON から OFF)：
音楽プレーヤー操作を “OFF” に設定するには、メニューから PLAYER を選択します。この場合、曲の再生中であっても再生が中止されます。
機能には “ON” の文字が表示されています (A)。この時点でボタン (4) を押します。

これで音楽プレーヤー操作が “OFF” に設定されます (B)。

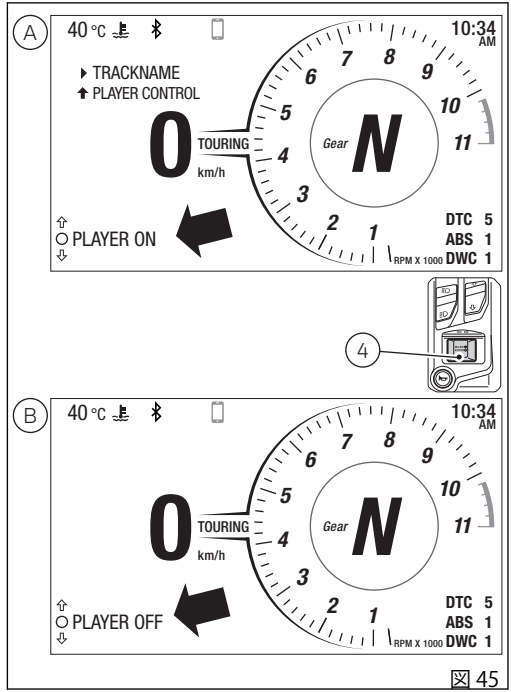


図 45

## 通話操作 (LAST CALLS) ー アクセサリー

この機能は不在着信、発信、着信の履歴を表示します。Bluetooth コントロールユニットを搭載し、スマートフォンが接続されている場合にのみ利用できます。

ボタン (4) を押して履歴一覧を表示します。
この機能に入ると、ディスプレイに “WAIT..” の文字が数秒間表示され、続いて最後の通話相手の名前と番号が表示されます (図 47)。

インストルメントパネルは、Bluetooth 接続されているスマートフォンから履歴一覧情報を直接受け取ります。
発信、受信、不在着信の履歴は最大7件まで表示されます。

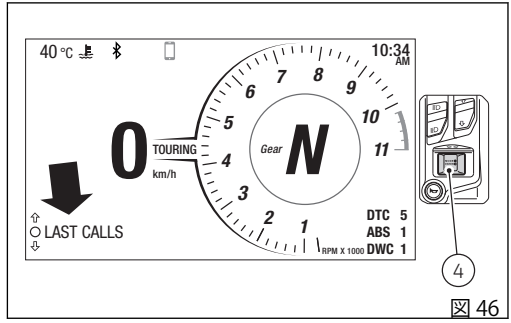


図 46

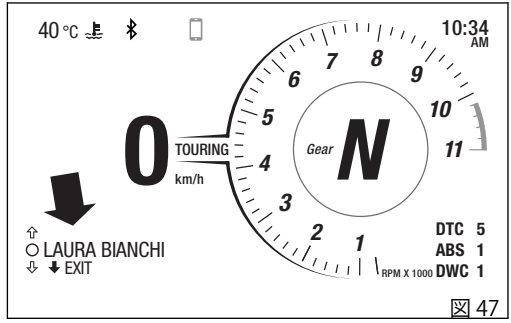


図 47

ボタン (1) とボタン (2) を使用して、通話一覧をスクロールすることができます。一覧から選択した電話番号 / 名前に発信するには、ボタン (4) を押します。詳しくは“インフォテインメント – アクセサリー” (ページ 156) を参照してください。

通話履歴が何もない場合は、ディスプレイに "EMPTY" の文字が表示されます (図 49)。この場合は機能を終了します。

機能を終了して前の画面に戻るには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

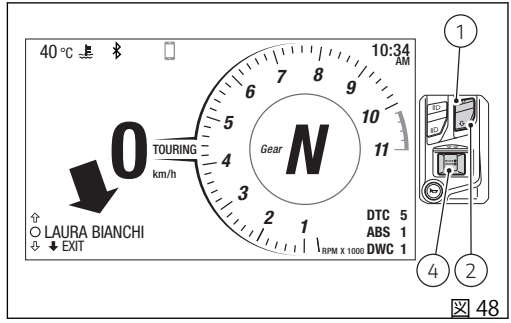


図 48

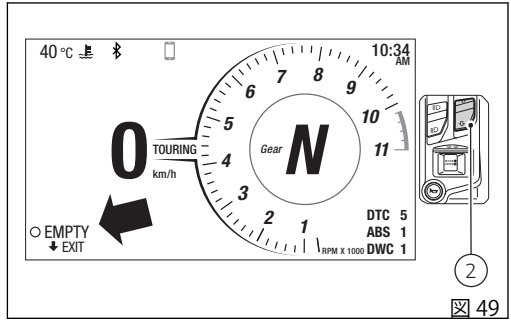


図 49

## ヒーテッドグリップ (HEATING GRIPS) ー アクセサリー

ヒーテッドグリップを装備している場合にのみ表示され、ヒーテッドグリップの作動、停止、調整が可能です。

ボタン (1) とボタン (2) を使用して、機能メニュー内の “HEATING GRIPS” 機能を選択します (図 50)。
ボタン (4) を押すと、現在設定されているヒーテッドグリップのレベル (“OFF”、“LOW”、“MEDIUM”、“HIGH”)、黒色の下向き矢印と “EXIT” が表示されます (図 51)。

この時点で、ボタン (1) とボタン (2) を使用して、現在設定されているレベルからレベル (“OFF”、“LOW”、“MEDIUM”、“HIGH”) をスクロールすることができます。
ヒーテッドグリップのレベルを新しく選択して設定を終了するには、希望するレベルが表示されている時にボタン (4) を短く押します。

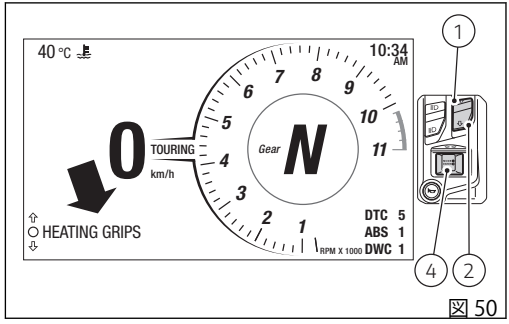


図 50

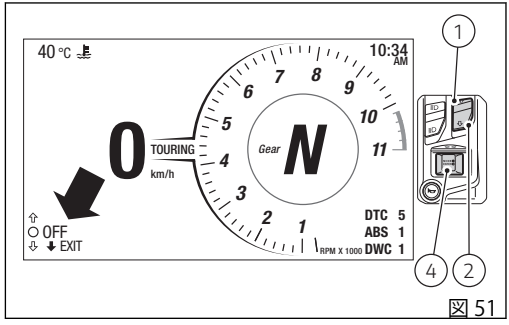


図 51

“OFF” 以外のレベルを選択した場合は、メイン画面にヒーテッドグリップのマークが現れます (図 52)。このマークが点灯すると、ヒーテッドグリップの加熱準備ができていることを示します。

ヒーテッドグリップが実際に作動する (加熱される) のは、エンジン稼働中に一定の回転数が維持されている場合のみです。これはバッテリーに負荷がかからないようにするためです。
ヒーテッドグリップが実際に作動すると (図 53)、現在設定されているレベルに対応する色にアイコンの色が変わります。

- アイコンの背景が緑色 = “LOW” レベル
- アイコンの背景がオレンジ色 = “MEDIUM” レベル
- アイコンの背景が赤色 = “High” レベル

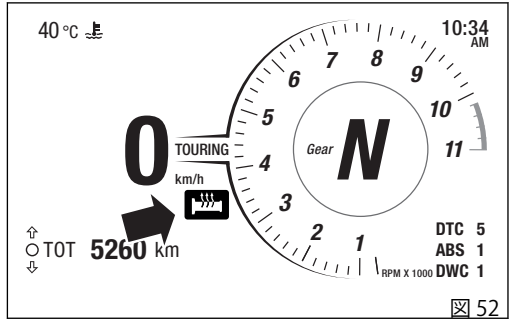


図 52

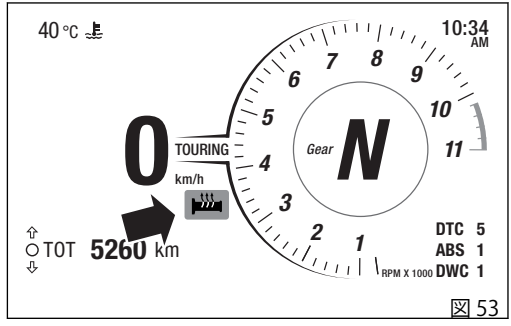


図 53

## 設定メニュー (SETTING MENU)

このメニューではいくつかの車両機能のON/OFFおよび設定を行います。

安全上の理由により、車両の実速度が5 km/h (3 mph)以下の場合に限り、このメニューに入ることができます。
設定メニューが表示されている時に車両の実速度が5 km/h (3 mph)を超えると、インストルメントパネルは自動的に設定メニューを終了し、メイン画面を表示します。

設定メニューに入るには、ボタン(1)とボタン(2)で項目"SETTING MENU"を選択し、ボタン(4)を押します。

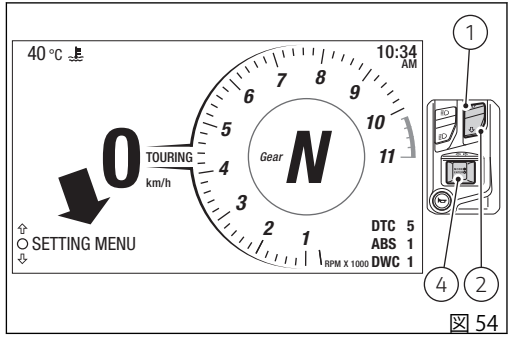


図 54

**参考**

走行速度が 5 km/h (3 mph) 以下の時にのみ丸印 O が表示されます。速度 5 km/h (3 mph) 以下で走行中に突然5 km/h (3 mph)を超えた場合は、丸印 O は消えます。その後、走行速度が5 km/h (3 mph)以下に戻ると再び点灯します。

設定メニューに入ると、ディスプレイの表示モードが変わります。

設定メニューには以下の機能が表示されます。
- Riding Mode
- Pin Code
- Lap
- Backlight
- Date and Clock
- Units
- Service
- Tire Calibration
- DRL Control – DRL 機能を搭載している場合のみ
- Bluetooth – Bluetooth モジュールを搭載している場合のみ
- Turn indicators
- Info

**重要**

安全のために、このメニューは車両が停止している状態で使用してください。

ボタン (1) と (2) を押すと、設定メニューの上記機能を一つずつ表示することができます。ボタン (2) を押すと次の機能が、ボタン (1) を押すと前の機能が表示されます。

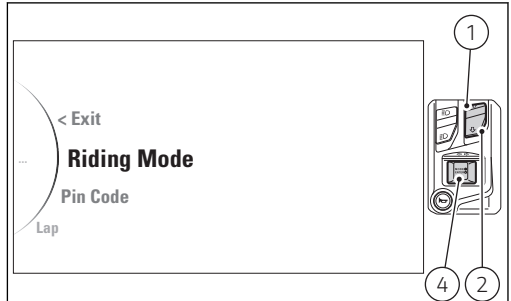


図 55

希望の機能を表示した後、ボタン (4) を押すと、選択した機能に対応するメニューページが開きます。

機能が装備されていない場合や一時的に解除されている場合は、メニューページにアクセスできません。

設定メニューを終了するには、"< EXIT" を選択してしてボタン (4) を押してください。

## 設定メニュー - ライディングモード (Riding Mode)

各ライディングモードのそれぞれの設定をパーソナライズすることができます。

設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して "Riding Mode" を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側に選択可能なライディングモードが、右側に現在設定されているライディングモードが表示されます (図 57)。
このページ内に表示される表示は次の通りです。

- < Back
- Sport
- Touring
- Urban
- All Default (いずれかのライディングモードのひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合のみ表示されます)
- < Back

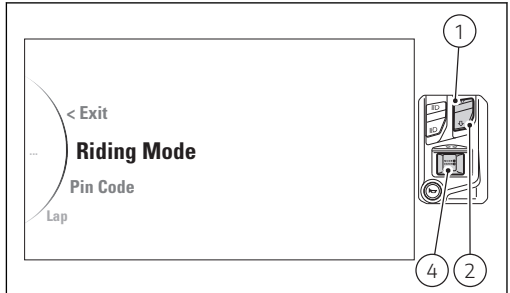


図 56

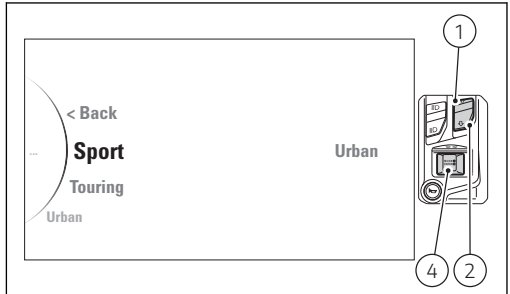


図 57

ボタン (1)、(2)、(4) を使用して、以下の操作を行うことができます。
- ボタン (1) と (2) でパーソナライズしたいライディングモードを選択します。ボタン (4) を押すと、選択したライディングモードのパーソナライズに入ります。
- ボタン (1) と (2) で "< Back" を選択してボタン (4) を押すと、前の画面に戻ります。
- ボタン (1) と (2) で "All Default" を選択してボタン (4) を押すと、4 つすべてのライディングモードを工場出荷時の値に回復することができます。

ひとつのライディングモードに連動するパラメーターでパーソナライズできるものは、Engine、DTC、ABS、DWC、DQS (装備している場合)、Default (ライディングモードを工場出荷時の値に回復) です (図 58)。このページ内に表示される表示は次の通りです。
- < Back
- Engine
- DTC
- ABS
- DWC
- DQS (装備する場合)
- Default (ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合のみ表示されます)
- < Back

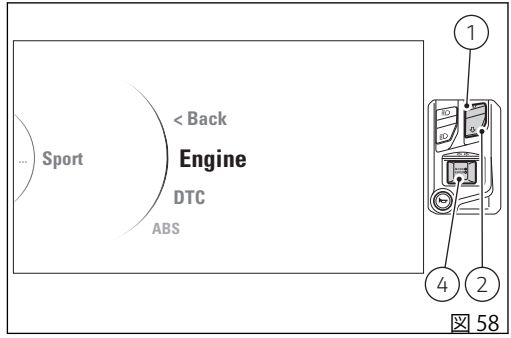


図 58

ボタン (1) またはボタン (2) を押すたびに、選択しているライディングモードの全てのパラメーターがスクリールされます。パラメーターを強調表示したら、ボタン (4) を押してパラメーターの設定に入ります。

変更したパラメーターはバッテリーを切り離してもリセットされません。
それぞれのライディングモードをドゥカティ初期設定に戻すには、"Default" 機能を選択してボタン (4) を押します。
"< Back" 機能が強調表示された時にボタン (4) を押すと、サブメニューを終了して前の画面に戻ります。

**警告**
パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、"Default" 機能を使用してパラメーターを修復してください。

**参考**
DTC 機能が解除されている、すなわち OFF に設定されている場合は、DWC は強制的に OFF 設定になり、パラメーターを変更することはできません。

## 設定メニュー - ライディングモード - エンジン設定 (Engine)

ここでは各ライディングモードに連動したエンジン出力を設定することができます。
この機能にアクセスするには以下のように操作してください。

- 設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
- ボタン (1) またはボタン (2) を押して “Riding Mode” を選択し、ボタン (4) を押します。
- 次に、変更したいライディングモード (“Sport”、“Touring”、“Urban”) を選択し (B)、ボタン (4) を押します。
- 最後に、"Engine" を選択し (C)、ボタン (4) を押します。

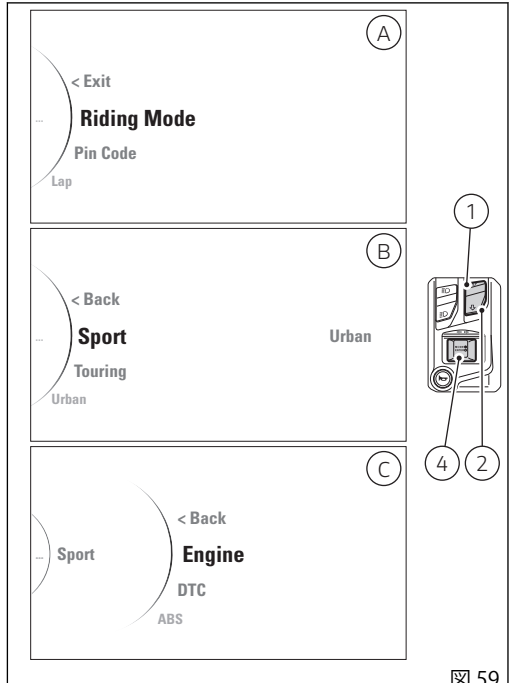


図 59

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な項目“High”、“Medium”、“Low”が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます 。
このページ内に表示される表示は次の通りです。

- < Back
- High
- Medium
- Low
- < Back

さらに、画面中央には介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。

ボタン (1) および (2) を使用して、新しく設定したいエンジン出力を選択します。
各レベルに対応する表中の値が強調表示されます。
希望のレベルを選択できたら、ボタン (4) を押して選択を確定します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、ボタン (1) とボタン (2) を使用して "< Back" を選択し、ボタン (4) を押します。

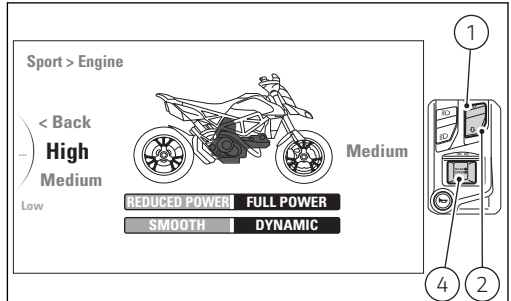


図 60

## 設定メニュー - ライディングモード - DTC設定 (DTC)

この機能から、各ライディングモードごとに DTC (ドゥカティトラクションコントロール) の解除と介入レベルのパーソナライズが可能です。
この機能にアクセスするには以下のように操作してください。

- 設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
- ボタン (1) またはボタン (2) を押して “Riding Mode” を選択し、ボタン (4) を押します。
- 次に、変更したいライディングモード (“Sport”、“Touring”、“Urban”) を選択し (B)、ボタン (4) を押します。
- 最後に、"DTC" を選択し (C)、ボタン (4) を押します。

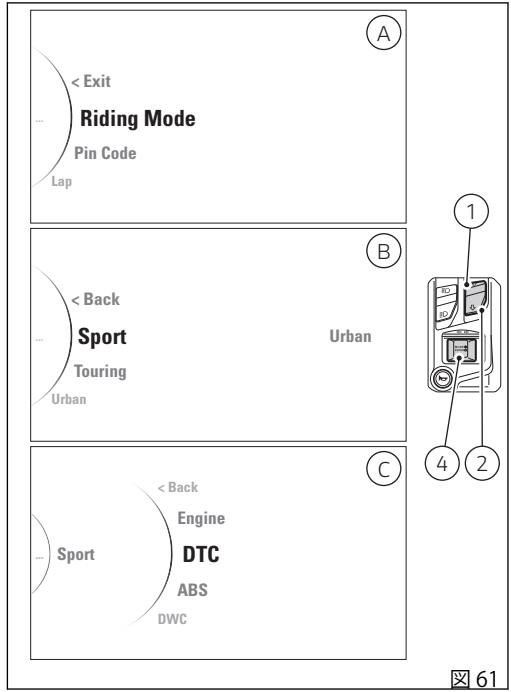


図 61

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能なレベル “8”～“1” と “Off” が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます 。
このページ内に表示される表示は次の通りです。

- < Back
- 8
- 7
- 6
- 5
- 4
- 3
- 2
- 1
- Off
- < Back

さらに、画面中央には介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。

ボタン (1) と (2) を使用して、好みのレベルを選択します。
各レベルに対応する表中の値が強調表示されます。
希望のレベルを選択できたら、ボタン (4) を押して選択を確定します。

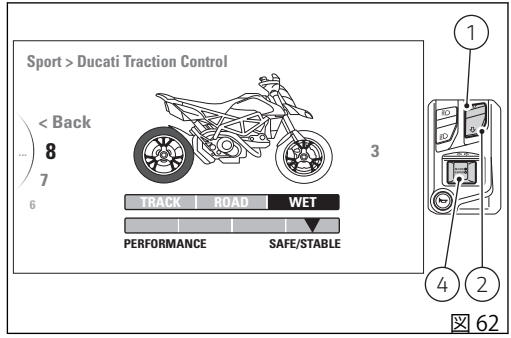


図 62

メニューを終了して前の画面に戻るには、ボタン (1) とボタン (2) を使用して "< Back" を選択し、ボタン (4) を押します。

**参考**

DTC が解除されると、DWC も自動的に解除されます。その場合、DWC の設定メニューに入ることはできなくなります。DTC が再び起動すると、DWC レベルは最後に保存されていたレベルに設定され、新たに DWC レベルの設定が可能になります。

## 設定メニュー - ライディングモード -ABS の設定 (ABS)

この機能から、各ライディングモードごとに ABS の介入レベルをパーソナライズすることができます。
この機能にアクセスするには以下のように操作してください。

- 設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
- ボタン (1) またはボタン (2) を押して “Riding Mode” を選択し、ボタン (4) を押します。
- 次に、変更したいライディングモード (“Sport”、“Touring”、“Urban”) を選択し (B)、ボタン (4) を押します。
- 最後に、"ABS" を選択し (C)、ボタン (4) を押します。

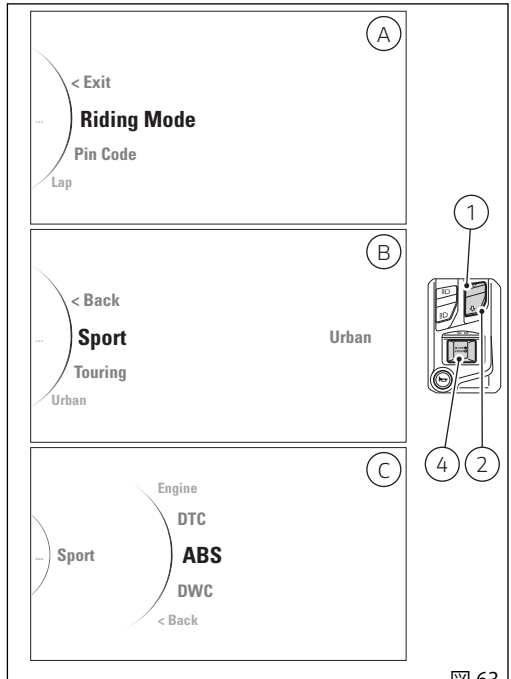


図 63

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能なレベル“3”～“1”が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます。
このページ内に表示される表示は次の通りです。

- < Back
- 3
- 2
- 1
- < Back

さらに、画面中央には介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。

ボタン (1) と (2) を使用して、好みのレベルを選択します。
各レベルに対応する表中の値が強調表示されます。
希望のレベルを選択できたら、ボタン (4) を押して選択を確定します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、ボタン (1) とボタン (2) を使用して "< Back" を選択し、ボタン (4) を押します。

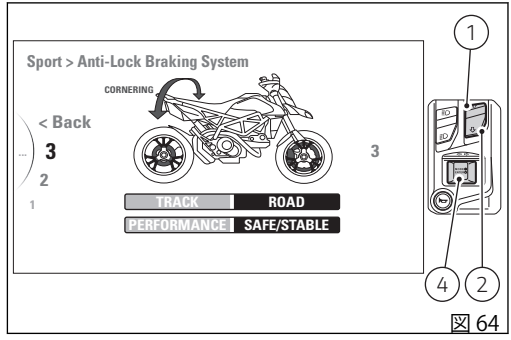


図 64

## 設定メニュー - ライディングモード - DWC

### 設定 (DWC)

この機能から、各ライディングモードごとにDWC (ドゥカティウィリーコントロール) の解除と介入レベルのパーソナライズが可能です。
この機能にアクセスするには以下のように操作してください。

- 設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
- ボタン (1) またはボタン (2) を押して “Riding Mode” を選択し、ボタン (4) を押します。
- 次に、変更したいライディングモード (“Sport”、“Touring”、“Urban”) を選択し (B)、ボタン (4) を押します。
- 最後に、"DWC" を選択し (C)、ボタン (4) を押します。

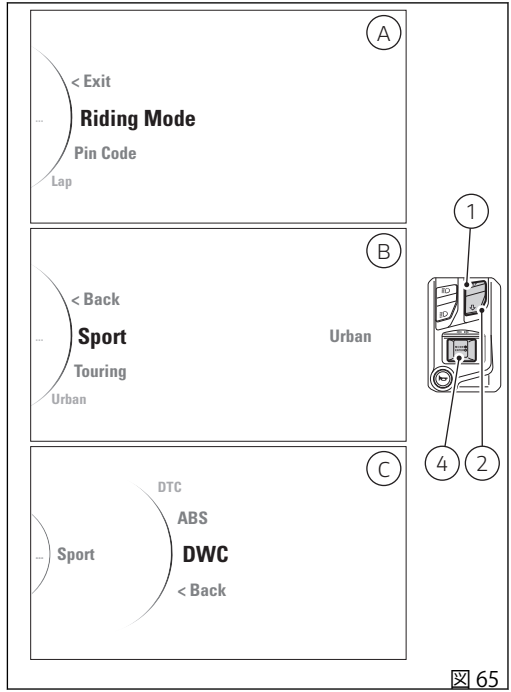


図 65

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能なレベル “8”～“1” と “Off” が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます 。
このページ内に表示される表示は次の通りです。

- < Back
- 8
- 7
- 6
- 5
- 4
- 3
- 2
- 1
- Off
- < Back

さらに、画面中央には介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。

ボタン (1) と (2) を使用して、好みのレベルを選択します。
各レベルに対応する表中の値が強調表示されます。
希望のレベルを選択できたら、ボタン (4) を押して選択を確定します。

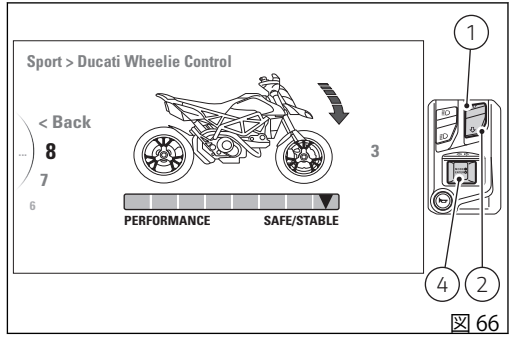


図 66

メニューを終了して前の画面に戻るには、ボタン (1) とボタン (2) を使用して "< Back" を選択し、ボタン (4) を押します。

**参考**
DTC が解除されると、DWC も自動的に解除されます。その場合、DWC の設定メニューに入ることはできなくなります。DTC が再び起動すると、DWC レベルは最後に保存されていたレベルに設定され、新たに DWC レベルの設定が可能になります。

## 設定メニュー - ライディングモード - DQS - 設定 - アクセサリー (DQS)

この機能ではライディングモード毎に DQS 装置の UP/DOWN モードを起動または停止を設定することができます。DQS 装置が車両に搭載されている場合にのみ表示されます。
この機能にアクセスするには以下のように操作してください。

- 設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
- ボタン (1) またはボタン (2) を押して “Riding Mode” を選択し、ボタン (4) を押します。
- 次に、変更したいライディングモード (“Sport”、“Touring”、“Urban”) を選択し (B)、ボタン (4) を押します。
- 最後に、"DQS" を選択し (C)、ボタン (4) を押します。

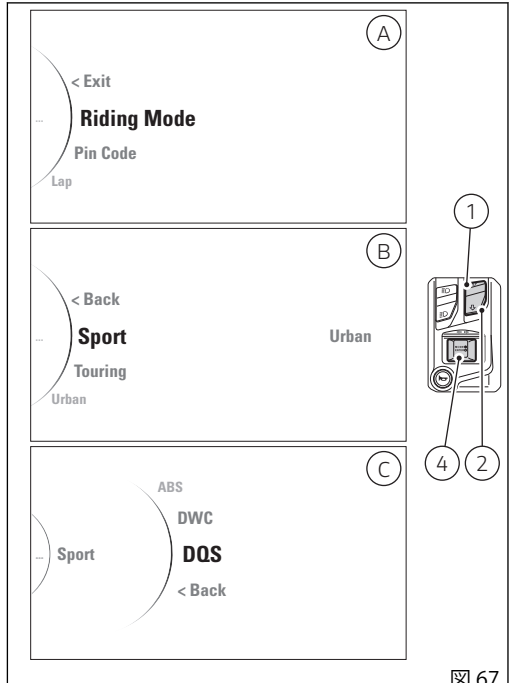


図 67

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能なレベル“Up/Down”と“Off”が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます 。
このページ内に表示される表示は次の通りです。

- < Back
- Up/Down
- Off
- < Back

さらに、画面中央には介入エリアが強調表示されます。

ボタン (1) と (2) を使用して、好みのレベルを選択します。
各レベルに対応する表中の値が強調表示されます。
希望のレベルを選択できたら、ボタン (4) を押して選択を確定します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、ボタン (1) とボタン (2) を使用して "< Back" を選択し、ボタン (4) を押します。

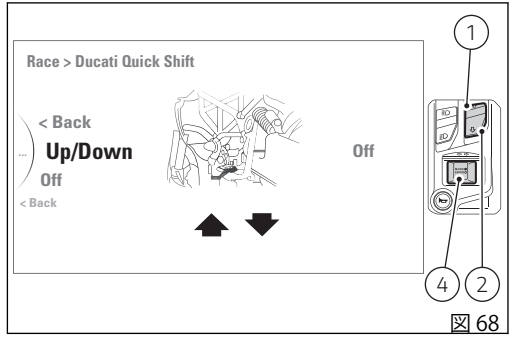


図 68

## 設定メニュー - ライディングモード - 初期値の回復 (Default)

この機能では、ひとつのライディングモードの全パラメーターを初期設定値に回復することができます。工場出荷時の初期設定値から、ひとつ以上のパラメーター値が変更されている場合にのみ表示されます。
この機能にアクセスするには以下のように操作してください。

- 設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
- ボタン (1) またはボタン (2) を押して “Riding Mode” を選択し、ボタン (4) を押します。
- 次に、変更したいライディングモード (“Sport”、“Touring”、“Urban”) を選択し (B)、ボタン (4) を押します。
- 最後に “Default” を選択します (C)。

“Default” を選択している時にボタン (4) を押すと、ライディングモードの全パラメーターが初期設定値に設定されます。その後 “< Back” が表示され、項目 “Default” がリストに表示されなくなります。

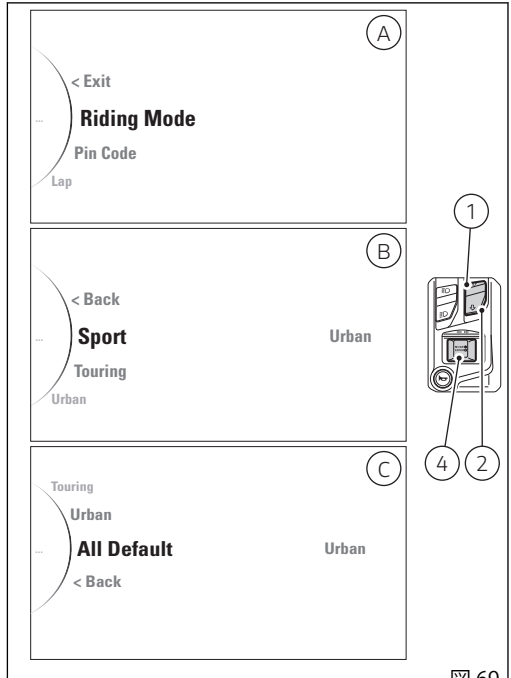


図 69

## 設定メニュー - 全ライディングモードの初期値の回復 (All Default)

この機能では、すべてのライディングモードの全パラメーターを初期設定値に回復することができます。工場出荷時の初期設定値から、ひとつ以上のライディングモードでパラメーター値が変更されている場合にのみ表示されます。
この機能にアクセスするには以下のように操作してください。

- 設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
- ボタン (1) またはボタン (2) を押して “Riding Mode” の表示を選択し (図 70)、ボタン (4) を押します。
- “All Default” を選択します (図 71)。

“All Default” を選択している時にボタン (4) を押すと、すべてのライディングモードの全パラメーターが初期設定値に設定されます。その後 “< Back” が表示され、項目 “All Default” がリストに表示されなくなります。

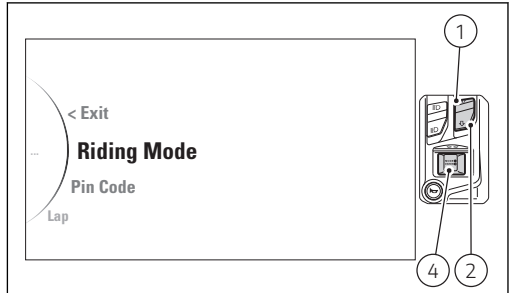


図 70

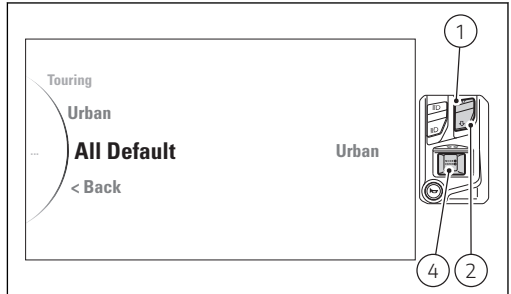


図 71

## 設定メニュー - PIN コードの登録 (Pin Code)

この機能で PIN CODE の有効化または変更を行います。PIN CODE は最初車両に登録されていませんので、ユーザーが 4 桁の PIN をインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に車両を一時起動することができません。

PIN CODE の変更については、“設定メニュー - PIN コードの変更 (Pin Code)” を参照してください。

不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、"PIN CODE による車両の解除" の手順に従います。

**警告**

PIN CODE は車両の所有者が設定 (登録) しなければなりません。PIN がすでに設定されている場合には、Ducati 正規ディーラーに本機能の "リセット" を依頼してください。その際 Ducati 正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して "Pin Code" を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。

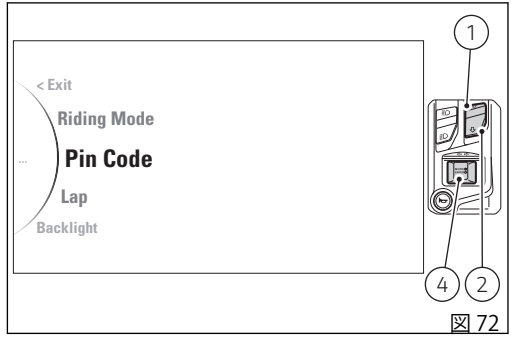


図 72

このページ内に表示される表示は次の通りです。

- < Back
- New Pin

ボタン (1) とボタン (2) を押して “New Pin” を選択し (A)、ボタン (4) を押して新しい PIN CODE の入力に進みます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

**参考**
機能に入り "Modify Pin" の表示が出た場合は、PIN CODE が既に存在し、機能が有効であることを表します。

PIN CODE の入力 (B)：

新しい PIN CODE の入力機能に入ると、“New Pin” の表示と、4 桁のコードを入力するスペース“0” と “- - -“ が表示されます。
数字の上下にある矢印は、ボタン (1) とボタン (2) を押して変更できることを示します。

コードの入力：

1) ボタン (1) を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
2) ボタン (2) を押す度に数字が "0" までひとつずつ小さくなり、その後 "9" に戻ります。

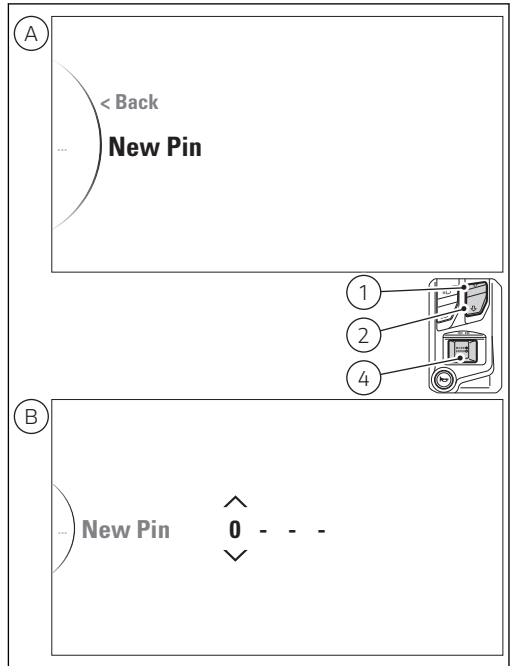


図 73

3) ボタン (4) を押して数字を決定し、次の桁に移動します。
4) 1) から 3) の手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

4 桁目の数字を設定してボタン (4) を押すと、インストルメントパネルに次の表示が点灯します。

- < Back
- Memory (オレンジ色)

入力したコードを保存せずにメニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。
入力したコードを保存する場合は、"Memory" (オレンジ色) を強調表示し、ボタン (4) を押します (図 74)。この時点で、インストルメントパネルは “Memorized” (緑色) を 2 秒間表示します。

2 秒が過ぎると、インストルメントパネルは前の画面に戻ります。この時、“New Pin” の代わりに “Modify Pin” が表示されます。初めて PIN CODE を保存した後は、“New Pin” 登録メニューのページは利用できなくなり、PIN CODE の変更ページに代わります。

**参考**
PIN CODE 機能がリセットされた場合 (Ducati 診断テスターからのみ可能) に限り、PIN CODE の登録ページが再び有効になり、メニューから入ることができるようになります。

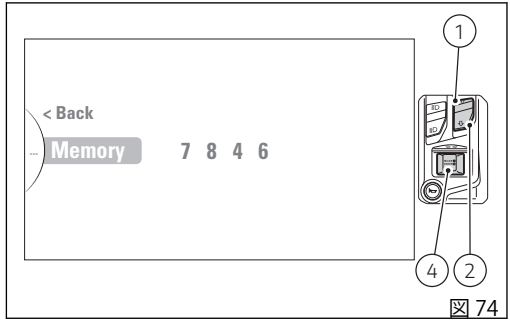


図 74

図 75

## 設定メニュー - PIN コードの変更 (Pin Code)

この機能で PIN CODE の有効化または変更を行います。

PIN CODE の登録については、“設定メニュー - PIN コードの登録 (Pin Code)” を参照してください。

不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、"PIN CODE による車両の解除" の手順に従います。

**参考**

PIN CODE を変更するには、現在設定されている PIN を知っている必要があります。

設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して "Pin Code" を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。

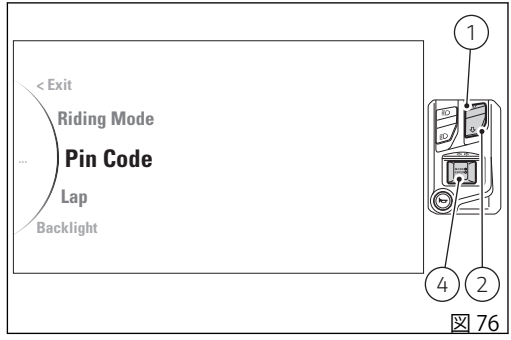


図 76

この機能に入ると、以下が表示されます。

- < Back
- Modify Pin

ボタン (1) とボタン (2) を押して “Modify Pin” を選択し (A)、ボタン (4) を押して PIN CODE の変更に進みます。メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

**参考**
機能に入った時に "New Pin" と表示される場合は、PIN CODE が登録されていないため登録が必要であることを示します。

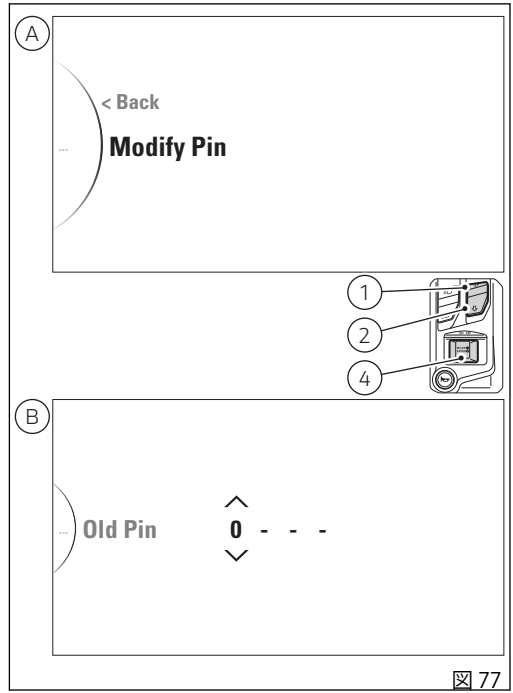


図 77

旧 PIN CODE の入力：

PIN CODEの変更機能(Modify Pin)に入ると、“Old Pin”の表示と、設定されている4桁のコードを入力するスペース“0”と“---“が表示されます。数字の上下にある矢印は、ボタン(1)とボタン(2)を押して変更できることを示します。

コードの入力：

1) ボタン(1)を押す度に数字が"9"までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
2) ボタン(2)を押す度に数字が"0"までひとつずつ小さくなり、その後 "9" に戻ります。
3) ボタン(4)を押して数字を決定し、次の桁に移動します。
4) 1)から3)の手順を繰り返し、PIN CODEの4桁すべての数字を決定します。

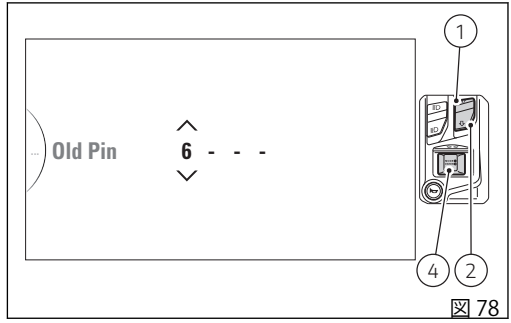


図 78

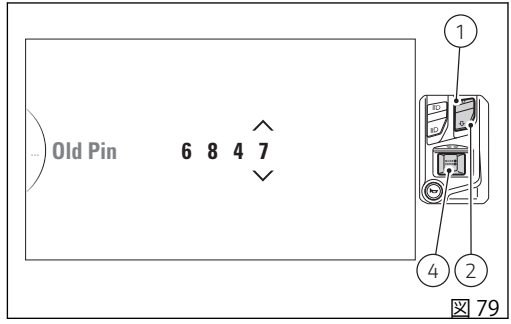


図 79

ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、インストルメントパネルは次の動作を行います。

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "Wrong" (図 80) を赤色で 2 秒間強調表示します。その後、前の画面に戻り、もう一度コードを入力することができます。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "Correct" を 2 秒間表示し、その後新しい PIN CODE の入力画面に進みます。

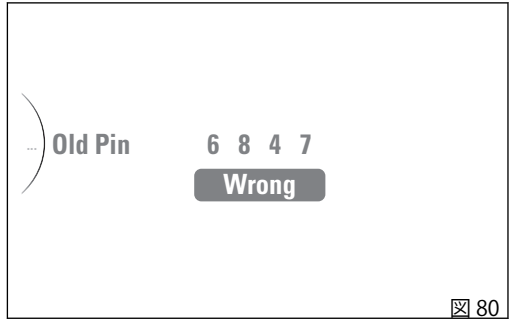


図 80

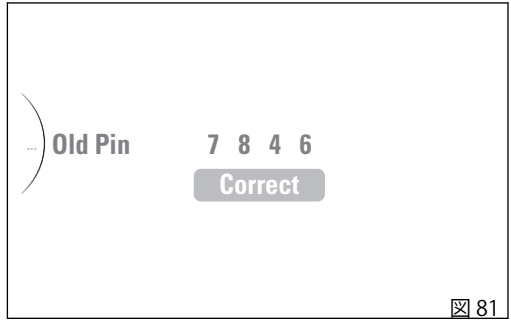


図 81

新 PIN CODE の入力：
新しい PIN CODE の入力機能に入ると、“New Pin” の表示と、4 桁のコードを入力するスペース“0” と “- - -“ が表示されます。
数字の上下にある矢印は、ボタン (1) とボタン (2) を押して変更できることを示します。

コードの入力：
1) ボタン (1) を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
2) ボタン (2) を押す度に数字が "0" までひとつずつ小さくなり、その後 "9" に戻ります。
3) ボタン (4) を押して数字を決定し、次の桁に移動します。
4) 1) から 3) の手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

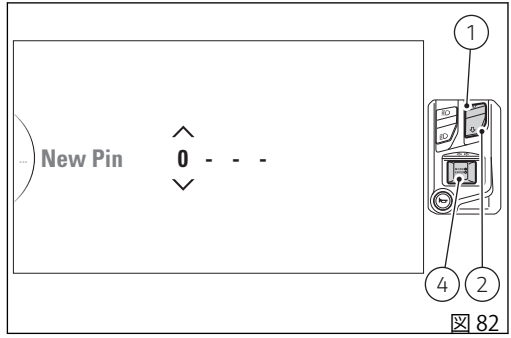


図 82

4 桁目の数字を設定してボタン (4) を押すと、インストルメントパネルに次の表示が点灯します。

- < Back
- Memory (オレンジ色)

入力したコードを保存せずにメニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。
入力したコードを保存する場合は、"Memory" (オレンジ色) を強調表示し、ボタン (4) を押します (図 83)。この時点で、インストルメントパネルは “Memorized” (緑色) を 2 秒間表示します。

2 秒後、インストルメントパネルは前の画面に戻ります。

**参考**
PIN CODE の変更は何度でも可能です。

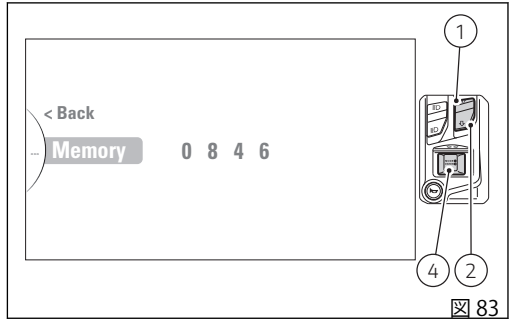


図 83

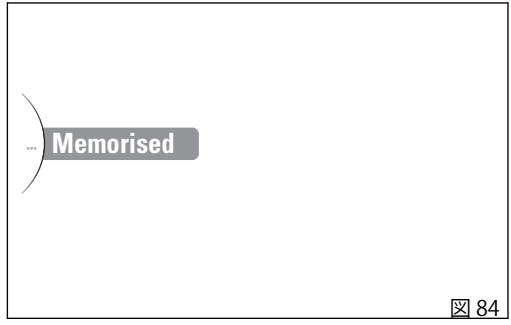


図 84

## 設定メニュー - ラップタイム (Lap)

この機能では、ラップライム計測ストップウォッチの起動と停止、保存したラップタイム記録の表示と消去を行います。
最大 30 ラップまで記録することができます。ラップごとに、周回中に到達した最高スピードと最高回転数が記録されます。

設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して “Lap” を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。

この機能に入ると、以下の項目が表示されます。
- < Back
- On (*)
- Off (**)
- Lap Data
- Erase All (***)
- < Back

(*) ラップ機能が停止 (OFF) している場合にのみ表示されます。
(**) ラップ機能が起動 (ON) している場合にのみ表示されます。
(***) ひとつ以上のラップが記録されている場合にのみ表示されます。

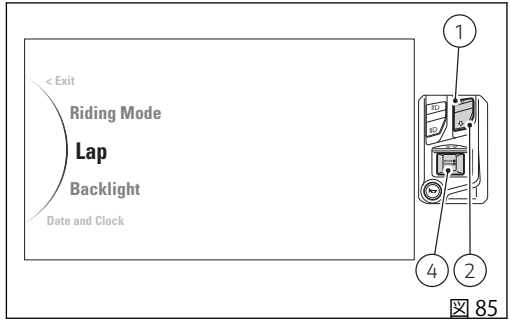


図 85

図 86

ボタン (1) および (2) を使用して表示を強調し、ボタン (4) を押して機能を作動させます。

- “On” の表示を選択すると、ラップ機能が起動します。ラップ機能が ON になると、ラップタイムを記録することができるようになります。
- “Off” の表示を選択すると、ラップ機能が停止します。
- “Lap Data” の表示を選択すると、記録されているラップの表示に入ります。
- “Erase All” の表示を選択すると、記録されている全ラップを消去します。

**参考**

Key-OFF した場合やバッテリーの電圧が切れた場合 (Battery Off) は、電源回復後の Key-ON 時にシステムは自動的に LAP 機能を “Off” に設定します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

## 記録済みラップの表示

記録済みのLAPをディスプレイに表示することができます。表示可能な情報はラップタイム、最高回転数(rpm)、最高スピードです

ラップを表示するには、設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。ボタン (1) および (2) で “Lap” を選択し、ボタン (4) を押します。

次に、ボタン (1) および (2) で "Lap Data" を選択し、ボタン (4) を押します。

記録されているラップがない場合は、ページに入ると “< Back” と “No Lap” の文字が表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

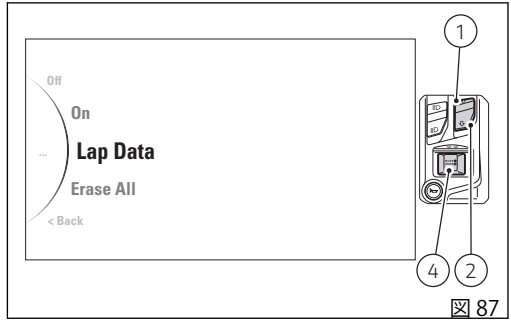


図 87

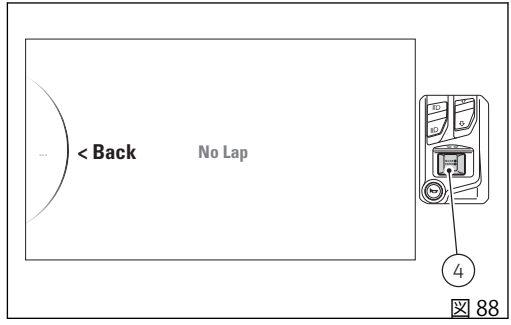


図 88

ラップ記録が存在する場合は、この機能に入ると以下のように表示されます。
- < Back
- Lap 01
- .....
- Lap 30
- < Back

ボタン (1) および (2) を使用して、いずれかを選択することができます。記録されているラップだけが表示されます。各ラップ記録には、さらに以下の情報が示されます。
- "Time" の文字に続いて、記録済みラップタイム (分 – 秒 – 100 分の 1 秒)
- "Speed Max" の文字に続いて、ラップ中に記録された最高速度
- "rpm max" の文字に続いて、ラップ記録中に到達した最高回転数

最大 30 ラップまで記録することができます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

**参考**
記録最高スピードはラップ中に到達した速度です (5 % 増大させたもの)。

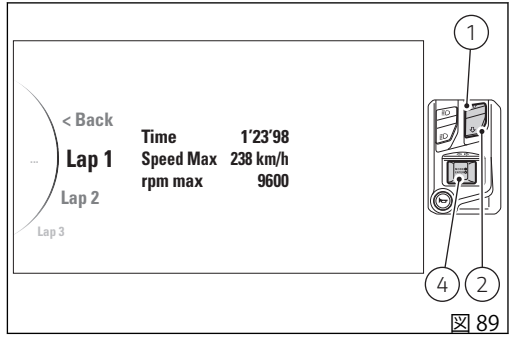


図 89

**参考**
周回中に記録された最高スピードが 299 km/h (186 mph) を超えた場合は、この機能では上乗せされた速度データが表示されます (例：316 km/h)。

LAP 記録の削除

“Erase All” 機能から記録済みラップを消去することができます。

ラップを削除するには、設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。ボタン (1) および (2) で “Lap” を選択し、ボタン (4) を押します。

記録されているラップがない場合には、この機能に入っても削除するための表示は現れません。

ラップ記録が存在する場合は、機能に入ると “Erase All” が表示され、ラップを削除できるようになります。ボタン (1) および (2) で "Erase All" を選択し、ボタン (4) を押します。

図 90

“Erase All” 機能を決定した後、インストルメントパネルのディスプレイには
- "Wait..." の文字が 1 秒間表示されます。
- 続いて "Erase Ok" の文字が 1 秒間表示され、削除されたことを示します。

メモリーされているすべてのラップが一度に削除されます。

**参考**
機能の起動中に記録の削除手順を実行すると、インストルメントパネルは機能を中止します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

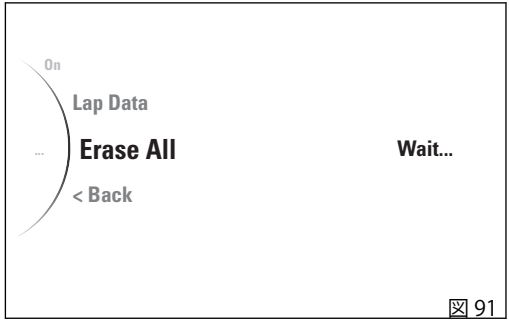


図 91

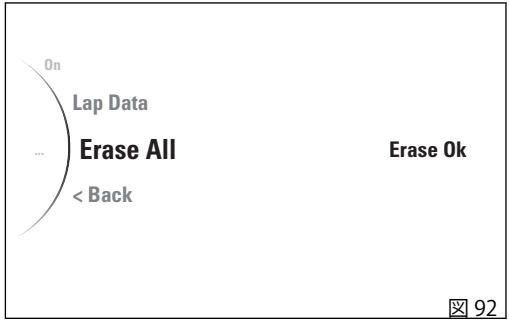


図 92

## 設定メニュー - バックライトの調整 (Backlight)

この機能から、ディスプレイの色を昼間モードと夜間モードに設定することができます。

設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して “Backlight” を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側に選択可能なモードが、右側に現在設定されているモードが表示されます (図 94)。
このページ内に表示される表示は次の通りです。

- < Back
- Day
- Night
- Auto
- < Back

ボタン (1) および (2) を使用して、ディスプレイの好みのバックライトタイプを選択できます。
設定したいタイプを強調表示したら、ボタン (4) を押して新しい設定を保存します。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

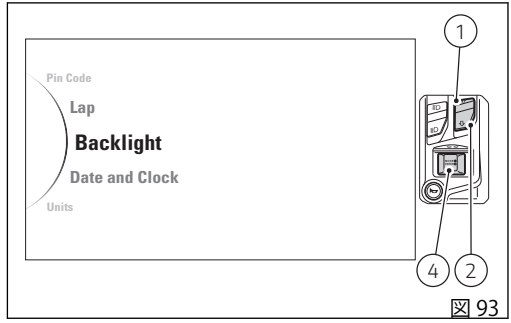


図 93

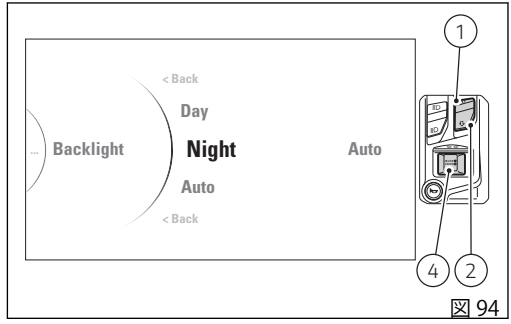


図 94

“Day” 設定 (昼間モード) を選択すると、ディスプレイの背景が読み取りやすい "白" に常時設定されます。強い外光下での使用に適します。

“Night” 設定 (夜間モード) を選択すると、ディスプレイの背景がソフトなコントラストの "黒" に常時設定されます。弱い外光下または暗い環境での使用に適します。

“Auto” 設定 (自動モード) を選択すると、ディスプレイの背景が外光の強さ (センサーが感知) に応じて自動的に調整されます。外光が強い時には白色背景に切り替わります。外光が弱い時には黒色背景に切り替わります。

**参考**

バッテリーが中断された場合、電源回復後のKey-ON時に画面の光調整はリセットされ、"AUTO" モードに設定されます。

## 設定メニュー - 日時の設定 (Date and Clock)

この機能で日時を設定します。

設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して “Date and Clock” を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。

このページ内に表示される表示は次の通りです (図 96)。

- < Back
- Date
- Clock
- < Back

ボタン (1) と (2) を使用して、変更するパラメーターを選択できます。
項目 “Date” を選択すると、ディスプレイの中央に現在設定されている日付が “YYYY / MM / DD” (年 / 月 / 日) 形式で表示されます。ボタン (4) を押して、日付の設定に進みます。
項目 “Clock” を選択すると、ディスプレイの中央に現在設定されている時間が “AM/PM HH : MM” (AM または PM、時間 : 分) 形式で表示されます。ボタン (4) を押して時間の設定に進みます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

図 95

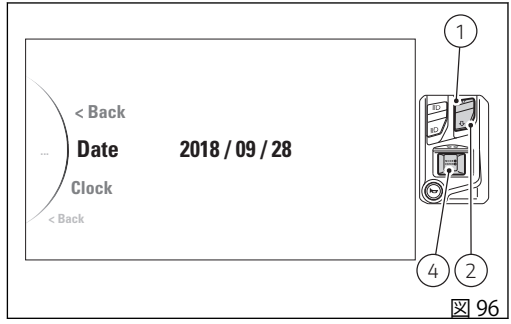


図 96

**参考**
日付が設定されたことがない場合やリセットされた場合は、「年、月、日」の代わりに点線が表示されます (“- - - - / - - / - -”)。

**参考**
時間が設定されたことがない場合やリセットされた場合は、 時刻に “AM - -: --” が表示されます。

日付の設定 (Date)

項目 “Date” を選択して (A) ボタン (4) を押すと、インストルメントパネルの右側に “Set...” の文字が表示され、中央には上下に矢印が表示された「年」の数字が点滅します (B)。これは、ボタン (1) とボタン (2) を押して値を変更できることを示します。

- ボタン (1) を押すと、年の値が 1 ずつ大きくなります (“2000”、“2001”、.....“2099”、“2000”)。
- ボタン (2) を押すと、年の値が 1 ずつ小さくなります (“2099”、“2098”、.....“2000”、“2099”)。
- 設定したい年の値に達したら、ボタン (4) を押して決定します。矢印が移動し、「月」データの設定ができるようになります。

点滅する「月」データの上下に 2 つの矢印が表示されると、月の設定が可能であることを示します。

- ボタン (1) を押すと、月の値が 1 ずつ大きくなります (“01”、“02”、.....“12”、“01”)。
- ボタン (2) を押すと、月の値が 1 ずつ小さくなります (“12”、“11”、.....“01”、“12”)。
- 設定したい日の値に達したら、ボタン (4) を押して決定します。矢印が移動し、「日」データの設定ができるようになります。

点滅する「日」データの上下に 2 つの矢印が表示されると、日の設定が可能であることを示します。

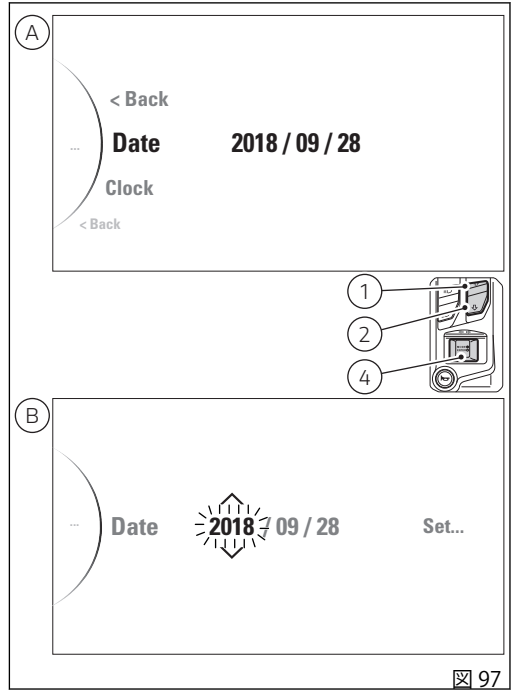


図 97

- ボタン (1) を押すと、日の値が 1 ずつ大きくなります (“01”、“02”、 ...“31”、“01”)。
- ボタン (2) を押すと、日の値が 1 ずつ小さくなります (“31”、“30”、 .....“01”、“31”)。
- 設定したい日の値に達したら、ボタン (4) を押します。

ボタン (4) を押して「日」データを決定すると、インストルメントパネルは設定した日付を保存して、“< Back” を表示します。
日付が正しくない場合、インストルメントパネルは "Wrong" を 3 秒間表示した後、設定したデータを保存せずに「年」の入力に戻ります。

メニューを終了するには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

**重要**
バッテリーが切り離されるたびに日付はリセットされますので、その都度設定する必要があります。

## 時間の設定 (Clock)

項目 “Clock” を選択して (A) ボタン (4) を押すと、インストルメントパネルの右側に “Set...” の文字が表示され、中央には上下に矢印が表示された “AM” または “PM” のパラメーターが点滅します (B)。これは、ボタン (1) とボタン (2) を押して値を変更できることを示します。設定したい値に達したら、ボタン (4) を押して決定します。矢印が移動し、「時」データの設定ができるようになります。

「時」データの上下に 2 つの矢印が表示されると、時間の設定が可能であることを示します。

- ボタン (1) を押すと、時間の値が 1 ずつ大きくなります (“01”、“02”、...“12”、“01”)。
- ボタン (2) を押すと、時間の値が 1 ずつ小さくなります (“12”、“11”、.....“01”、“12”)。
- 設定する値に達したら、ボタン (4) を押して決定します。矢印が移動し、「分」データの設定ができるようになります。

「分」データの上下に 2 つの矢印が表示されると、分の設定が可能であることを示します。

- ボタン (1) を押すと、分の値が 1 ずつ大きくなります (“00”、“01”、.....“59”、“00”)。
- ボタン (2) を押すと、分の値が 1 ずつ小さくなります (“59”、“58”、.....“00”、“59”)。

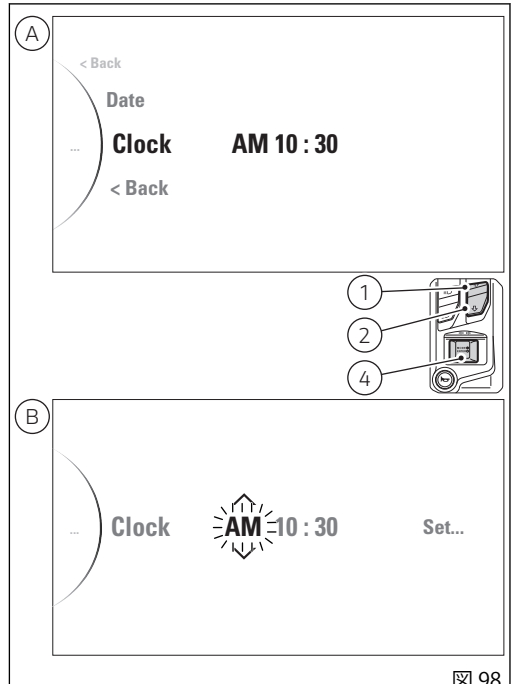



図 98

- 設定する値に達したら、ボタン (4) を押して決定します。

ボタン (4) を押して「分」データを決定すると、インストルメントパネルは設定時刻を保存し、“< Back” を表示します。

メニューを終了するには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

**参考**

バッテリーが切断される度に時計の情報はリセットされますでの、ユーザーは再度設定する必要があります。

## 設定メニュー - 単位の設定 (Units)

この機能では表示単位の変更が可能です。

設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して "Units" を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。

この機能に入ると (図 100)、以下の項目が表示されます。

- < Back
- Speed
- Temperature
- Consumption
- All Default
- < Back

“All Default” 表示は、ひとつ以上のパラメーターが変更されている場合にのみ表示されます。

以下の項目の単位を変更することができます。

- スピード (Speed)
- 温度 (Temperature)
- 燃費 (Consumption)

ボタン (1) および (2) を使って変更したい単位を強調表示します。

- 速度の単位を変更したい時は、“Speed” を選択してボタン (4) を押します。

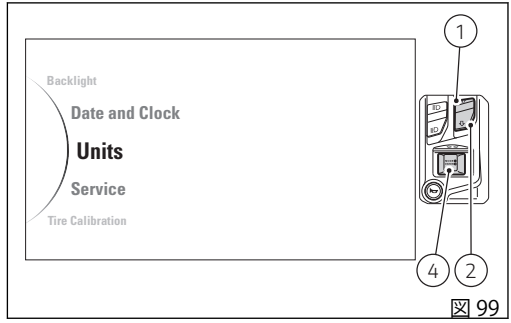


図 99

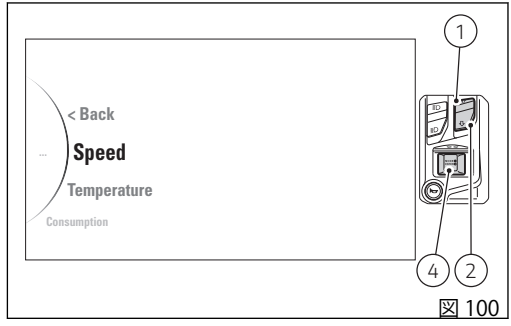


図 100

- 温度の単位を変更したい時は、“Temperature” を選択してボタン (4) を押します。
- 燃費の単位を変更したい時は、“Consumption”を選択してボタン (4) を押します。
- 表示項目すべての単位を初期設定に戻すには、“All Default” を選択してボタン (4) を押します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

## 速度単位の設定 (Speed)

この機能では速度の単位を変更することができます。それに対応して走行距離の単位も同時に変更されます。
このページ内では (図 102)、右側に現在設定されている単位が表示され、左側に以下の項目が表示されます。

- < Back
- km/h
- mph
- デフォルト
- < Back

“Default” の表示は、ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます。

ボタン (1) および (2) を使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す “Default” 表示を選択します。
希望の表示を強調表示したら、ボタン (4) を押して選択した単位を保存します。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

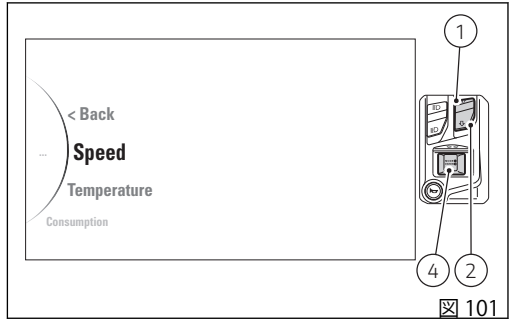


図 101

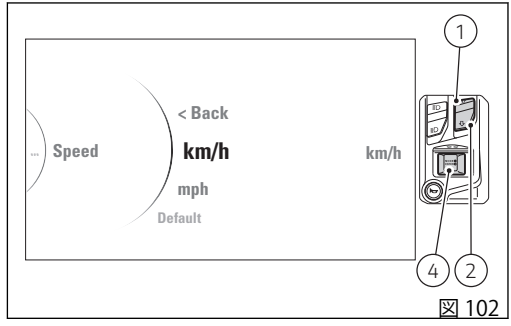


図 102

温度単位の設定 (Temperature)
この機能では温度の単位の変更が可能です。
このページ内では (図 104)、右側に現在設定されている単位が表示され、左側に以下の項目が表示されます。

- < Back
- ° F
- ° C
- デフォルト
- < Back

“Default” の表示は、ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます。

ボタン (1) および (2) を使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す “Default” 表示を選択します。
希望の表示を強調表示したら、ボタン (4) を押して選択した単位を保存します。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

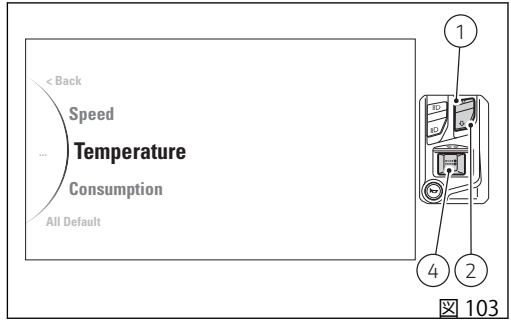


図 103

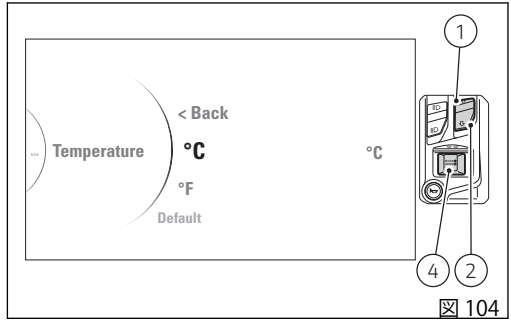


図 104

燃費単位の設定 (Consumption)
この機能では燃費の単位を変更することができます。このページ内では (図 106)、右側に現在設定されている単位が表示され、左側に以下の項目が表示されます。

- < Back
- l/100
- km/l
- mpg UK
- mpg US
- デフォルト
- < Back

“Default” の表示は、ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます。

ボタン (1) および (2) を使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す “Default” 表示を選択します。
希望の表示を強調表示したら、ボタン (4) を押して選択した単位を保存します。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

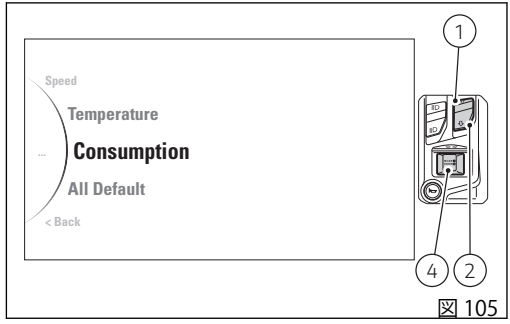


図 105

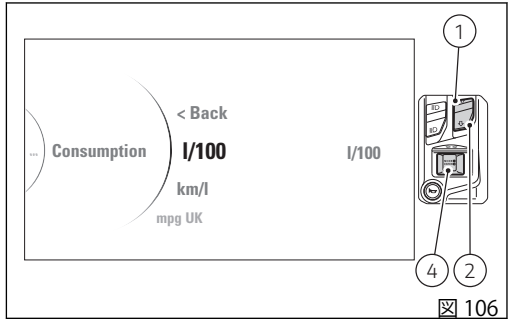


図 106

## 設定メニュー - サービス情報 (Service)

この機能は、Oil Service (キロまたはマイル)、Desmo Service (キロまたはマイル)、Annual Service (日付) の次回のサービス期限を通知します。

設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して "Service" を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると (図 108)、各種点検ごとに定期点検期限までの情報が一覧で表示されます。

- Oil Service：期限に到達するまでの残りの走行距離 (キロ または マイル) とロゴを表示します。
- Desmo Service：期限に到達するまでの残りの走行距離 (キロ または マイル) とロゴを表示します。
- Annual Service：期限の日付とロゴを表示します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

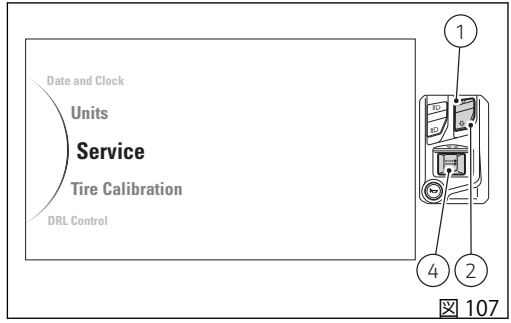


図 107

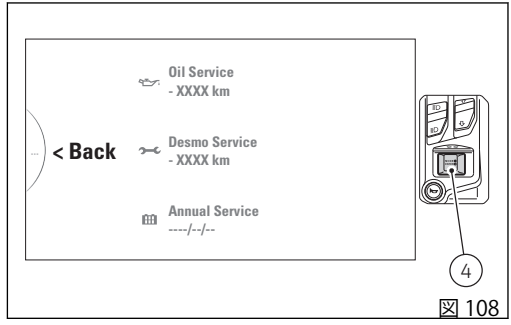


図 108

## 設定メニュー - タイヤおよび減速比のキャリブレーション (Tire Calibration)

この機能でタイヤの円周長と最終減速比のキャリブレーションおよび自己学習の手順を行います。

設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して "Tire Calibration" を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。

この機能に入ると (図 110)、以下の項目が表示されます。

- < Back
- Start
- デフォルト
- < Back

“Default” の表示は、ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます。

メニューを終了して前の画面に戻るには、ボタン (1) または (2) を押して "< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。
タイヤと減速比のキャリブレーションを開始するには、“Start” を強調表示してボタン (4) を押します。

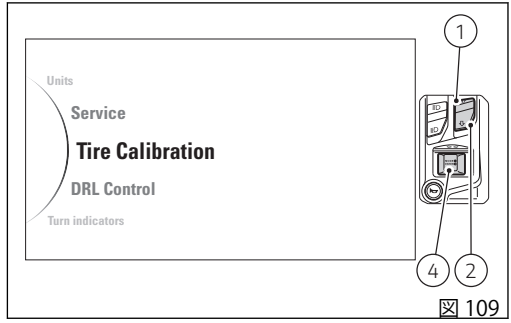


図 109

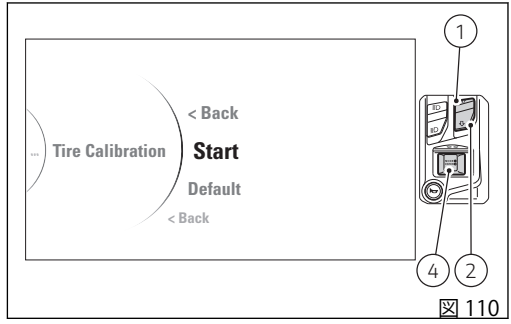


図 110

キャリブレーションプロセスが開始されると、インストルメントパネルには “Ready” の文字が点滅し、“Keep Speed” の文字が表示されます。加えて、自己学習を正常に完了するために維持するべき速度範囲とギアが表示されます。右側には参照しているライディングモード、実速度、ギアが表示されます。

**重要**

走行速度48 Km/h (30 mph) ～ 52 Km/h (32 mph) を維持し、ギアを 2 速に入れた状態においてのみ自己学習プロセスを実施することができます。

走行速度とギアがディスプレイに指定されている状態になると、システムのキャリブレーションが開始されます。上記すべての情報が表示され、“Ready“ の代わりに “In progress” が表示されます。

スピードとギアが指定のパラメーターに 5 秒間維持された時にキャリブレーションが実行されます。

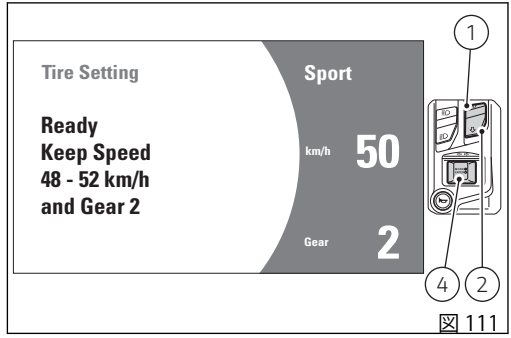


図 111

自己学習プロセスが正常に終了すると、インストルメントパネルに“Completed”の文字が表示され、数秒後に前の画面に戻ります。

**参考**
キャリブレーションプロセスの途中で走行速度が100 km/h (62 mph) を超えると、キャリブレーションは中断されます。

**参考**
キャリブレーションプロセス中にボタン (1) を2秒間押すと、キャリブレーションを中止してスタンダード画面に戻ることができます。

**参考**
キャリブレーションプロセス中に車両を Key-OFF した場合、プロセスは中止され完了せずに終了します。

ユーザーがキャリブレーションを中止した場合は、インストルメントパネルに“Aborted”の文字が表示され (図 113)、数秒後に前の画面に戻ります。

一方、キャリブレーションプロセスの途中でエラーや不具合が検出された場合は、インストルメントパネルに“Failed”の文字が表示され、数秒後に前の画面に戻ります。

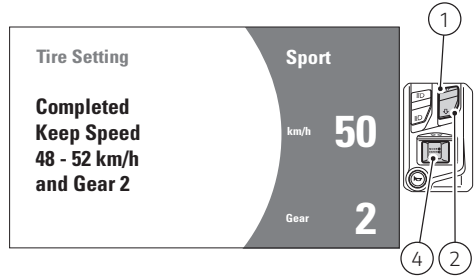


図 112

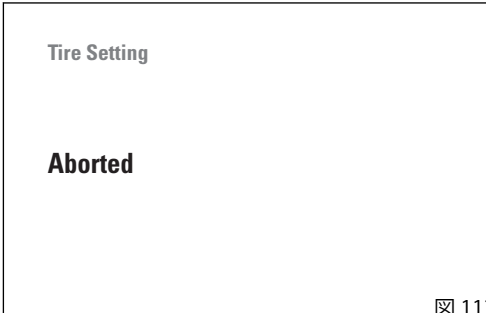


図 113

初期設定を回復するには、ボタン (1) と (2) で "Default" を選択し (図 110)、ボタン (4) を押してください。この時点で、インストルメントパネルに “Default Please Wait...” の文字が表示されます。 (図 114) そして、数秒後に “Default ok” の文字が 2 秒間表示されてから (図 115)、前の画面に戻ります。

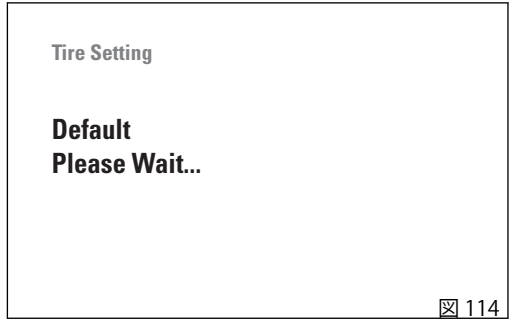


図 114

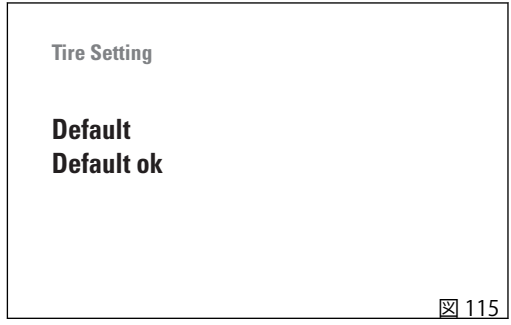


図 115

## 設定メニュー - DRL モード設定 ー アクセサリー (DRL Control)

この機能は DRL を装備している場合にのみ利用でき、DRL 制御を自動モード (Auto) または手動モード (Manual) に設定することができます。

設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して “DRL” を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。
- < Back
- Auto
- Manual
- < Back

ボタン (1) および (2) を使用して、好みの設定を選択します。
- “Auto” を選択すると、DRL は外光の明るさに応じて昼間モードと夜間モードの間で自動的に切り替わります。
- “Manual” を選択すると、DRL の自動切替機能を停止します。

好みのモードが強調表示されたら、ボタン (4) を押して決定します。

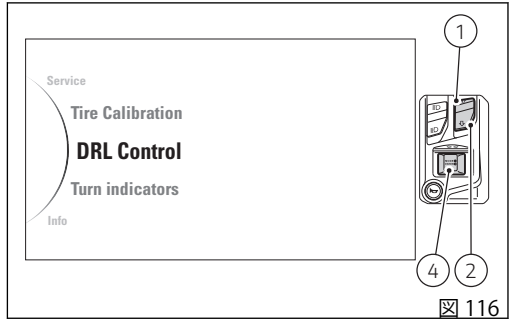


図 116

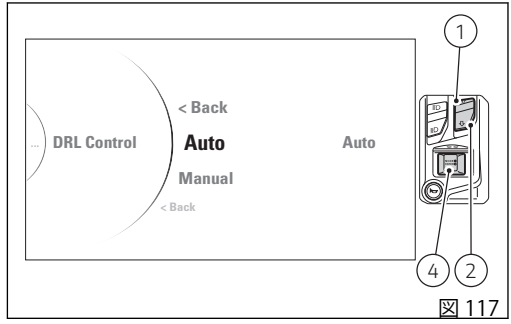


図 117

メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

**参考**
保存した設定 (“Auto” または “Manual”) は Key-OFF 後も維持されます。バッテリーの電圧が切れた場合 (Battery Off) は、電源回復後の Key-ON 時に自動的に "Auto" モードに設定されます。

## 設定メニュー - Bluetooth デバイス設定 ー アクセサリー (Bluetooth)

この機能はペアリングデバイスを管理し、デバイスの表示、新規デバイスの追加、ペアリング済みデバイスの削除を行います。Bluetooth モジュールが搭載されている場合のみ利用することができます。

設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して "Bluetooth" を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。
- < Back
- Associated Devices
- Pairing
- < Back

ボタン (1) および (2) を使用して、希望の機能を選択します。

“Associated Devices” を選択してボタン (4) を押すと、“ペアリングデバイスの表示と削除” の段落に記載されているように、ペアリングされている Bluetooth デバイス一覧が表示されます。

“Pairing” を選択してボタン (4) を押すと、“新しいデバイスの検索とペアリング” の段落に記載されているように、新しくデバイスのペアリングを行います。

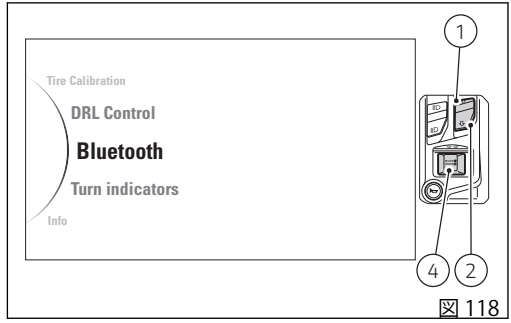


図 118

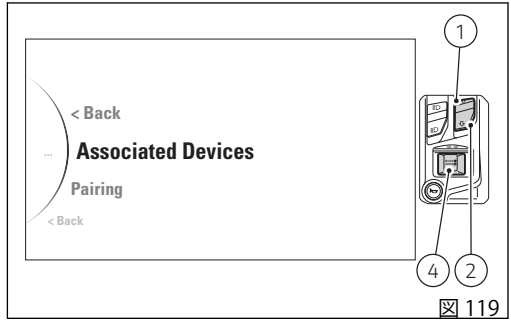


図 119

メニューを終了するには、"< Back" を選択してボタン (4) を押します。

ペアリングデバイスの表示と削除 (Associated Devices)
設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して "Bluetooth" を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。最後に、"Associated Devices" を選択し (C)、ボタン (4) を押します。

機能内にはペアリングされている全デバイスが一覧表示されます (A)。一覧に表示できるデバイス数は最大 5 台です。
各デバイスの横にはデバイスの種類を示すアイコンが表示され、デバイスの削除を行えます。

ペアリングされているデバイスがない場合、インストルメントパネルには "No Device" と表示されます (B)。

以下の通り、デバイスは最大 5 台までペアリングすることができます。
- スマートフォン 2 台
- ライダーヘルメット / インターコム 1 台
- パッセンジャーヘルメット / インターコム 1 台
- 衛星ナビゲーター 1 台

ボタン (1) とボタン (2) を押して、ペアリングデバイスの一覧をスクロールして選択することができます。

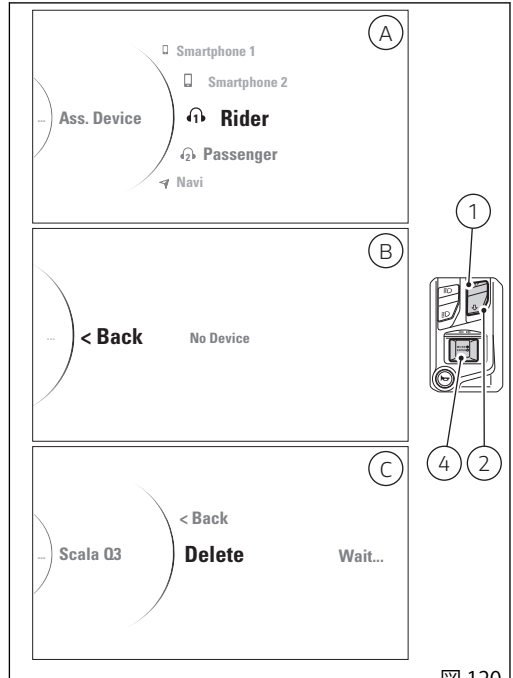


図 120

削除するデバイスを一覧から選択した後、ボタン (4) を押して削除に進みます。
インストルメントパネルの左側に選択したデバイス名が表示され、中央に “< Back”、左側に “Delete” が表示されます (C)。
“Delete” の文字を選択してボタン (4) を押すと、デバイスが削除されます。画面右側に “Wait..” の文字が数秒間表示された後、更新されたペアリングデバイス一覧の表示に戻ります (A)。

削除を実行しない場合は、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

**警告**
以下のキットに付属しない Bluetooth 対応のナビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに正しく接続できない場合があります。
- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット

**参考**
上記Ducatiキットは、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

## 新しいデバイスのペアリング

この機能は新しいBluetoothデバイスをインストルメントパネルにペアリングします。デバイスにアクセスし、インストルメントパネルから検出できるように設定する必要があります。
検出モードにあるとき、Bluetoothデバイスはワイヤレスシグナルを送信し他のデバイスから検出されるようにします。このモードは、ペアリングモードと呼ばれることもあります。
車両にはBluetoothコントロールユニットを搭載することができます。これによりBluetoothに対応する電子機器間での通信が可能になります。

新しいBluetooth機器をペアリングするには、設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して "Bluetooth" を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。"Pairing" を選択し (C)、ボタン (4) を押します。

**警告**
Bluetoothヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります (スマートフォン、ヘッドセット)。

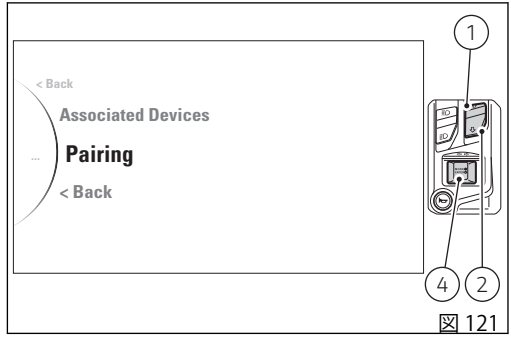


図 121

**警告**

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更が Bluetooth ヘッドセット (音楽共有、マルチメディア再生など) の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン (Bluetooth 対応プロファイルによる) に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- "Kit Ducati キット (部品番号： 981029498)" に付属しないヘッドセット。
- 必要な Bluetooth プロファイルに対応していないスマートフォン ("Ducati キット　部品番号： 981029498" に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも)

**警告**

外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット (部品番号：981029498) ではライダーヘルメットからパッセンジャーヘルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができます (詳しくは Ducati キット (部品番号：981029498) に付属のヘッドセット取扱説明書を参照)。

**参考**

Ducati キット (部品番号： 981029498) は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

機能に入ると (A)、ペアリングできるデバイスの種類が表示されます。

- < Back
- Smartphone
- Rider
- Passenger
- Navi
- < Back

ボタン (1) および (2) で検索を開始するデバイスの種類を選択し、ボタン (4) を押します。

インストルメントパネルは Bluetooth を介して検出可能なデバイスの検索を開始します。この時、画面の左側には検索しているデバイスの種類が表示され、中央には検出されたデバイス一覧が表示されます。左側には検索が終了するまで “Wait..” の文字が表示されます。

検索が終了すると、検出されたペアリングが可能な全デバイスが一覧表示されます (B)。一覧に表示できるデバイス数は最大 20 台です。

ボタン (1) および (2) を押して目的のデバイスを選択し、ボタン (4) を押してペアリング手順を開始します。ディスプレイ右側に “Pairing..” の文字が表示されます (C)。

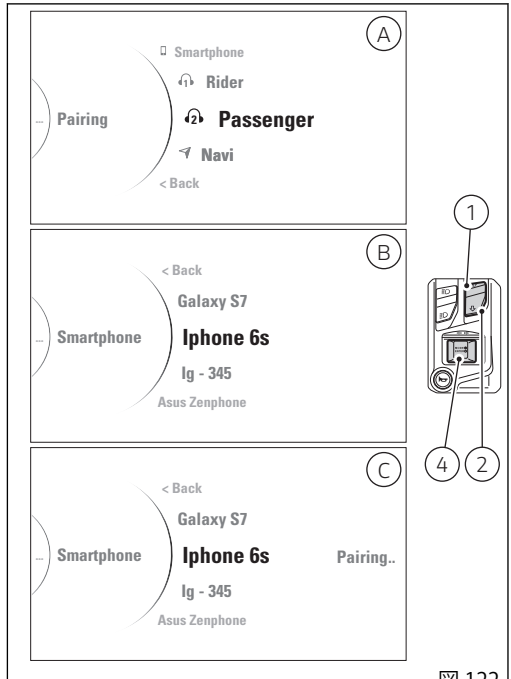


図 122

ペアリングが終了すると、デバイスがペアリングデバイス一覧に追加され (A、 図 120)、インストルメントパネルは前の画面に戻ります (A、 図 122)。

ペアリングに失敗した場合は、“Pairing Error” の文字が現れます。

Bluetooth ナビゲーターを接続する場合は、ナビゲーター本体側で車両の Bluetooth コントロールユニットとの接続を選択して接続プロセスを完了する必要があります。万一 90 秒以内にユーザーがナビゲーター側のペアリングを完了しない時は、ペアリングプロセスを完了することはできません。

## 設定メニュー - ターンインジケーターのモード設定 (Turn indicators)

この機能では、リーン角度、走行速度、走行距離を基にしたターンインジケーターの自動解除ストラテジーを自動モード、または手動モードに設定することができます。

設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して “Turn Indicators” を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。

この機能に入ると、以下が表示されます。
- < Back
- Auto
- Manual
- < Back

ボタン (1) および (2) を使用して、好みの設定を選択します。
- “Auto” を選択すると、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーが起動します。
- “Manual” を選択すると、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーを停止します (ターンインジケーターの解除は専用ボタンを使って手動で行うことになります)。

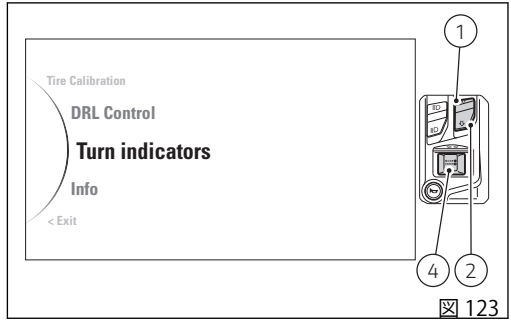


図 123

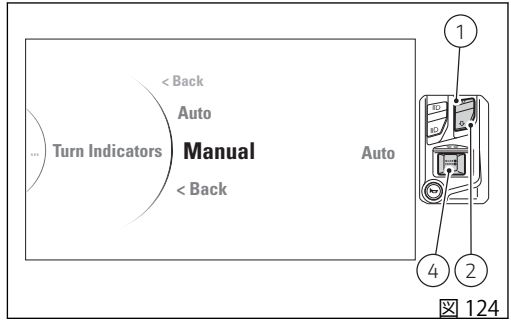


図 124

設定したい表示を強調表示したら、ボタン (4) を押して選択したモードを保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"< Back" を強調表示し、ボタン (4) を押します。

**参考**
保存した設定 (“AUTO” または “MANUAL”) は Key-OFF 後も維持されます。バッテリーが中断した場合 (Battery OFF) は、電源回復後の Key-ON 時にシステムは自動的に "AUTO" モードに設定されます。

**参考**
ターンインジケーターをハザードモードで点灯している場合は、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーは作動しません。

## 設定メニュー - 情報 (Info)

この機能では車両のバッテリー電圧とデジタル表示のエンジン回転数を表示します。

設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して “Info” を選択します。機能を表示したら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、インストルメントパネルは以下のように表示します。
- “Battery” の文字とバッテリー電圧値
- “rpm” の文字とデジタル表示のエンジン回転数

メニューを終了して前の画面に戻るには、ボタン (4) を押します。

“Battery” 情報は以下のように表示されます。
- バッテリー電圧が 10.9 V 以下の場合、"LOW" の文字が赤色で点滅します。
- バッテリー電圧が 11.0 V から 11.7 V の場合、電圧データが赤色で点滅表示されます。
- バッテリー電圧が 11.8 V から 14.9 V の場合、電圧データが固定表示され、通常の背景にバッテリーのアイコンが表示されます。
- バッテリー電圧が 15.0 V から 16.0 V の場合、電圧データが赤色で点滅表示されます。
- バッテリー電圧が 16.1 V 以上の場合、"HIGH" の文字が赤色で点滅します。

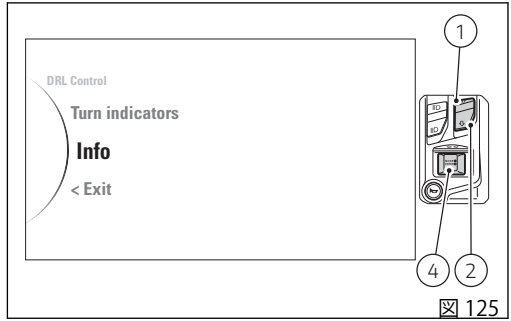


図 125

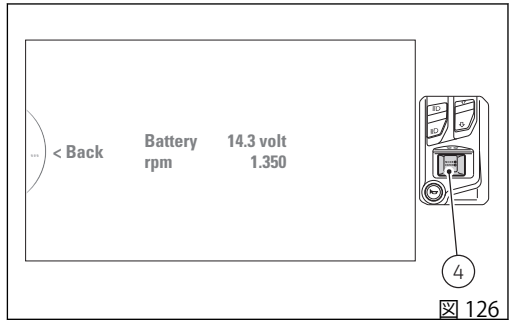


図 126

エンジン回転数をデジタル表示する“rpm”表示は、アイドリング調整時により正確な値を得るために使用することが推奨されます。
ディスプレイにエンジン回転数情報が 50 rpm 単位の数字で表示されます。
インストルメントパネルが回転数データを受信していない場合、点線 "- - - - -" が表示されます。これは値が表示できないことを示しています。

## ラップタイム (Lap)

ラップ機能を起動するには、“設定メニュー - ラップタイム (Lap)” (ページ 116) の章を参照してください。

ラップ機能を起動すると、メイン画面にストップウォッチの初期表示 "0’00.00" と、ラップ数が "Lap - -" で表示されます。
ボタン (3) を 1 回押すと、10 分の 1 秒単位でストップウォッチがカウントを開始し、周回中のラップ数が表示されます。これらの情報は最初の 4 秒間点滅し、その後固定表示に移ります。
ボタン (3) を押す度に、直前周回のラップ数とラップタイムが 6 秒間固定表示されます。
その後、インストルメントパネルは進行中の新しい周回のラップ数の表示に戻ります。
ストップウォッチが起動していても車両が停止している場合、5 秒後にストップウォッチの機能がストップし、ストップウォッチの初期表示 "0’00.00" とラップ数 "Lap - -" の表示に戻ります。
その後ボタン (3) を 1 回押すと、再びストップウォッチが起動します。

**参考**
LAP 機能が起動中、ボタン (3) はハイビーム機能のフラッシュとラップタイム機能の Start / Stop の両方に使用されます。

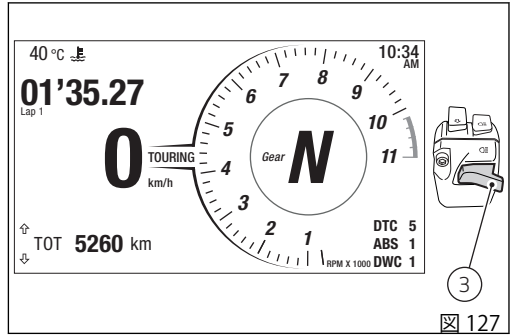


図 127

連続して 30 周回までラップタイプを記録することができます。
ラップ数は 01 から 30 まで順番に表示されます。 記録が 30 周に達すると、ボタン (3) を押した時に "FULL" の文字が固定表示されます。
ラップ記録を削除するには、“設定メニュー - ラップタイム (Lap)” (ページ 116) の章を参照してください。

インストルメントパネルは以下の場合にラップ機能を停止します。
- 設定メニューから On/Off 機能を使用した場合
- 設定メニューからラップ記録を削除した場合
- Key-OFF した場合

- システムの電力供給が中断された場合

ストップウォッチを停止しなかった場合は、タイムが「9 分、59 秒、99」に達した時点でゼロから再スタートします。上記のいずれかの方法で機能を停止するまで、カウントは継続されます。

ラップ機能を ON にしてからラップタイムのメモリーをリセットしない場合、記録されているラップ数が 30 以下 (例：18 ラップ記録済) であれば、最初の空きラップからメモリーに空きがなくなるまで残りのラップ記録を継続します (例の場合は、残り最大 12 ラップ記録できます)。

## インフォテインメント ー アクセサリー

Bluetooth コントロールユニットを搭載している場合は、インストルメントパネルに Bluetooth マーク が表示されます。
インストルメントパネルに搭載されているインフォテインメントシステムでは、Bluetooth 接続された種類の異なるデバイスを最大4台まで同時に管理することができます。

- スマートフォン 1台
- ライダーヘルメット インターコム 1台
- パッセンジャーヘルメット インターコム 1台
- 衛星ナビゲーター 1台

接続後は以下のように表示されます。

1) 接続スマートフォン
2) ライダーヘルメットの接続ヘッドセット
3) パッセンジャーヘルメットの接続ヘッドセット
4) ライダーヘルメットの接続ヘッドセットとパッセンジャーヘルメットのペアリングヘッドセット
5) パッセンジャーヘルメットの接続ヘッドセットとライダーヘルメットのペアリングヘッドセット
6) ライダーヘルメットの接続ヘッドセットとパッセンジャーヘルメットの接続ヘッドセット
7) 接続 Ducati ナビゲーター

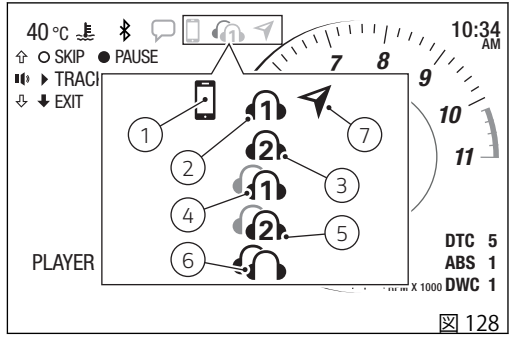


図 128

Bluetooth デバイスのペアリングまたは削除については、“設定メニュー - Bluetooth デバイス設定 - アクセサリー (Bluetooth)” (ページ 142) の章を参照してください。
インストルメントパネルにスマートフォンを Bluetooth 接続している場合は、音楽プレーヤー (ページ 78) と通話履歴 (ページ 85) の操作が可能です。
次のような場合にインストルメントパネルがどのように作動するかを以下に示します。

- 着信
- 通話中
- 直前の電話番号にリダイヤル (RECALL)

- 不在着信
- 受信したメッセージ / E メール

インフォテインメント – 着信

スマートフォンをインストルメントパネルに Bluetooth 接続している時に着信があると、ディスプレイには次のように表示されます。

- 矢印 ⇧ の横に “ACCEPT” の文字 (A)
- 発信元の名前 / 電話番号 (B)
- 矢印 ⇩ の横に “DECLINE” の文字 (C)

ボタン (1) とボタン (2) を使って、着信に応答するか着信を拒否することができます。具体的には：

- 着信を受けるには、ボタン (1) を押します。
- 着信を拒否するには、ボタン (2) を押します。

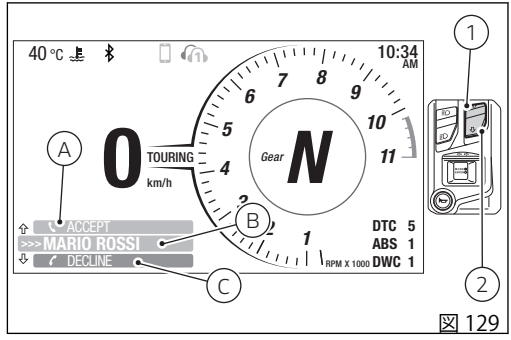


図 129

**参考**

着信中は、ボタン (1) とボタン (2) を押しても機能のブラウズ操作にはならず、着信の応答・拒否を行います。

インフォテインメント – 通話中

着信に応答すると、インストルメントパネルには次のように表示されます。

- “ACTIVE” 表示 (A)
- 通話相手の名前 / 電話番号と、その前に “>>>” マーク (B)
- 矢印 ⇩ の横に “END CALL” (C)

通話を終了するには、ボタン (2) を押します。

LAST CALLS 機能や RECALL 機能などを使用して通話を発信すると、インストルメントパネルには次のように表示されます。

- “ACTIVE” 表示 (A)
- 通話相手の名前 / 電話番号と、その前に “<<<” マーク (B)
- 矢印 ⇩ の横に “END CALL” (C)

通話を終了するには、ボタン (2) を押します。

**参考**

スマートフォンの他にライダーヘルメットインターコムが接続されている場合は、通話中の会話はヘルメットのイヤホンとマイクを通して再生されます。

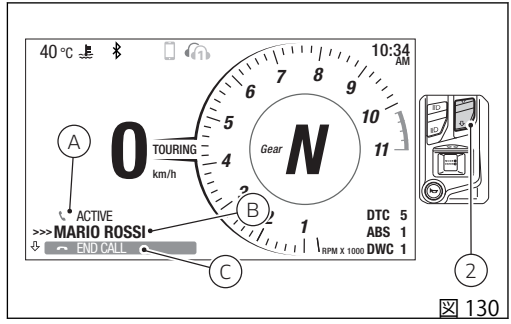


図 130

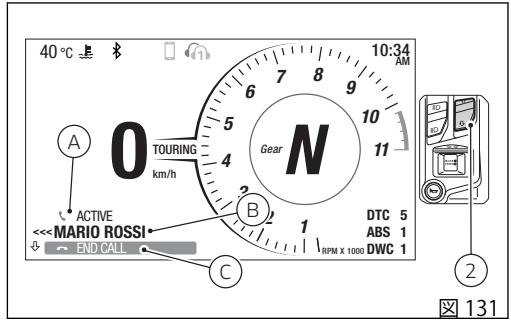


図 131

インフォテインメント – 直前の電話番号にリダイヤル (RECALL)
通話を終了した場合、または不在着信、着信拒否した場合は、インストルメントパネルは RECALL 機能を 5 秒間有効にし、直前の電話番号にリダイヤルすることができます。

インストルメントパネルの表示：

- 矢印の横に “RECALL” の文字 (A) ⇧
- 通話相手の名前 / 電話番号と、その前に “<<<” マーク (発信) または “>>>” マーク (着信) (B)

表示されている名前 / 電話番号にリダイヤルするには、ボタン (1) を押します。

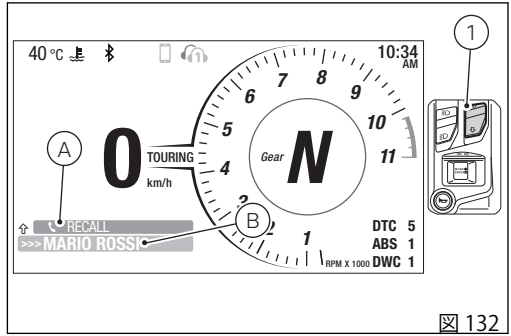


図 132

インフォテインメント – 不在着信

不在着信があると、インストルメントパネルにマーク (A) が 60 秒間表示されます。マークは最初の 3 秒間点滅します。

**参考**

不在着信の相手番号は表示されません。

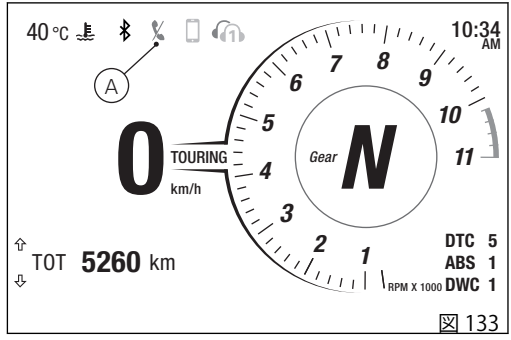


図 133

インフォテインメント – 受信したメッセージ / E メール

メッセージや E メールを受信すると、インストルメントパネルはマーク (A) を 60 秒間表示して知らせます。マークは最初の 3 秒間は点滅します。

**参考**

メッセージの相手先番号や E メールアドレスは表示されません。

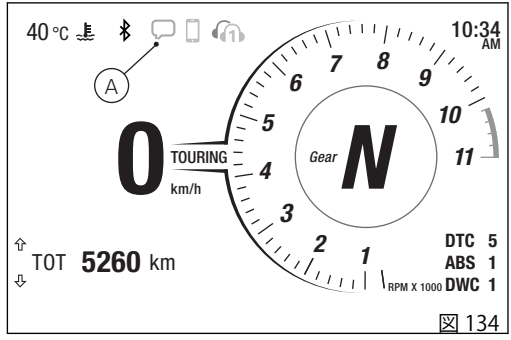



図 134

## メンテナンス表示 (SERVICE)

この表示は、Ducati 正規サービスセンターで車両のメンテナンス (定期点検) を実施する必要があることをユーザーに通知します。
メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati 正規サービスセンターでのみ行うことができます。
メンテナンス間隔の種類は図中に示す領域に表示されます。メンテナンスの種類には以下のものがあります。

- OIL SERVICE カウントダウン
- OIL SERVICE
- ANNUAL SERVICE カウントダウン
- ANNUAL SERVICE
- DESMO SERVICE カウントダウン
- DESMO SERVICE

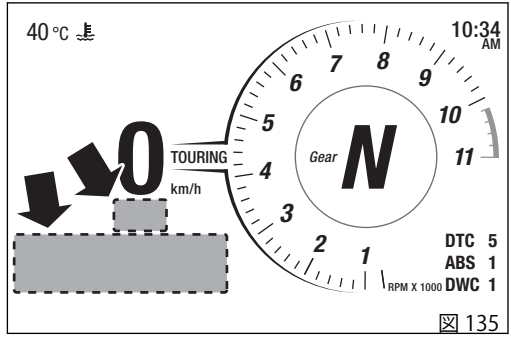


図 135

## Oil Service、Date Service、Desmo Service カウントダウン表示

サービスの設定期限が近づくと、Key-ON する度に以下の表示が黄色で 5 秒間表示されます。

- 定期点検までの走行距離が 1,000 km (600 mi) を切ると、OIL SERVICE (A) の表示と残り走行距離のカウンター (キロまたはマイル) が、オドメーター (TOT) の代わりに表示されます。
- 定期点検までの日数が 30 日を切ると、ANNUAL SERVICE (B) の表示と残り日数のカウンターが表示されます。
- 定期点検までの走行距離が 1,000 km (600 mi) を切ると、DESMO SERVICE (C) の表示と残り走行距離のカウンター (キロまたはマイル) が、オドメーター (TOT) の代わりに表示されます。

設定メニュー内にサービス期限を表示することができます (Oil Service：キロまたはマイル、Desmo Service：キロまたはマイル、Annual Service：年/月/日)。詳しくは “設定メニュー - サービス情報 (Service)“ (ページ 135) をご覧ください。

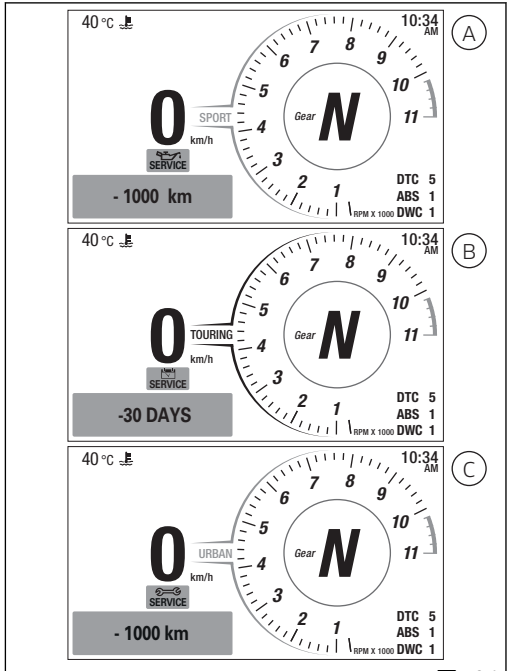



図 136

## Oil Service、Date Service、Desmo Service 表示

メンテナンスを必要とする走行距離に達すると、次のうち必要なメンテナンスが表示されます。

- OIL SERVICE (A)
- ANNUAL SERVICE (B)
- DESMO SERVICE (C)

実施するメンテナンスの種類が赤色で表示されます。その後 Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて "リセット" されるまで常時表示されます。

設定メニュー内にサービス期限を表示することができます (Oil Service：キロまたはマイル、Desmo Service：キロまたはマイル、Annual Service：年/月/日)。詳しくは “設定メニュー - サービス情報 (Service) ” (ページ 135) をご覧ください 。

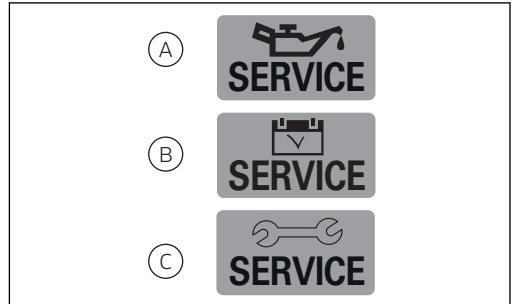



図 137

## DRL 自動モード表示 ー アクセサリー

この機能は DRL を搭載している場合にのみ利用でき、DRL が “AUTO” に設定されていることを示します。

設定メニューから DRL 制御モードを変更することができます。詳しくは “設定メニュー - DRL モード設定 - アクセサリー (DRL Control)” (ページ 140) を参照してください。

DRL が“AUTO” モードに設定されている時は、インストルメントパネルに緑色ランプ (A) が点灯します。

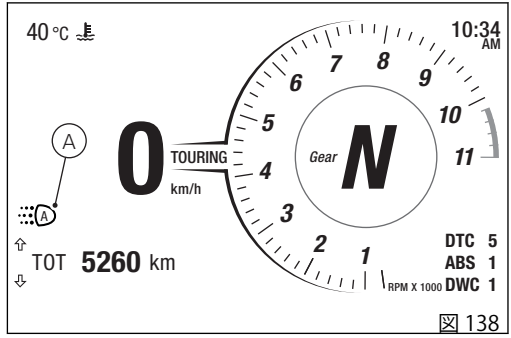


図 138

## サイドスタンドの状態表示

サイドスタンドが下りている/開いている場合には、赤色の背景に "SIDE STAND" アイコンがディスプレイに表示されます。

インストルメントパネルがサイドスタンドの状態に関するデータを受信しない場合、"SIDE STAND" アイコンが点滅して不明の状態を表します。

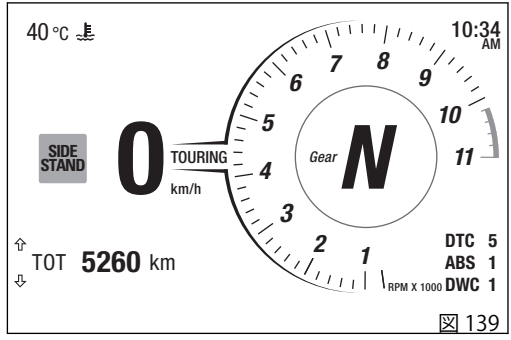


図 139

## 注意および警告

車両使用中にユーザーに有用な情報を提供するため、インストルメントパネルは一連の注意/警告 (warnings) を管理します。
KEY-ON 時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が表示されます。
警告が検知された時点で、インストルメントパネルには警告が最初の 5 秒間大きく表示され、その後は小さく表示され続けます。
複数の警告が検知された場合、各警告アイコンが 3 秒ずつ順番に表示されます。

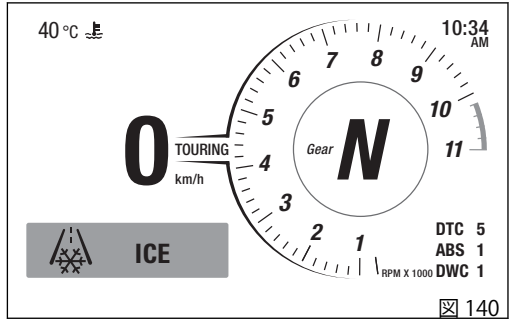


図 140

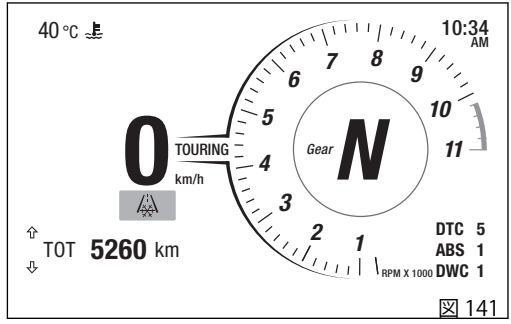


図 141

路面凍結警告表示 (ICE)
この機能では、外気温が低いため路面凍結の危険があることを表示します。
温度が 4°C (39°F) に下がると表示され、 6°C (43°F) に上がると表示が消えます。

**警告**
気温が 4°C (39°F) 以上でも道路が氷結している可能性があります。外気温が "低い" 時、特に日陰や橋の上では細心の注意を払って運転してください。

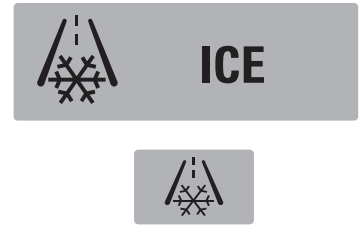



図 142

バッテリーレベル低下表示 (LOW BATTERY)
この機能は車両のバッテリー充電レベルが低下していることを通知します。
バッテリー電圧が 11.0 V 以下になると表示されます。

**参考**
この場合、車両を始動できなるおそれがありますので、正規チャージャーで速やかにバッテリーを充電してください。

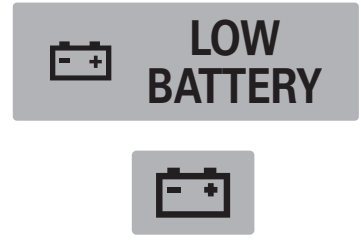



図 143

日付入力 (INSERT DATE)
この機能は設定メニューから日付を入力する必要があることを通知します。

**参考**
この場合は一旦停車し、"日付の設定 (Date and Clock)" 機能から日付を入力してください。

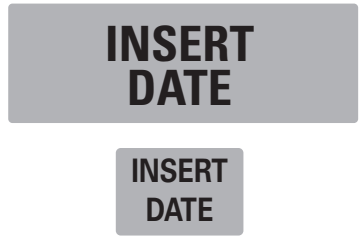


図 144

## エラー

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。

車両の Key-ON 時にエラーが検知された場合、インストルメントパネルのディスプレイに MIL ランプ (A) (エンジンコントロールユニットに直接関連するエラー) もしくは一般的エラー警告灯 (B) (その他エラー全般) が点灯します。

車両の通常作動時にエラーが検知されると、インストルメントパネルには MIL ランプ (A) もしくは一般的エラー警告灯 (B) が点灯します。

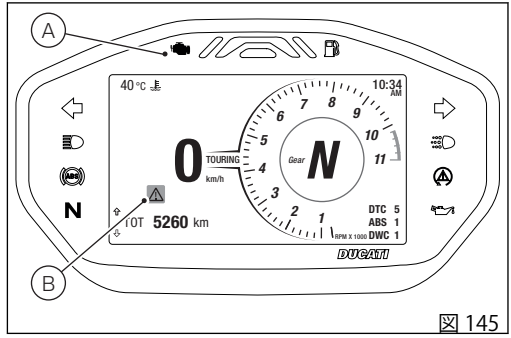


図 145

**警告**

ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

## ライトコントロール

ロービーム / ハイビームランプ (DRL 非搭載バージョン)

Key-ON 時、ロービームランプおよびハイビームランプは消灯 (OFF) したままパーキングランプのみが点灯します。

エンジンの始動後、ロービームランプが自動的に点灯します。ボタン (7) のポジション (B) とポジション (A) を切り替えて、ロービームランプとハイビームランプを切り替えることができます。ボタン (3) を押すとライトをフラッシュします。Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン (7) をポジション (B) と (A) に押してロービーム / ハイビームランプを起動できます。ボタン (3) を押すとライトをフラッシュします。

ロービーム / ハイビームランプを手動で起動してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ランプは再び消灯 (OFF) します。

車両のバッテリー充電状態を維持するため、ハイビームランプ、ロービームランプが点灯している場合にはエンジン始動時にヘッドライトは自動的に消灯します。エンジンが完全に始動した時点で再び点灯します。

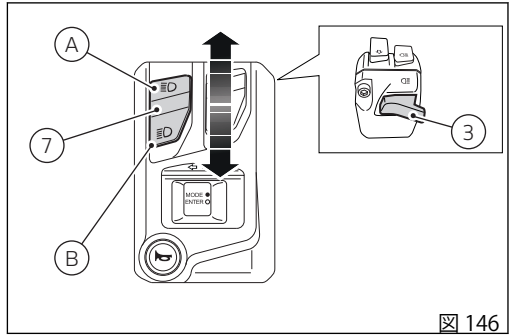


図 146

ロービーム / ハイビームランプ (DRL 搭載バージョン)

Key-ON 時、ロービームランプおよびハイビームランプは消灯 (OFF) したままパーキングランプおよび DRL のみが点灯します。

エンジンを始動した時、AUTO モードに設定されており、インストルメントパネルが外光の弱い状況 (NIGHT) を検出した場合は、ロービームランプが自動的に点灯します。一方、外光の強い状況 (DAY) を検出した場合には、DRL が点灯を続け、ロービームランプは消灯したままになります。

ロービーム / ハイビームランプを手動で起動してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ランプは再び消灯 (OFF) します。

ロービームランプが点灯した場合、ボタン (7、 図 146) のポジション (A) でハイビームランプも点灯するか、ボタン (3、 図 146) でライトをフラッシュすることができます。
Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン (7、 図 146) をポジション (B) と (A) に押してロービーム / ハイビームランプを起動できます。ボタン (3、 図 146) を押すとライトをフラッシュします。

車両のバッテリー充電状態を維持するため、ハイビームランプ、ロービームランプ、DRL のいずれかが点灯 (ON) している場合にはエンジン始動時にヘッドライトは自動的に消灯します。エンジンが完全に始動した時点で再び点灯します。

DRL (デイタイムランニングライト) の AUTO モード ー DRL 搭載バージョンのみ

設定メニューから DRL を AUTO に設定している場合は、インストルメントパネルが、検出された外光の明るさに基づいて、DRL とロービームライトの関係を次のように自動管理します。

- 十分な外光が検出されると (昼間)、DRL を点灯してロービームライトを消灯します。
- 十分な外光が検出できない場合 (夜間) は、ロービームライトを点灯して DRL を消灯します。

このモードでは、検出された外光の明るさを基にして、インストルメントパネルが DRL とロービームライトを自動で切り替えます。DRL が AUTO モードで点灯している時は、ディスプレイに緑色ランプ (A) が点灯します。

**警告**

外光の弱い状況下、特に霧や曇りの時に DRL を AUTO (自動) モードで使用すると、非常に危険な場合があります。このような場合には、ロービームランプを自動で点灯するようにしてください。

設定メニューから DRL を AUTO モードに設定している時にボタン (5) を押すと、自動管理が解除されて通常のライト管理に戻ります。もう一度ボタン (5) を押すと、DRL が MANUAL 管理モードで再び起動します。

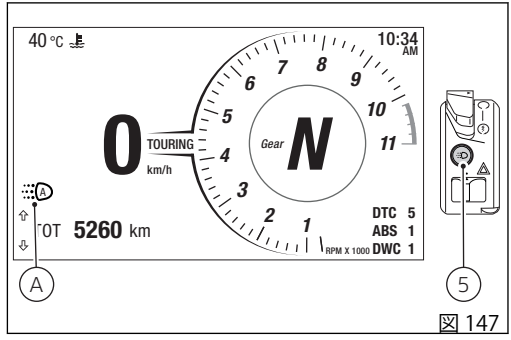


図 147

この場合 DRL は、次回の Key-OFF と Key-ON 時に再び AUTO モードに設定されます。

DRL (デイタイムランニングライト) の MANUAL モード ー DRL 搭載バージョンのみ
設定メニューから DRL をこのモードに設定している時は ページ 140、エンジンを始動しても DRL ステータスは変更されません。
DRL を停止 / 点灯するにはボタン (5、 図 147) を押してください。

**警告**
外光の特に弱い状況下 (暗闇) で DRL を使用すると、運転中の視界を損なう危険だけでなく、対向車のドライバーの目をくらませるおそれがあります。

**参考**
日中であれば対向車のドライバーはロービームランプに比べて DRL の方が知覚しやすいため、DRL の日中の使用は視認性を高めます。

ターンインジケーター
インストルメントパネルは、設定メニューからの設定に基づいてターンインジケーターを手動モードまたは自動モードで制御します。詳しくは “設定メニュー - ターンインジケーターのモード設定 (Turn indicators)” (ページ 150) を参照してください。

手動解除：
2 つのうちどちらかのターンインジケーターを起動した後、ボタン (4) で解除することができます。

自動解除：
自動解除：
車両速度、リーンアングル、車両の動的制御の分析から右左折の動作の終了を感知して、ターンインジケーターが自動的に消灯します。

ターンインジケーターの作動中、ターンインジケーターを作動させようとしてターンインジケーターボタンを再び押すと、自動解除機能は再度初期化されます。

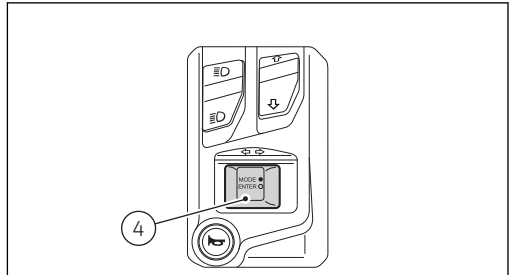


図 148

**警告**
自動解除システムは、ライダーがターンインジケーターをより快適に操作できるように助ける、ライダー支援システムです。こうしたシステムは、ほとんどの運転において動作するように開発されていますが、ライダー自身がターンインジケーターの動作に注意を払わなくてよくなる機能ではありません (必要に応じて手動で作動/停止)。

ハザード機能 (ターンインジケーターすべて点滅)

ハザード機能は、非常事態を知らせるために 4 つのターンインジケーターすべてを同時に起動します。
ボタン (6) を押してこの機能を起動します。
ハザード機能の作動中は、4 つのターンインジケーターおよびインストルメントパネルの該当するランプ (ランプ 6、「インストルメントパネル」参照) が同時に同期点滅します。

Key-ON 時にハザード機能を起動すると、Key-OFF しても作動を続けます。
Key-OFF 状態でハザード機能が作動している場合、自動的に消灯するのは 120 分後です。
Key-OFF 状態の時にハザード機能を起動することはできません。

**参考**

"ハザード" 機能の作動中に車両を Key-ON した場合、ハザード機能は作動し続けます (ただし、インストルメントパネルの初期点検中にハザード機能が一時的に中断される場合があります)。

**参考**

パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。

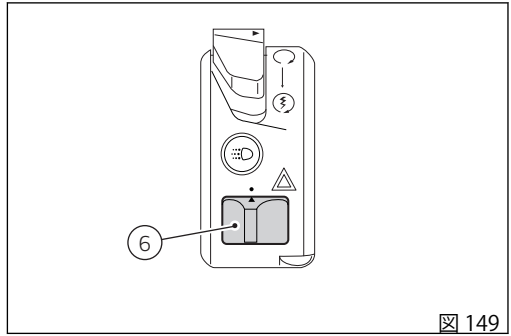


図 149

**参考**

"ハザード" 機能は、ターンインジケーターの通常機能より優先されます。そのため、"ハザード" 機能が作動している場合は左右インジケーターを個別に起動することはできません。

## イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをブロックする電子システム (イモビライザー) が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。
各キーには電子装置が内蔵されており、スイッチ内に組み込まれた特殊アンテナが起動時に発する信号を変調します。
変調された信号は起動毎に異なる "パスワード" から構成され、これによりコントロールユニットはキーを識別します。正常に識別された場合のみエンジンを始動させることができます。

## キー

車両には 2 個のキーが付属しています。
キーには "イモビライザーシステムの暗号" が含まれています。
キー (B) は通常時に使用し、以下の操作に必要です。

- 起動
- フィラープラグの開閉
- シートロックの解除

**警告**
キーは別々に保管し、車両を使用する際は 2 本のキーのどちらか一方を使用してください。

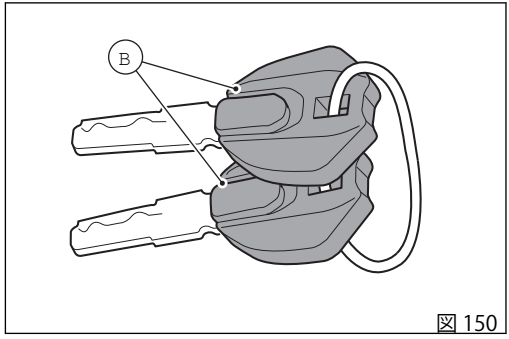


図 150

## キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducatiアシスタンスネットワークにご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。
Ducatiアシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。
Ducatiアシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただく場合があります。
登録作業中に提示されなかったキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくするためです。

**参考**

車両の所有者を変更した場合は、必ず新規所有者にすべてのキーを譲渡してください。

## PIN CODE による車両の解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。
PIN CODE 機能が有効な場合は、インストルメントパネルに “Insert Pin” の文字と 4 桁の PIN CODE 入力スペース“0” と “- - -“ が表示されます。

コードの入力：
1) ボタン (1) を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
2) ボタン (2) を押す度に数字が "0" までひとつずつ小さくなり、その後 "9" に戻ります。
3) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

ボタン (4) を押して 4 桁すべての数字を決定した後、
- PIN CODE の検証中に問題が発生した場合は、インストルメントパネルに "ERROR" の文字が 2 秒間表示され、その後スタンダードスクリーンに戻ります。
- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "WRONG" を 2 秒間表示します。その後 “Insert Pin” の文字と 4 桁の入力スペースを再び表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "CORRECT" を 2 秒間表示し、その後画面はスタンダードスクリーンに戻ります。

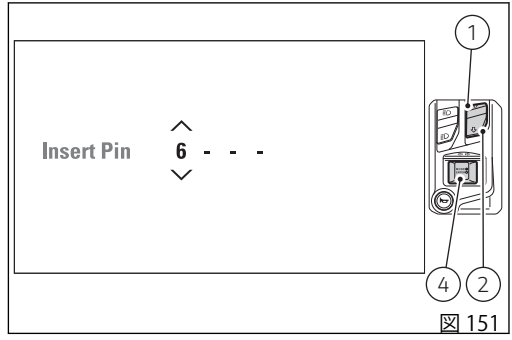


図 151

**重要**
車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

# 運転時に必要なコマンド

## コマンド類の配置

**警告**
この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

1) インストルメントパネル
2) イグニッションスイッチ / ステアリングロック
3) 左側スイッチ
4) クラッチレバー
5) リアブレーキペダル
6) 右側スイッチ
7) スロットルグリップ
8) フロントブレーキレバー
9) ギアチェンジペダル

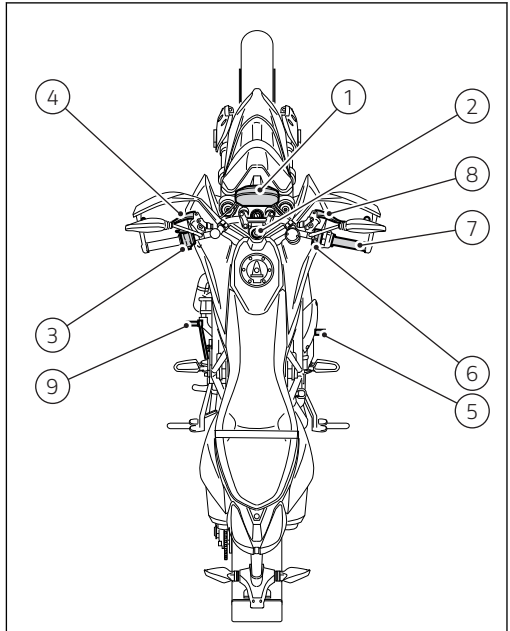


図 152

## イグニッションスイッチ / ステアリングロック

燃料タンクの前にあり、4 つのポジションがあります。

A) ∩ ：エンジンおよびランプを ON にする
B) ⊠ ：エンジンおよびランプを OFF にする
C) 🔒 ：ステアリングロック状態
D) ⊨ ：パーキングランプおよびステアリングロック

**参考**

キーを上記の下二つの位置に合わせるに は、キーを押してから回してください。(B)、(C)、(D) の位置でキーを引き抜くことができます。

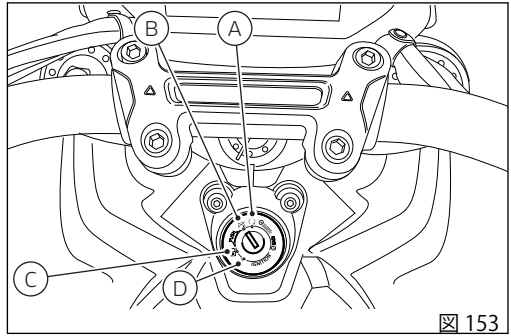


図 153

## ハンドルバー左側スイッチ

1) ディマースイッチ、ビームの選択、2 ポジション：
   ポジション ≡D = ロービームランプ点灯 (A)
   ポジション ≡D = ハイビームランプ点灯 (B)
2) ボタン ≡D = フラッシャー (FLASH) およびインストルメントパネルコントロール (C)。
3) インストルメントパネルコントロールボタン、ポジション UP "▲" とポジション DOWN "▼"
4) ボタン ⇔ = 3 ポジション、ターンインジケーターボタン：
   中央 = OFF
   ポジション ⇦ = 左折
   ポジション ⇨ = 右折
   ターンインジケーターを解除するには、中央に戻ってからコントロールレバーを押します。
5) ボタン = 警告ホーン

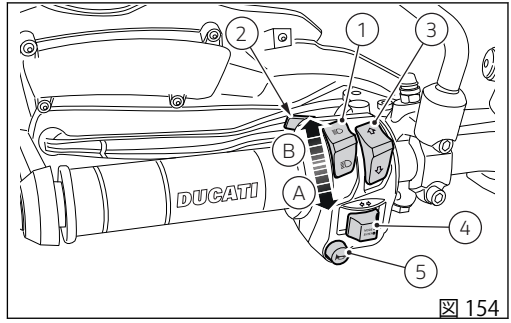


図 154

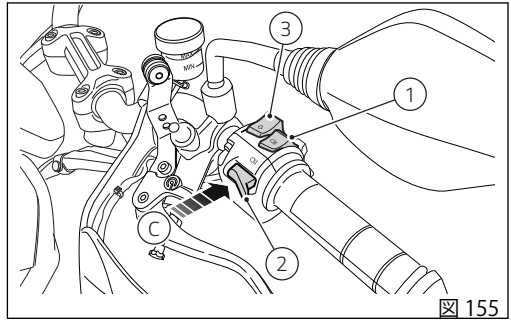


図 155

## クラッチレバー

レバー (1) をスロットルグリップの方へ引くと、クラッチが作動します。
このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。
コントロールレバーにはアジャスター (2) が付いており、レバーとグリップとの間隔を調整することができます。
レバーの間隔はアジャスター (2) の 10 クリックで調整できます。
時計方向に回すとレバーはグリップから遠ざかります。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

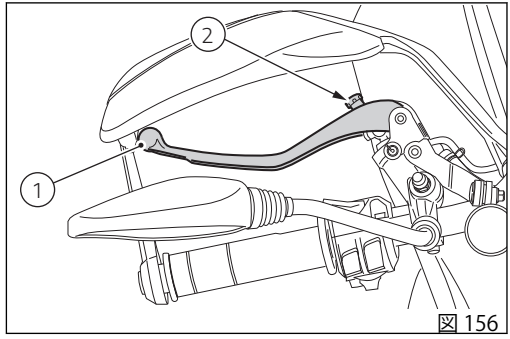


図 156

**警告**
これらのコマンドを使用する前に "車両の起動および走行" に記載されている内容をお読みください。

**警告**
フロントブレーキ (クラッチ) レバーの調整は停車時に行ってください。

## ハンドルバー右側スイッチ

1) 赤色スイッチ　ON/OFF。
2) DRL ボタン。
3) ハザードボタン。

スイッチ (1) には 3 つのポジションがあります。

上側位置：エンジンの停止
中央位置：エンジンを ON にする
下に押す：エンジンの始動

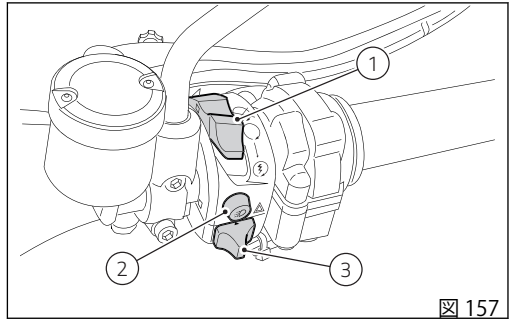


図 157

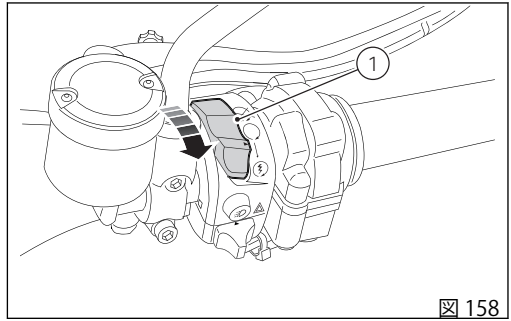


図 158

## スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップ (1) は、スロットルボディのバルブ開閉を制御します。グリップを離すと、自動的に元の位置 (アイドリング状態) に戻ります。

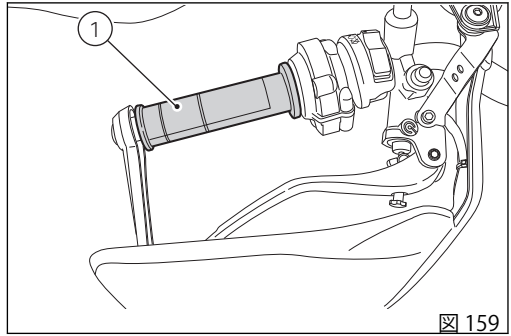


図 159

## フロントブレーキレバー

レバー (1) をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。この機種には調整用つまみ (2) が搭載されているため、レバーとグリップとの間隔を調整することができます。
レバーの間隔はアジャスター (2) の 10 クリックで調整できます。
時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。
アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

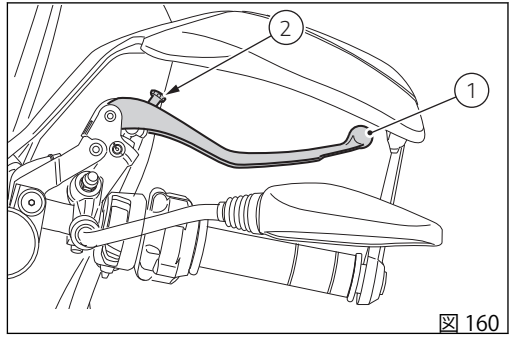


図 160

**警告**
これらのコマンドを使用する前に "車両の起動および走行" に記載されている内容をお読みください。

**警告**
フロントブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

## リアブレーキペダル

リアブレーキ (1) をかけるには、ペダルを足で下に押してください。
制御システムは油圧式です。

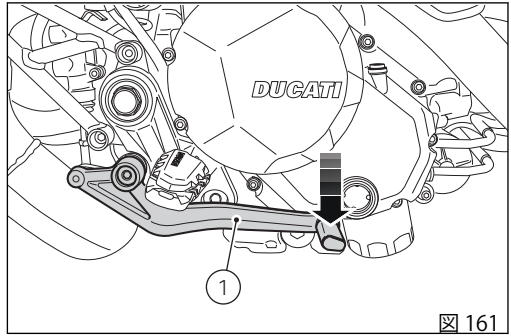


図 161

## ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルは中央のニュートラルポジションNに自動的に戻ります。ニュートラルポジションであることはインストルメントパネルのランプNで表示されます。

ペダルは次のように動かせます。

- 下へ＝シフトダウンおよび1速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプNが消えます。
- 上へ＝ペダルを上へ上げることで、2速から順次3速、4速、5速、6速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

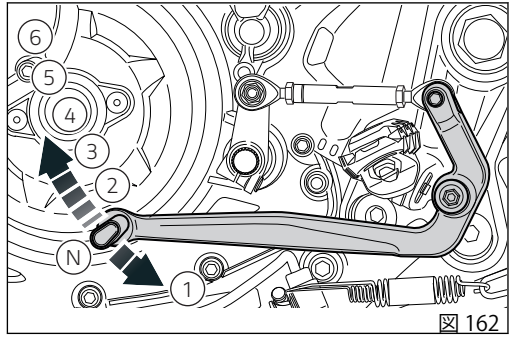


図 162

## ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。
これらの調整は以下の手順で行ってください。

ギアチェンジペダル

**参考**
ナット (2) は、逆ネジになっています。

ロックナット (2)、(3) を緩めます。
スパナをレンチ固定位置 (A) で操作してロッド (1) を回転させ、ギアチェンジペダルを好みの位置に定めます。
ロッドに両方のロックナット (2)、(3) を締め付けます。
調整が完了したら、値 (A) が次の正しい値になっていることを確認します。
A= 95 mm (±3 mm) / (3.74 in) (±0.12)。

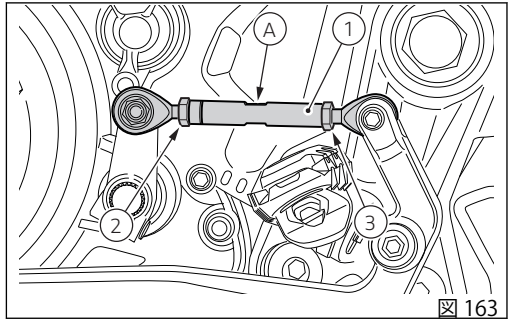


図 163

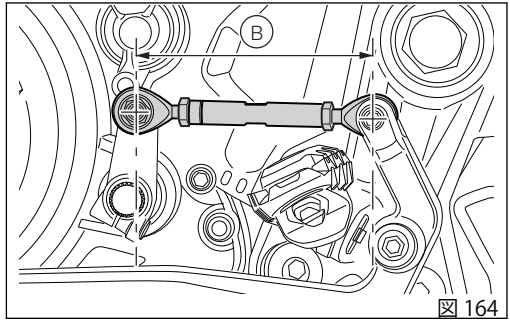


図 164

## リアブレーキペダル

ナット (7) を緩めます。
ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー (6) を回します。ロックナット (7) を締め付けます。
ペダルを手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに約1.5〜2 mmの遊びがあるかを確認します。上記のような遊びが確認できない場合は、以下の記載に従いマスターシリンダーのロッドの長さを調整します。
マスターシリンダーのロッドのロックナット (10) を緩めます。
ロッド (8) をフォーク (9) に締め込むと遊びが増加し、緩めると遊びが減少します。
ロックナット (10) を締め付け、再度遊びを点検します。

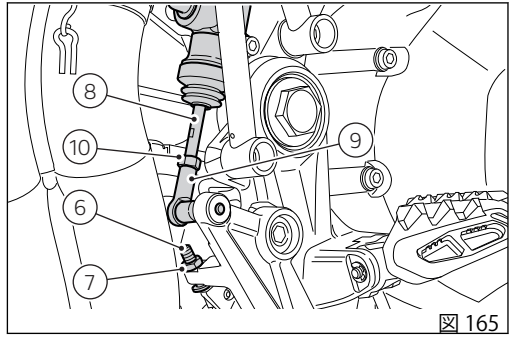


図 165

# 主要構成部品 / 装備

**車両上の配置**
1) フィラープラグ。
2) シートロック。
3) サイドスタンド。
4) リアビューミラー。
5) リアショックアブソーバーアジャスター。
6) 触媒コンバーター。
7) エキゾーストサイレンサー。

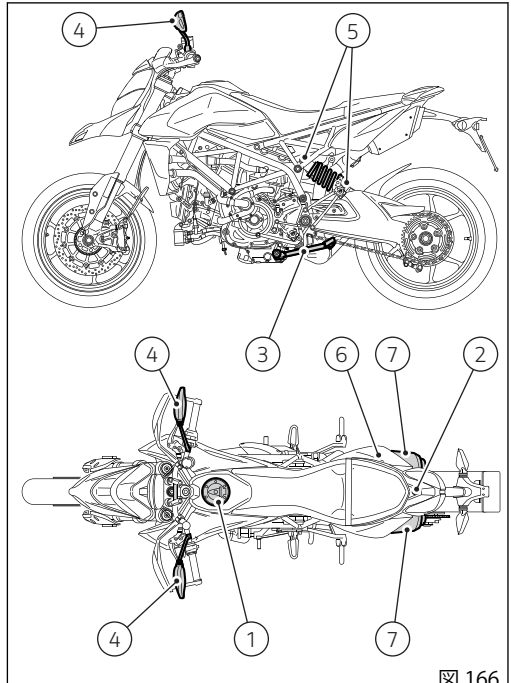


図 166

## 燃料フィラープラグ

開け方

保護カバー (1) を持ち上げ、キーをロックに挿入します。キーを時計回りに 1/4 回転させ、ロックを解除します。

閉じ方

キーを挿入してキャップを閉じ、所定の位置でキャップを押します。キーを反時計回りに元の位置まで回し、抜き取ります。ロック保護カバー (1) を閉じます。

**参考**

キーが挿入された状態でのみキャップを閉めることが可能です。

**警告**

燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。

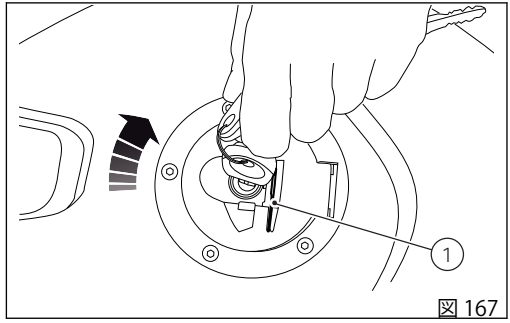


図 167

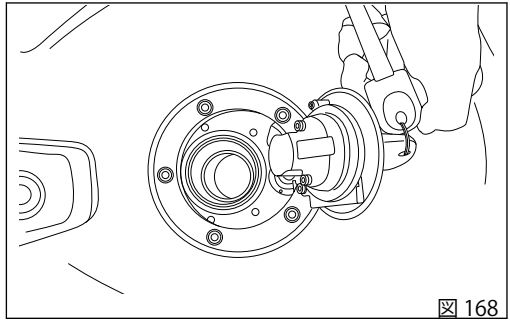


図 168

## シートロック

### 取り外し

ラジエーター右側に設置されているレンチ (1) を使用して、シートをテールガードに固定するスクリュー (2) を緩めて外します。

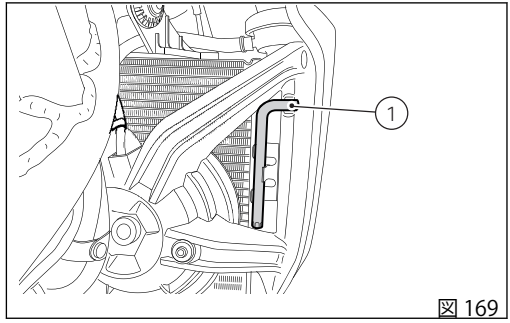


図 169

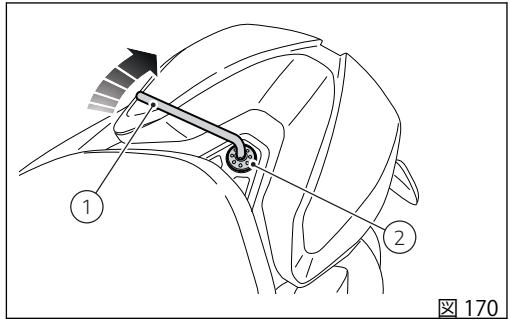


図 170

アンカー (A)、(B)、(C) を車両側の取り付け位置 (D)、(E)、(F) から外し、シート (3) を後方に動かして取り外します。

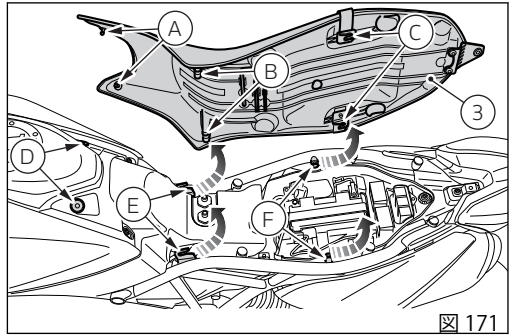


図 171

**取り付け**

反対の手順で操作します。アンカー (B) と (C) を取り付け位置 (E) と (F) に固定し、シート (3) を車両に取り付けます。次に、基準ピン (A) を取り付け位置 (D) に押し入れます。

スクリュー (2) を付属のレンチ (1) で締め付けてから、ラジエーター右側の所定の場所にレンチを戻します。

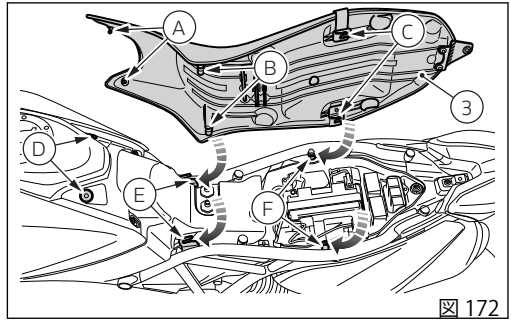


図 172

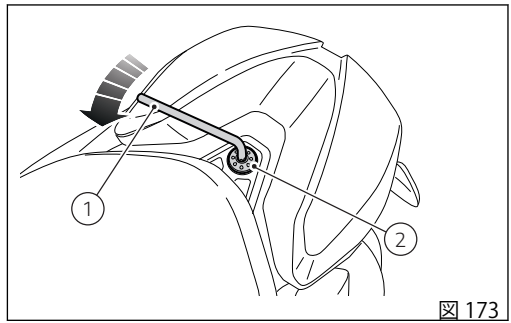


図 173

## サイドスタンド

### 重要
短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。
サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック (1) を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。
サイドスタンドを元の位置 (水平位置) に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム (1) を持ち上げます。
サイドスタンドのジョイント部の円滑な動作を維持するには、汚れをきれいに取り除いた後、摩擦が起きる部分すべてにグリース SHELL Alvania R3 を塗布します。

### 警告
サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。

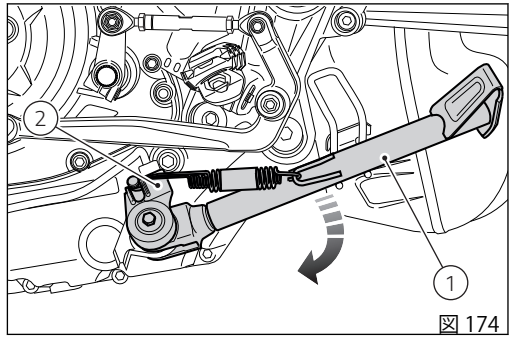


図 174

### 参考
定期的にスタンド (内側と外側 2 つのスプリングの状態) と安全センサー (2) の作動を点検することをお勧めします。

## フロントフォーク調整

車両のフォークは、リバウンドダンピング(リターン)、コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。
両レッグのスプリングプリロードは調整できますが、コンプレッションダンピングは左レッグ、リバウンドダンピングは右レッグの調整が可能です。

調整はアジャスターを使用して行います。
1) リバウンドダンピングの変更
2) スプリングプリロードの変更
3) コンプレッションダンピングの変更

車両をサイドスタンドで支え、安定した場所に駐車します。所定のドライバーで右フォークレッグの先端にあるアジャスター (1) を回転させ、リバウンドダンピングを調整します。ドライバーで左フォークレッグの先端にあるアジャスター (3) を回転させ、コンプレッションダンピングを調整します。アジャスター (1) および (3) を回すと、カチッと音がします。それぞれがダンピングの 1 クリックに相当します。

アジャスターをいっぱいに締め込むと "0" 位置になり、ダンピングが最強にセットされます。
この位置から反時計回りに回すとカチッと音がします。それぞれが "1"、"2"、･･･の位置に相当します。

標準設定は以下の通りです。

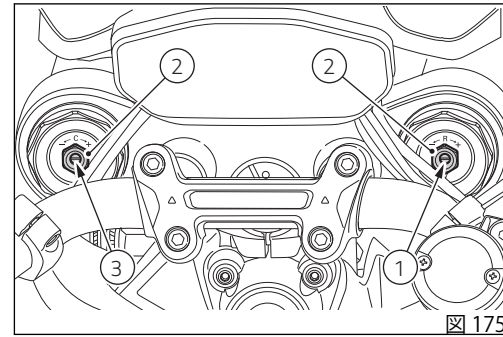


図 175

- コンプレッション (左フォークレッグ) : - すべて閉じた位置から 2 回転 (合計 4 回転)
- リバウンド (右フォークレッグ) : - すべて閉じた位置から 2.5 回転 (合計 4 回転)
- スプリングプリロード : すべて緩めた位置から + 5 回転 (基準位置から時計回りに 1 回転がプリロード 1mm (0.04 in) に相当し、最大 10mm (0.4 in) まで調整できます)。

各レッグのスプリングプリロードを変更するには、アジャスター (2) を 17 mm (0.67 in) の六角レンチで反時計回りに完全に回し、すべて緩めた位置に合わせます。この位置からアジャスターを時計回りに回し、プ

リロードを調整します。1 回転がスプリングプリロード 1 mm (0.04 in) に相当します。

**警告**
アジャスターは両方のレッグで同じ位置に調整してください。

## リアショックアブソーバーの調整

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるようアジャスターを装備しています。アジャスター (1)、リバウンド (リターン) ダンピングを調整します。
アジャスター (1) を時計回りに回すとダンピングが強くなり、反時計回りに回すと弱くなります。
ショックアブソーバー上部の 2 個のリングナット (2) はスプリングプリロードを調整します。スプリングプリロードを変更するには、上部固定リングナットを緩めます。
下部リングナットを締める、または緩めることでプリロードの強弱を調整します。

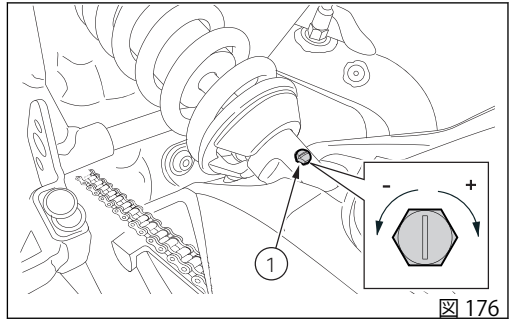


図 176

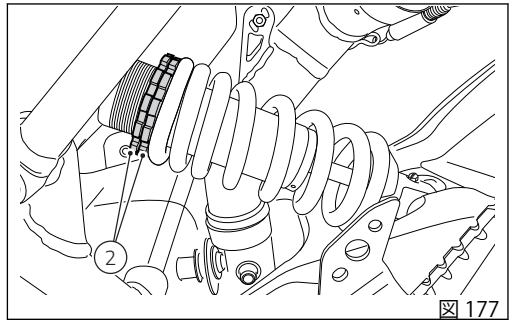


図 177

標準設定：すべて閉じた位置から、スプリングプリロードを値 A にします (時計回り)。
- リバウンド：アジャスター (1) を最大 (すべて閉じた位置) から 1.5 回転緩めます。
- スプリングプリロード：最大許容プリロードは値 B に対応します。

A = 22±2 mm (0.87±0.08 in)
B= 27 mm (1.06 in)。

**警告**
性能が損なわれる恐れがあるので、プリロードは指示されているものを超えないでください。

**警告**
プリロードを調整したら、固定用リングナットを調整用リングナットに再び締め付けます。

**警告**
プリロードアジャスターを回すにはピンレンチを使用します。作動中にリングナットのすき間にレンチのソケット部分が急に落ちた場合に車両の他の部品に手を強くぶつけてケガをしないよう十分注意してください。

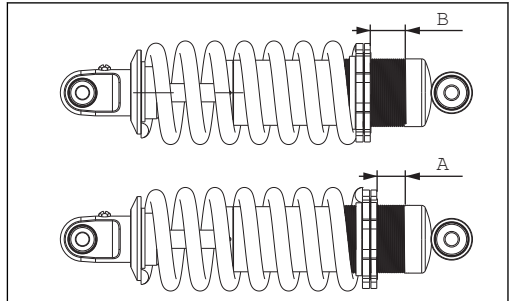


図 178

**警告**
ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

パッセンジャーと荷物を載せる場合は、リアショックアブソーバーのスプリングプリロードを最大に調整してください。これによりハンドリングを向上させ、車両が地面に接触するのを防ぎます。
この場合、リバウンドダンピングの再調整が必要になることがあります。

# 運転の方法

## 慣らし運転の方法

エンジン最高許容回転数
慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最高許容回転数：
1) 1,000 km (600 mi) まで
2) 1,000 km (600 mi) ～ 2,500 km (1500 mi)

1,000 km (600 mi) まで
最初の 1,000 km (600 mi) まではタコメーターに注意し、5,500～6,000 rpmを決して超えないようにしてください。
最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。
エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。
最初の 100 km は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。
すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、

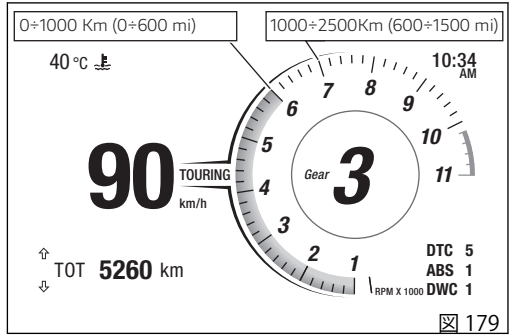


図 179

急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。
定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑してください。

1,000 km (600 mi) ～ 2,500 km (1500 mi)
1,000 km (600 mi) ～ 2,500 km (1500 mi) までは、エンジンからよりパワーを引き出すことは可能ですが、7,000 rpm を決して超えないようにしてください。

**重要**
慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

## 走行前の点検事項

### 警告

走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量
  タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください (“燃料の補給” をご覧ください)。
- エンジンオイル量
  クランクケースの点検窓でオイルレベルを確認します。必要であれば補充してください (”エンジンオイルレベルの点検“ をご覧ください)。
- ブレーキおよびクラッチフルード量
  各フルードタンクのフルードレベルを点検してください (”ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検“ をご覧ください)。
- クーラント量
  リザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。必要であれば補充してください (”クーラントレベルの点検および補充“ をご覧ください)。
- タイヤコンディション
  タイヤ空気圧と摩耗度を点検します (“チューブレスタイヤ” をご覧ください)。
- コマンド機能
  ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。
- ランプ類、インジケーター
  ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換してください (”ヘッドライト電球の交換“ をご覧ください)。
- ロック類
  フィラープラグのロック (”燃料フィラープラグ“参照) とシートのロック (”シートロック“ 参照) を点検します。
- サイドスタンド
  サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します (”サイドスタンド“ をご覧ください)。

ABS ランプ
Key-ON 後も ABS ランプは点灯し続けます。
走行速度が 5 km/h を越えた時点でランプが消灯する場合は、ABS システムが正常に作動していることを示します。

**警告**
異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

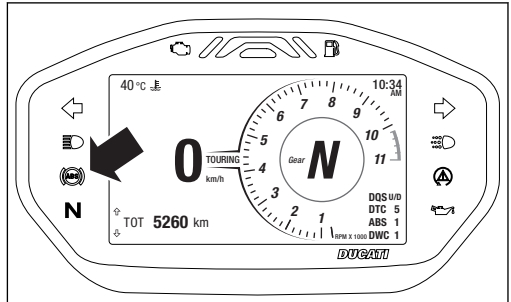


図 180

## ABS 装置

フロントフォニックホイール (1) とリアフォニックホイール (2) が汚れていないことを確認します。

**警告**

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合があります。システムを OFF にしておくことをお勧めします。

**警告**

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

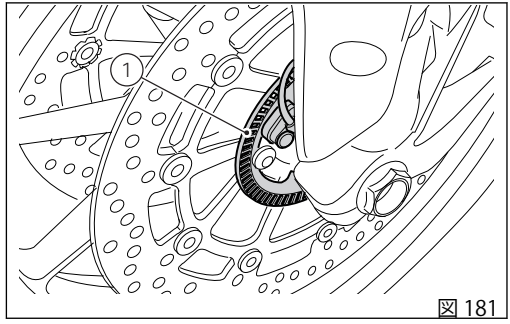


図 181

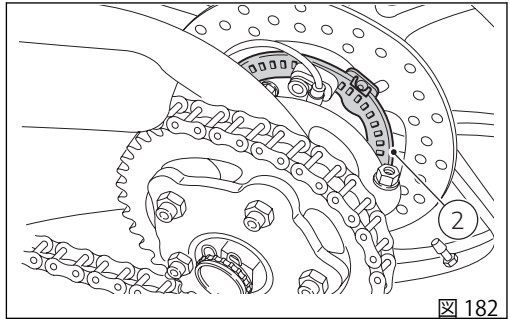


図 182

## エンジンの始動

**警告**
エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。

**警告**
屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

イグニッションキーを位置 (1) に回します。インストルメントパネルの緑のランプ N (A) と赤のランプ (B) が点灯していることを確認してください。

**重要**
オイル圧警告ランプはエンジンを始動してから数秒後に消えなければなりません。

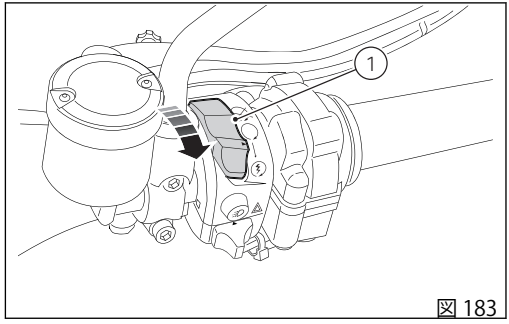


図 183

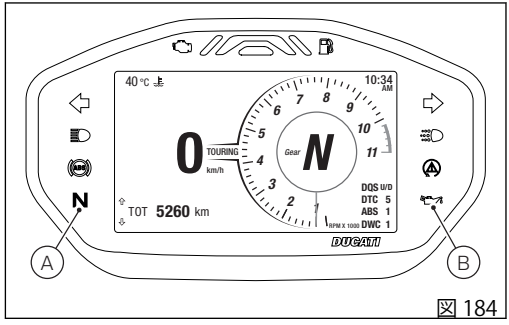


図 184

**警告**
サイドスタンドが完全に上げられて(水平)いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

**参考**
サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

非常用起動 / 停止スイッチ (2) がポジション (A) ∩ (RUN) にあることを確認してください。
スイッチ (2) を下 (B) に押して放します。
スロットルコントロールを操作せず、車両が自然に起動するまで待ちます。

**参考**
バッテリーが上がっている場合、システムは自動的にスターターモーターの起動を停止します。

**重要**
エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

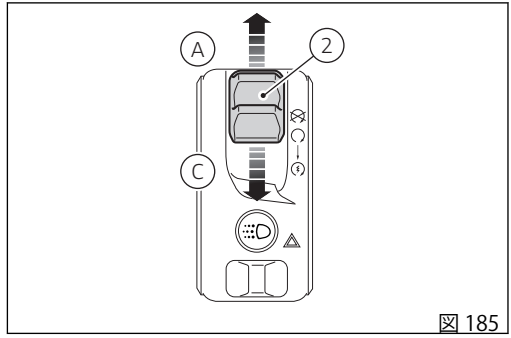


図 185

## 車両の発進

1) クラッチレバーを引いてクラッチを切ります。
2) ギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げてギアを 1 速に入れます。
3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々に放していくと、車両は発進し始めます。
4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
5) シフトアップするには、スロットルを戻してエンジン回転を落とします。クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。

シフトダウンは次のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチレバーを放します。
これらの操作は適切に素早く行ってください。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けてください。

**警告**
急な加速操作は、オーバーフローやトランスミッション機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。

**警告**
ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

## ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。車両が停止する前にクラッチを握り、エンジンが急に切れないようにします。

## ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム (ABS) は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABS は電子制御油圧システムです。ホイールがロックしそうになると、ホイールのセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内の油圧を制御します。

一時的に油圧が下がることで、タイヤは理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を再び上げてブレーキを作動させます。ホイールロックのリスクが完全になくなるまでこのサイクルを繰り返します。

ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。

フロントとリアブレーキのコントロールシステムはそれぞれ独立していますので、ABS もフロントとリアブレーキに同時に作動するわけではありません。

**警告**

ABS システムが解除された状態では、車両のブレーキシステムは標準的なブレーキとして機能します。このため、2 つのブレーキコマンドのうち片方だけを使用した場合、車両のブレーキ性能は低下します。急激に過度の力を掛けてブレーキコマンドを操作しないでください。ホイールがロックし、車両のコントロールを失うおそれがあります。雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

## 車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。
シフトダウンしながら1速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。
ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。
エンジンを停止するには、キーを (2) の位置に回します。

**重要**

エレクトリカル部品の破損を防ぐため、エンジンを切った状態でキーをON、(1)の位置のまま放置しないでください。

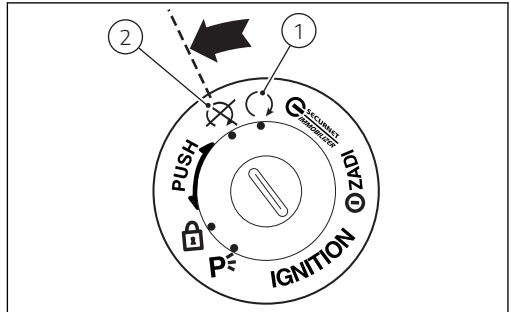


図 186

## パーキング

停止車両をサイドスタンドで支えて駐車します。盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーを (3) の位置に回します。車両をガレージやその他の建物内に駐車する際には、換気が充分され、車両の近くに熱源が無いことを確認してください。必要に応じ、キーを (4) の位置に回してパーキングランプを点灯させたままにすることができます。

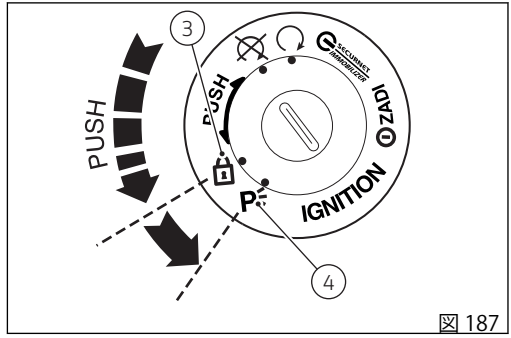


図 187

### 重要

長時間キーを (4) の位置のままにしないでください。バッテリーが上がってしまうおそれがあります。監視できない場所に停車するときは、キーを付けたままにしないでください。

### 警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

### 警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック (ディスクロック、リアスプロケットロック等) は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーとパッセンジャーの安全をも損なうおそれがあります。

## 燃料の補給

給油の際、燃料の入れすぎに注意してください。燃料レベルはフィラープラグ (1) が収まる給油口より低くなければなりません。

**警告**

極端な場合には、キャップを開ける時にタンク内の圧力によって燃料が噴き出る可能性があります。
キャップを開ける時は十分注意して、ゆっくりと開けるようにしてください。
キャップを開けている時にシューという音が聞こえたら、音が聞こえなくなるのを待ってからキャップを完全に開けてください。
このノイズは燃料タンク内の圧力が外に逃げている時に鳴る音です。音がしなくなったということは、残っていた圧力が完全に外へ逃げたことを意味します。
上記のような状況は、特に暑い気候の時に起こりやすくなります。

**警告**

オクタン価が 95 以上の鉛含有量の低い燃料を使用してください。

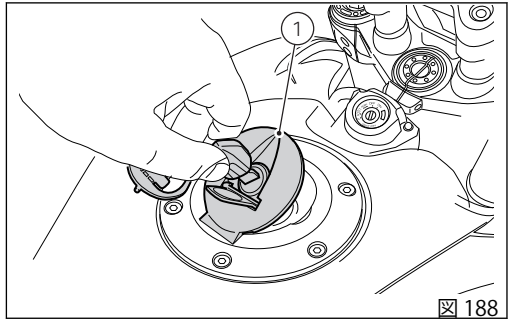


図 188

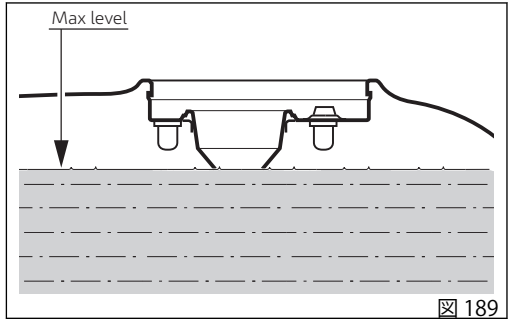


図 189

**警告**

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

## 付属アクセサリー

付属ツールは、それぞれ使いやすい場所に収納されています。

シート下 (1)：
- 六角レンチ 3 mm (2)
- 六角レンチ 5 mm (3)
- プラス / マイナスドライバー (4)

ツールを取り出すには、シートを取り外しますページ 196。

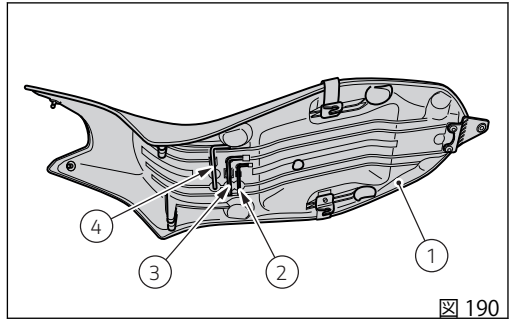


図 190

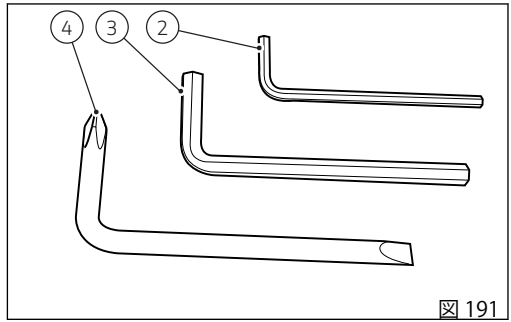


図 191

ヒューズボックスの近くには、ヒューズ用ピンセット (5) が固定されています。
車両右側のラジエーター後ろ側近くに、シートの取り外し用トルクスレンチ (6) が固定されています。

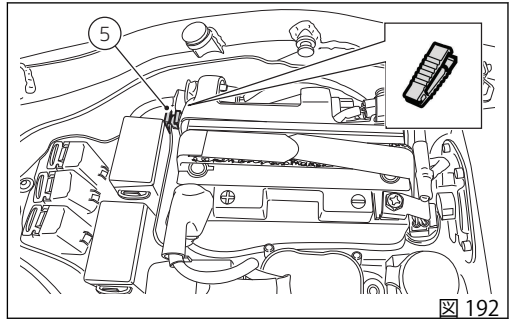


図 192

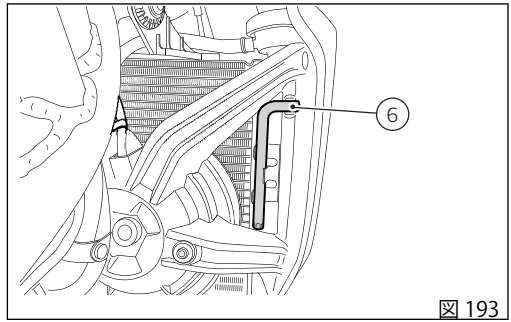


図 193

ツールキットには、スパークプラグの取り外し用チューブ型レンチ (14x16x145) (7) も付属します。

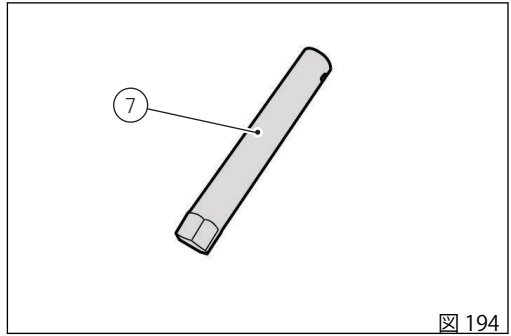


図 194

# 主な整備作業とメンテナンス

## クーラントレベルの点検および補充

ステアリングチューブ右側にあるリザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。ハンドルを左に振り切り、クーラントレベルがリザーバータンク脇にあるMINおよびMAXの目盛の間にあることを確認します。クーラントレベルがMINより下の場合は補充します。フィラープラグ(1)を緩め、不凍液ENI Agip Permanent Spezialを薄めずにMAXのレベルになるまで補充します。プラグ(1)を締めます。上記の混合液を使用することで最良のコンディションを保つ事ができます(-20°C/-4°Fから凍結し始めます)。

冷却回路の容量：2.2リットル(0.58ガロン)

**警告**

この作業はエンジンが冷えた状態で実施します。エンジンが熱い状態で作業をおこなうと、クーラントや蒸気が吹き出して深刻なやけどを負うおそれがあります。

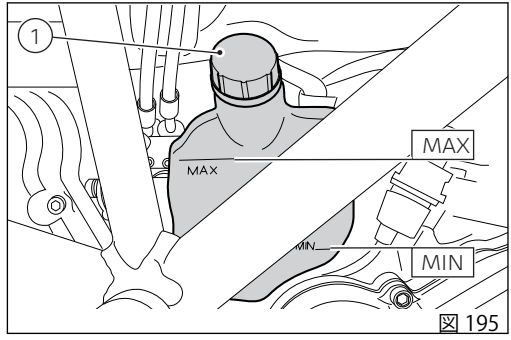


図 195

## クラッチ/ブレーキフルードレベルの点検

ブレーキ/クラッチフルードのレベルは、絶対に各リザーバータンクの MIN 目盛以下になってはいけません。
フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。
また、保証書内の定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充および交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

### クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際にエンジンがノッキングしたり止まったりする場合、システム内にエアが混入していることを表します。システムの点検とエア抜きを行う必要があるため、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

**警告**

クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材が消耗すると上昇する傾向があります。規定レベルを超えないようにしてください (最低レベルの 3 mm (0.12 in) 上)。

### ブレーキシステム

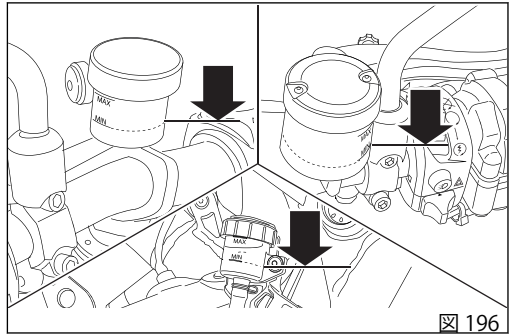


図 196

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。

**警告**

ブレーキ/クラッチフルードはプラスチック製部品や塗装部分に損傷を与えますので、これらの部分にフルードが触れないよう注意してください。
これらの液体は腐食性ですの損傷やケガを引き起こすおそれがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。ガスケットの状態を点検してください。

## ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。
どちらか片方でもパッドの厚さが約1 mmになっている場合は、両方のパッドを交換します。

**警告**

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。

**重要**

ブレーキパッドの交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

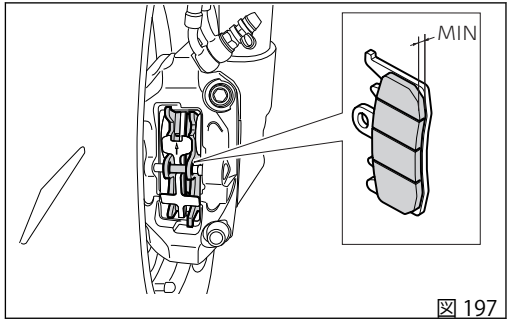


図 197

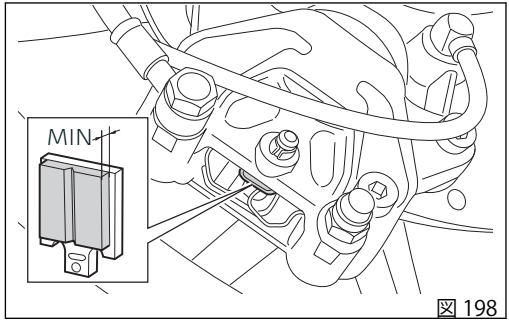


図 198

## バッテリーの充電

**警告**
バッテリーの取り外しはDucati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

バッテリーの作業をおこなうには、シートを取り外します ページ196。スクリュー(1)を緩めて外し、陽極ケーブル(2)および陽極ケーブル(ABS)(3)をプラス端子から、陰極ケーブル(4)をマイナス端子から取り外します。取り外しは必ずマイナス側(-)から始め、所定の位置からバッテリーを引き抜きます。

**警告**
バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

充電は換気の良い場所で行ってください。
端子に充電器のコンダクターを接続します。赤い端子がプラス(+)、黒い端子がマイナス(-)です。

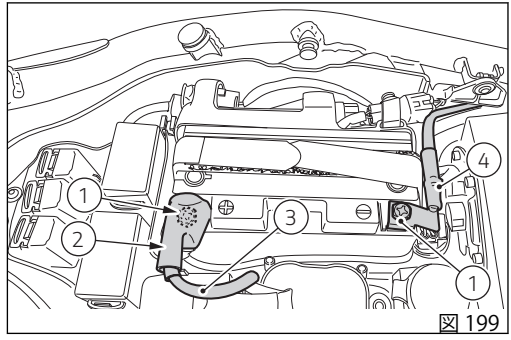


図 199

**重要**
バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス(+)端子から行ってください。

スクリュー (1) にグリースを塗布します。
バッテリーを配置し、陽極ケーブル (2) および ABS 陽極ケーブル (3) をバッテリーのプラス端子に、陰極ケーブル (4) をマイナス端子に接続します。接続は必ずプラス側 (+) から始め、スクリュー (1) を差し込みます。

**警告**
バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

バッテリーを 0.9A で 5 〜10 時間充電します。

## 冬季のバッテリー充電およびメンテナンス

本車両のシート下にはコネクター (1) が装備されています。このコネクターには専用バッテリーチャージャー (2) (バッテリーメンテナーメンテナンスキット (部品番号：69924601A) (各国) またはバッテリーメンテナーキット (部品番号：69924601AX) (日本、中国、オーストラリアのみ)) を接続することができます。専用バッテリーチャージャーは当社販売店にてお求めいただけます。

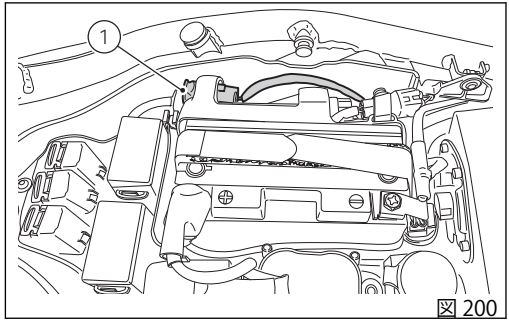


図 200

**参考**

本モデルのエレクトリカルシステムはエンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。

**重要**

所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。

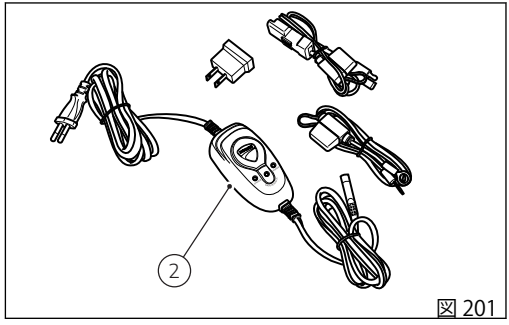


図 201

**参考**
車両を使用しない期間 (およそ 30 日以上)、Ducati バッテリーメンテナー (バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601A - 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601AX - 日本、中国、オーストラリアのみ) の使用をお勧めします。電力をモニターする内部エレクトロニクスが搭載されており、充電電流は最大 1.5 A/h です。メンテナーを車両後部にある診断ソケットに接続します。

**参考**
Ducati が認可していないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなし保証の対象にはなりません。

## トランスミッションチェーン張力の点検

**重要**
チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドで車両を支えて駐車します。チェーンの測定位置を指で一度だけ下に押し、放します。チェーンピンの中心とスイングアームのアルミニウムとの間の距離 (A) を測定します。値は、A = 65 ～ 67 mm (2.56 ～ 2.64 in) でなければなりません。

**重要**
この手順は、納車時と同じ標準設定の車両に対してのみ有効です。

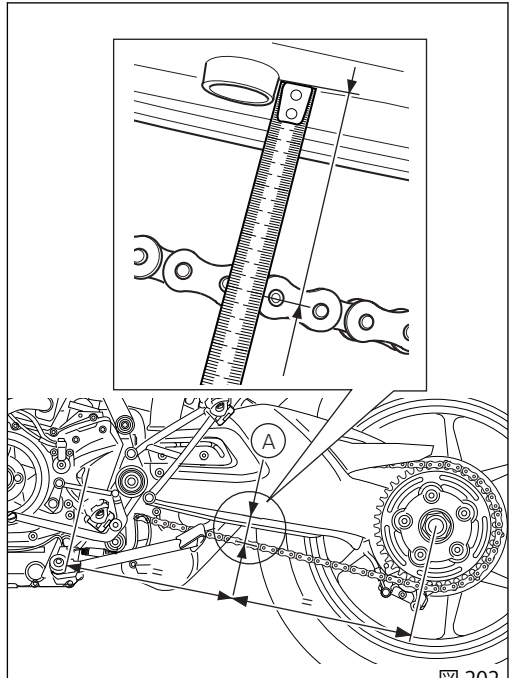


図 202

**警告**
安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー (1) を正しく締め付けることが重要です。

**重要**
ドライブチェーンが張りすぎ、もしくは緩みすぎている場合は、測定値が指定の値になるように調整します。

**警告**
安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー (1) の正しい締め付けが重要です。

**重要**
チェーンの張りが不適切だとトランスミッション部品の磨耗を早めます。

**重要**
チェーンが常に最高レベルの性能を維持し、かつ長持ちするようにするため、チェーンの洗浄、チェック、張りに関する情報に従うことを推奨します。

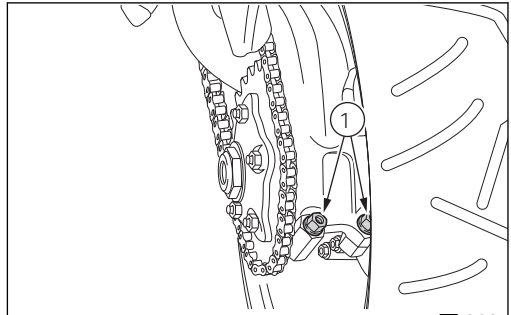


図 203

## チェーンの潤滑

### 重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

**ドライブチェーンの清掃および潤滑**

本車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑状態を長く保つO リングガスケット付きチェーンが装着されています。

チェーンの潤滑を行う前に、チェーンを正しく洗浄し、清掃することが重要です。

チェーンの清掃は、その寿命を伸ばすために非常に重要なことです。従って、チェーン上に泥や土、砂、その他一般的な汚れが見られる場合は、それらの汚れをウォータージェットで取り除き、その後すぐに 30cm (11.81 インチ) 以上離れたところから圧縮空気で乾燥させてください。

**警告**
蒸気やガソリン、溶剤、硬いブラシやその他、Oリングを傷つけるものは使用しないでください。さらにバッテリー電解液との接触を避けてください。図のように、リンクに小さなひび割れができるおそれがあります。

**警告**
特にバイクをオフロードで使用する場合は、チェーンガイドスライダーとの接触により、リンクが過度に摩耗することがあります。摩擦によりチェーンが過熱し、チェーンの熱処理が損なわれ、その結果特にリンクがもろくなるおそれがあります。

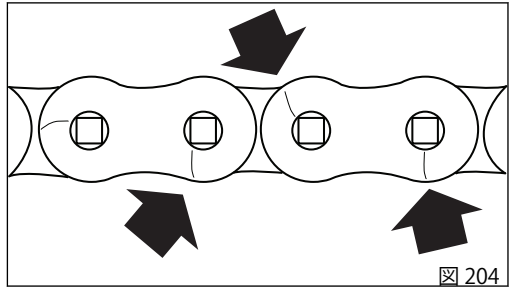


図 204

**ドライブチェーンの潤滑**

**重要**
ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

**警告**
潤滑には SHELL Advance Chain を使用してください。規定以外の潤滑剤を使用するとO リングや、それに伴ってトランスミッションシステム内部を損傷することがあります。

チェーンの潤滑は、新しい潤滑剤がリンク間の内外に染み込み、保護作用がより効果的に発揮されるよう、バイクの使用後、車両が冷えるのを待たずに行ってください。

リアパドックスタンドに車両を駐車します。リアホイールを進行方向とは逆の方向に速く回転させてください。

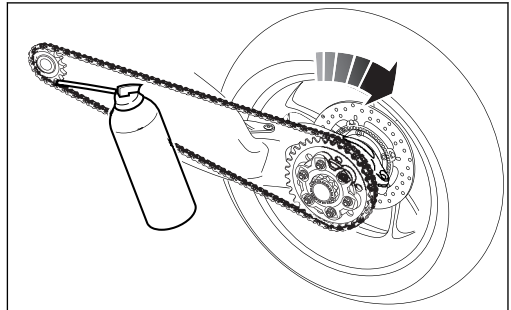


図 205

チェーン内部のリンクの内側と外側に、スプロケットとのかみ合わせの直前の箇所 (2) で、潤滑剤 (1) のジェットを噴射します。

遠心力によりスプレーの中身が液状になり、潤滑剤がピンとブッシュの間の作動部分に行き渡り、完璧な潤滑を保証します。

潤滑剤のジェットをチェーンの中央部 (5) に配置して作業を繰り返し、図のようにニードルベアリング (4) および外側のプレート (6) を潤滑します。

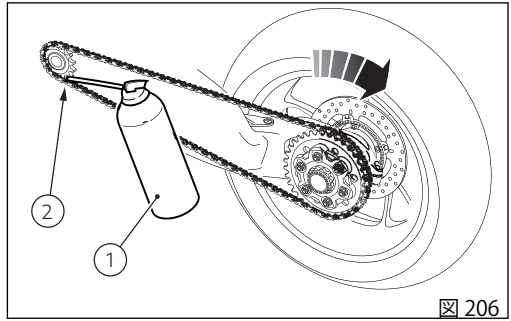


図 206

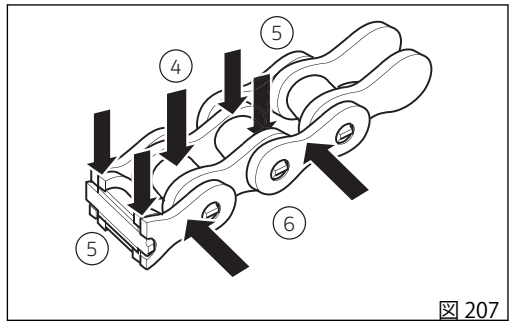


図 207

潤滑の終了後10～15分待ち、チェーンの内側と外側表面に潤滑剤を行き渡らせ、その後余分な潤滑剤を布でふき取ります。

**重要**
チェーンの潤滑後、すぐにバイクを使用しないでください。潤滑の直後は潤滑剤がまだ流れやすく、外側に向かって飛び散り、後輪やライダーフットペグを汚す可能性があります。

**重要**
チェーンのチェックを頻繁に行い、プログラムされた表に従って、少なくとも1000 km (621 マイル) 毎に行ってください。外気温度が高い (40° C) 土地での使用時、または長距離におよぶ高速道路での走行の後は、より頻繁 (約400 km (248 マイル) 毎) に潤滑を行ってください。

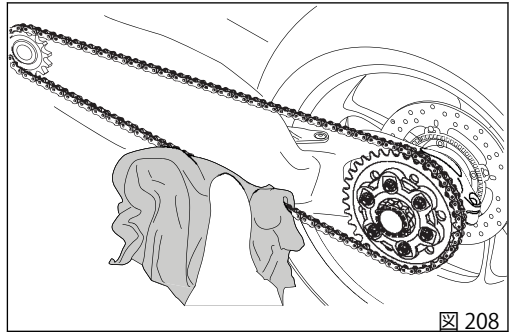


図 208

## ヘッドライドの電球の交換

**重要**
電球の交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

**警告**
雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

切れた電球を交換する前に、新しい電球が ページ 270 の"エレクトリカルシステム"の段落に記載されている電圧、電力と同じであることを確認してください。取り外した部品を再度取り付ける前に、必ず新しく取り付けた電球の機能を点検してください。
スクリュー (1) を緩めます。ヘッドライトマウントを若干上に持ち上げます。

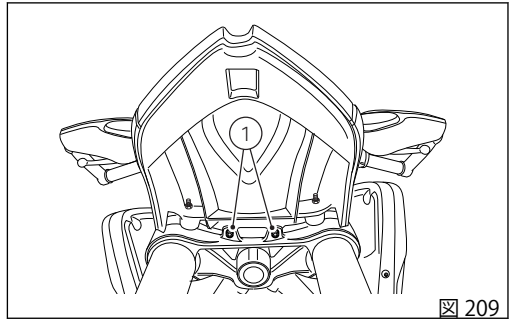


図 209

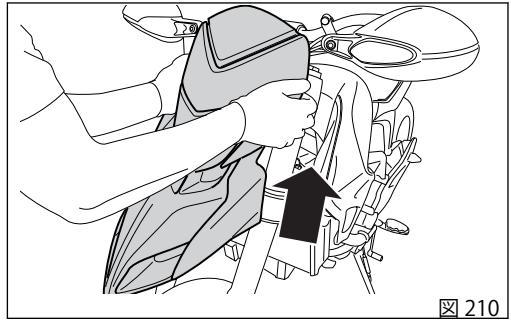


図 210

サポートラバー (A) からヘッドライトマウントを外します。
カバー (2) が外れるまでヘッドライトマウントを車体前方に引き抜きます。
カバー (2) を反時計回りに回して外します。

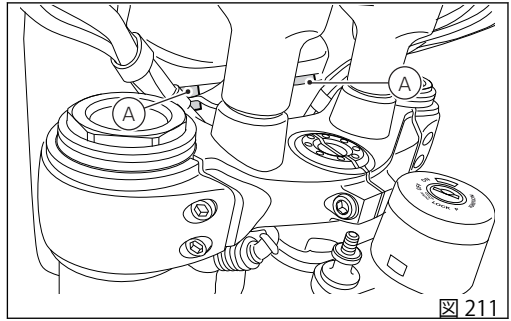


図 211

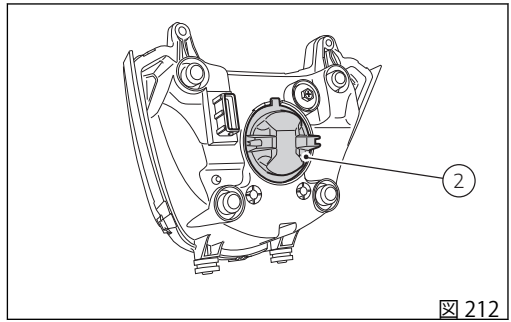


図 212

コネクターを切り離します。
クリップ (4) を外します。
電球 (5) はバイヨネットベースタイプなので、取り外すには押しながら反時計回りに回します。電球を交換し、新しい電球を押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。

**参考**
レンズの部分は絶対に指で触れないでください。電球の光度が落ちる原因となります。

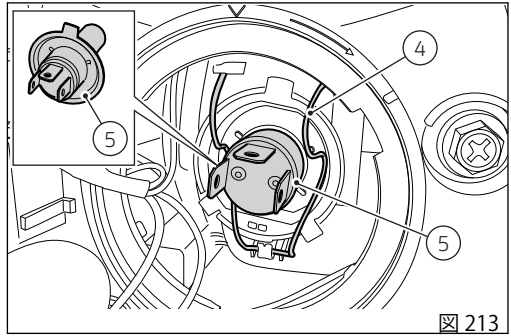


図 213

## ターンインジケーターの電球の交換

フロントターンインジケーター

フロントターンインジケーターはハンドガード (1) に内蔵されています。LED ライトのため、メンテナンスの必要はありません。作業を行うには、4 本のスクリュー (2) を外してカバー (3) を取り外してください。

**重要**

電球の交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

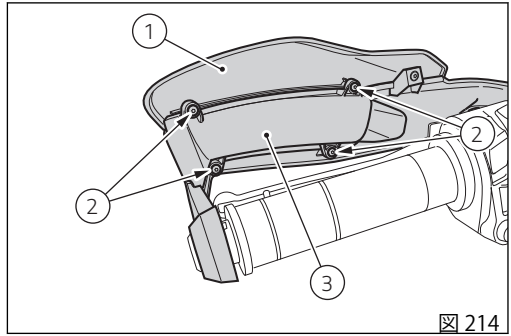


図 214

リアターンインジケーター

USA/CDN バージョンを除き、ターンインジケーターライトは LED ですのでメンテナンスの必要はありません。

USA/CDN バージョンのターンインジケーターライトは電球です。
必要な場合は、指定の交換手順に従い電球を交換してください。
スクリュー (4) を緩めて外し、ターンインジケーターマウントからカバー (5) を取り外します。
電球は差し込み式になっています。引き抜くには押して反時計回りに回します。
電球を交換し、新しい電球を押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。
ツメを正しくインジケーターマウント上の溝に差し込み、カバー (5) を取り付けます。
スクリュー (4) をねじ込みます。

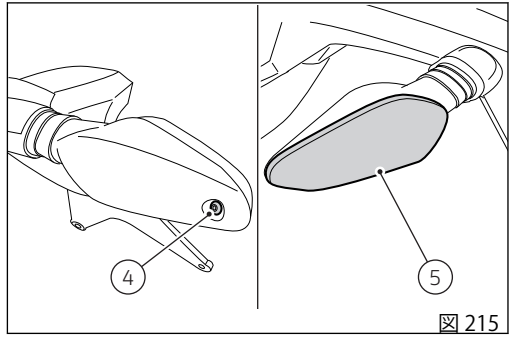


図 215

## ナンバープレートランプ

ナンバープレートランプはLEDですので、メンテナンスの必要はありません。

**重要**

電球の交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

## ヘッドライトの光軸調整

**参考**
ヘッドライトには左右の光軸調整用に 2 つのアジャスターが付いています。

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員 1 名がシートに乗った状態で、車両を壁面またはスクリーンの前 10 メートル (32.8 フィート) の場所で縦軸に対して垂直に立て、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、車体の縦軸に対応する垂直線も引きます。この点検は薄暗い場所で行ってください。ロービームランプを点灯し、左右の光軸調整を行います。照射領域の上限が、床面からヘッドライトの中心までの高さの 9/10 以下でなければなりません。

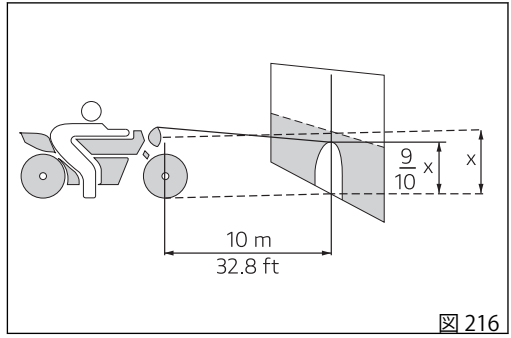


図 216

**参考**
この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

ヘッドランプの光軸調整
ヘッドライトの水平方向の調整は、スクリュー (1) をマニュアルで操作して行います。
スクリュー (1) を時計回りに回すと、光軸が上に移動します。
スクリュー (1) を反時計回りに回すと、光軸が下に移動します。

**重要**
ヘッドランプの調整スクリューにエンドストップはありません。

**警告**
雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

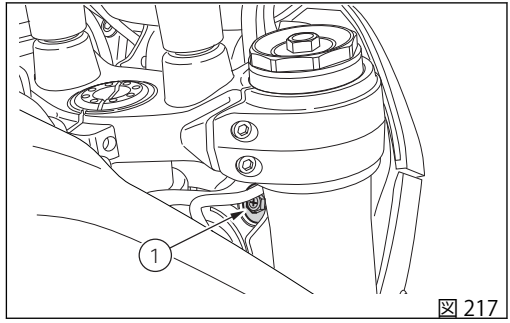


図 217

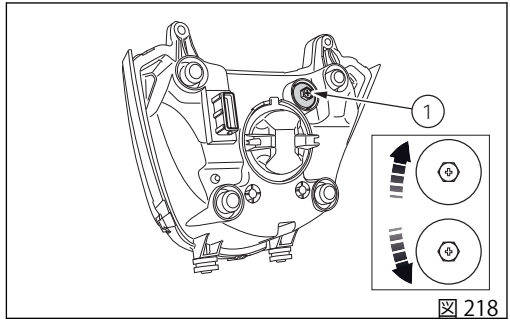


図 218

## リアビューミラーの調整

リアビューミラー (A) を手動で好みの位置に調整します。

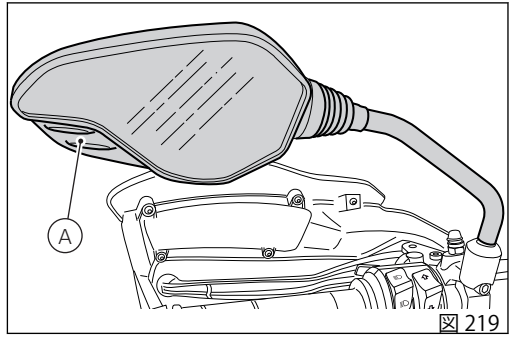


図 219

## チューブレスタイヤ

フロントタイヤ空気圧：
2.50 bar (ライダーのみ) - 2.50 bar (最大積載時)。
リアタイヤ空気圧：
2.50 bar (ライダーのみ) - 2.90 bar (最大積載時)
タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。

**重要**
タイヤの空気圧の測定、調整はタイヤ冷間時に行ってください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2～0.3 bar 上げてください。

### タイヤの修理、交換 (チューブレス)

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。

**警告**
パンクしたタイヤは交換してください。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかり締まっていることを確認してください。チューブタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。

**警告**
ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。

**参考**
タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどの ABS システム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

タイヤの摩耗限度
タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所 (S、 図 220) の溝の深さを測定します。溝の深さは 2 mm 以上でなければならず、また現地法で定めれた規定値以下であってはなりません。

**重要**
タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドの溝に入り込んだ石や異物は取り除いてください。

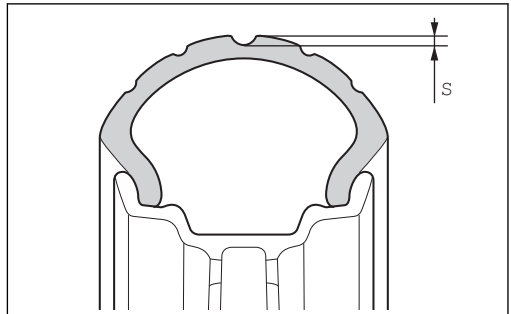


図 220

## エンジンオイルレベルの点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓 (1) から見ることができます。
オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。
ドゥカティ社推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 です (JASO：MA2、API：SN)。
フィラーキャップ (2) を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。プラグを取り付けます。

**重要**

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

オイルレベルの正確な点検を実施するには、以下に記載する作業をよく読んで指示に従ってください。
1) オイルレベル点検はエンジンが熱い状態で実施します。そのため少なくとも 20〜30 分間走行した後すぐに実施しなかった場合は、もう一度エンジンを温める必要があります。
エンジンが冷めた状態であればエンジンを始動し、最低でもラジエーターファンが二回連続して作動するまでエンジンを温めてください (エンジンオイルがオイル通路に沿って潤滑にオイルパンまで到達するには、オイルが熱くなければなりません)。
エンジンを温めている間は、車両をサイドスタンドで駐車していてもかまいません。
2) エンジンを停止し、オイルが完全にオイルパンに戻るまで 10〜15 分待ちます。
3) 平坦な場所に両方の車輪を地面に着け、直立に駐車します。
4) この時点で、エンジンオイル点検窓からオイルレベルを点検します。
5) オイルレベルが MIN と MAX 目盛りの中央より下であれば、MAX 目盛りまでオイルを補充してください。

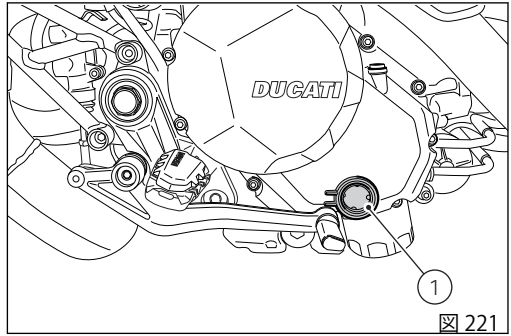


図 221

**警告**
MAX 目盛りは絶対に超えないようにしてくださ
い。

## オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格：SN
- JASO 規格：MA2。

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API (米国での分類) および JASO (日本標準) は、オイルが有する特徴を表します。

## スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。
スパークプラグの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

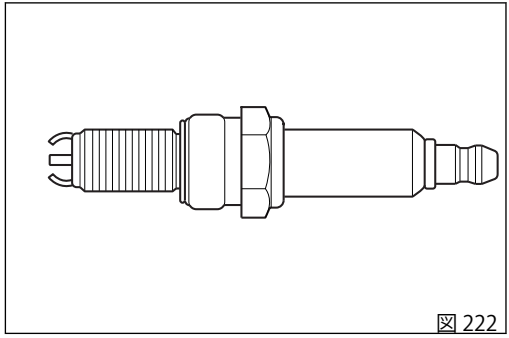


図 222

## 車両の清掃

塗装部分と金属部分の本来の艶を長期間保つため、使用状態や走行する道路の状態に合わせて、定期的に車両の清掃、洗車を行ってください。強力な洗剤や溶剤の使用は避け、可能であれば生分解性の専用洗剤を使用してください。
プレキシガラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤を使用してください。
アルミニウム製部品は定期的に手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

**参考**
研磨材付きスポンジやスチールウールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象になりません。

**重要**
走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。
洗車には温水ジェットや高圧洗浄機を使用しないでください。
洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスケット、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露(くもり)を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。
エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスミッション系統(チェーン、フロント/リアスプロケット等)に脱脂剤が付着しないように注意してください。

車両をぬるま湯で良くすすぎ、表面全体をセーム革で拭いて乾かします。

**警告**
洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

**警告**
洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABS システムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーを傷めますので、強力な洗剤や溶剤の使用は避けてください。

**警告**
インストルメントパネルのクリアカバーにオイルや燃料が直接付着しないようにしてください。シミや損傷の原因となり情報を読み取りにくくなるおそれがあります。この部分の清掃にはアルコール系洗剤、溶剤や研磨剤入りの洗剤を使用しないでください。表面の硬いザラついたスポンジや布はキズが付くおそれがありますので使用しないでください。

**参考**
インストルメントパネルのクリアカバーは、やわらかい布を使用して水と中性洗剤、もしくはクリアプラスチック部品専用の洗剤で清掃してください。

**参考**
インストルメントパネルの清掃には、アルコールやアルコール由来の製品を使用しないでください。

ホイールリムにはアルミニウム加工が施されていますので、清掃には十分に注意してください。車両を使用するたびに、ホイールリムを清掃して乾燥させてください。

**重要**
ドライブチェーンの清掃や潤滑は、「ドライブチェーンの潤滑」を参照してください。

## 長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします。
- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- スパークプラグの穴からシリンダー内に少量のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。

1 ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーの点検を実施し、必要であればバッテリーの充電または交換を行ってください。
結露を防止し塗装を保護するため、車体をカバーで覆います。
車体カバーは Ducati Performance にて取り扱っております。

## 重要注意事項

国によっては (フランス、ドイツ、イギリス、スイス等) 排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。
法律で義務付けられている定期点検を実施し、交換が必要な部品については各国の規制に適合する Ducati 純正パーツと交換してください。

# メンテナンスプログラム

## メンテナンスプログラム： ディーラーでおこなうメンテナンス

| メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*) | Km x1000 | 1 | 15 | 30 | 45 | 60 | 期間 (月) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | マイル x1000 | 0.6 | 9 | 18 | 27 | 36 | |
| DDS による不具合メモリーの読み取り、およびコントロールユニットのソフトウェアバージョンの更新確認 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| テクニカルアップデートおよびリコールの有無の確認 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| エンジンオイルおよびフィルターの交換 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| エンジンオイルインテークフィルター清掃 | | ● | | ● | | ● | - |
| バルブクリアランスの点検と調整 | | | | ● | | ● | - |
| タイミングベルトの交換 | | | | ● | | ● | 60 |
| スパークプラグの交換 | | | | ● | | ● | 12 |
| エアフィルターの清掃 | | | ● | | ● | | - |
| エアフィルターの交換 | | | | ● | | ● | - |
| ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| ブレーキ/クラッチフルードの交換 | | | | | | | 36 |

| メンテナンス項目/作業内容<br>(km/マイル 毎、または経過時間*) | Km x1000<br>マイル x1000 | 1<br>0.6 | 15<br>9 | 30<br>18 | 45<br>27 | 60<br>36 | 期間 (月) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ブレーキパッドおよびディスクの摩耗点検必要な場合は交換 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| ブレーキキャリパー、ブレーキディスクフランジスクリューの締め付け点検 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| リアブレーキディスクおよびフォニックフォイールの締め付け点検 | | | ● | ● | ● | ● | 12 |
| フロント、リアホイールナットの締め付け点検 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| エンジンへのフレーム固定部品の締め付け点検 | | | ● | ● | ● | ● | - |
| ホイールハブベアリングの点検 | | | | ● | | ● | - |
| リアホイールシャフトの点検と潤滑 | | | | ● | | ● | - |
| リアスプロケットのダンパーの点検 | | | | ● | | ● | - |
| ファイナルドライブのリアスプロケットのナット、フロントスプロケットのナット締め付け点検 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| ファイナルドライブ (チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット)、およびチェーンスライダーの磨耗点検 | | | ● | ● | ● | ● | 12 |
| ドライブチェーン張力の点検と潤滑 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| ステアリングベアリングの点検と潤滑 | | | | ● | | ● | - |

| メンテナンス項目/作業内容<br>(km/マイル 毎、または経過時間*) | Km x1000<br>マイル x1000 | 1<br>0.6 | 15<br>9 | 30<br>18 | 45<br>27 | 60<br>36 | 期間 (月) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| フロントフォークオイルの交換 | | | | | ● | | - |
| フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| サイドスタンド、センタースタンドの動作および締め付け点検 (装備している場合) | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| フューエルホースの目視点検 | | | | ● | | ● | - |
| フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊びと動作、取り付け位置の目視点検 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| ハンドルレバー、ペダルコマンドの潤滑 | | | ● | ● | ● | ● | 12 |
| クーラントの交換 | | | | | ● | | 48 |
| クーラントレベルの点検、冷却回路の状態の点検 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| タイヤ空気圧、磨耗点検 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| バッテリー充電レベルの点検 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| 電気安全装置の作動点検 (サンドスタンドセンサー、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー) | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| ランプ、インジケーター類、警告ホーン、コマンド類の点検 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |

| メンテナンス項目/作業内容<br>(km/マイル 毎、または経過時間*) | Km x1000<br>マイル x1000 | 1<br>0.6 | 15<br>9 | 30<br>18 | 45<br>27 | 60<br>36 | 期間 (月) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DDS 2.0 を介したサービスインジケーターのリセット | | ● | ● | ● | ● | ● | - |
| 安全装置 (ABS、DTC など)、エレクトリックファン、アイドリングの機能点検を兼ねた路上での走行テスト | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| 車両のソフトクリーニング | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |
| 定期点検実施の車載書類 (サービスブック) への記入 | | ● | ● | ● | ● | ● | 12 |

## メンテナンスプログラム： お客様が行うメンテナンス

**重要**

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

| メンテナンス項目/作業内容 (km/mile 毎、または経過時間 *) | Km x1000 | 1 |
|---|---|---|
| | マイル x1000 | 0.6 |
| | 月 | 6 |
| エンジンオイルレベルの点検 | | ● |
| ブレーキオイルレベル点検 | | ● |
| タイヤ空気圧、磨耗点検 | | ● |
| チェーン張力の点検と潤滑 | | ● |
| ブレーキパッドの点検必要であれば、ディーラーにて交換してください。 | | ● |

* 走行距離 (km) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

# テクニカル仕様

## 重量

車両重量 (燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠)：200 kg (440.92 lb)
車両乾燥重量：178 kg (392.42 lb)
車両総重量 (最大負荷)：375 kg (826.73 lb)

**警告**
重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

## サイズ

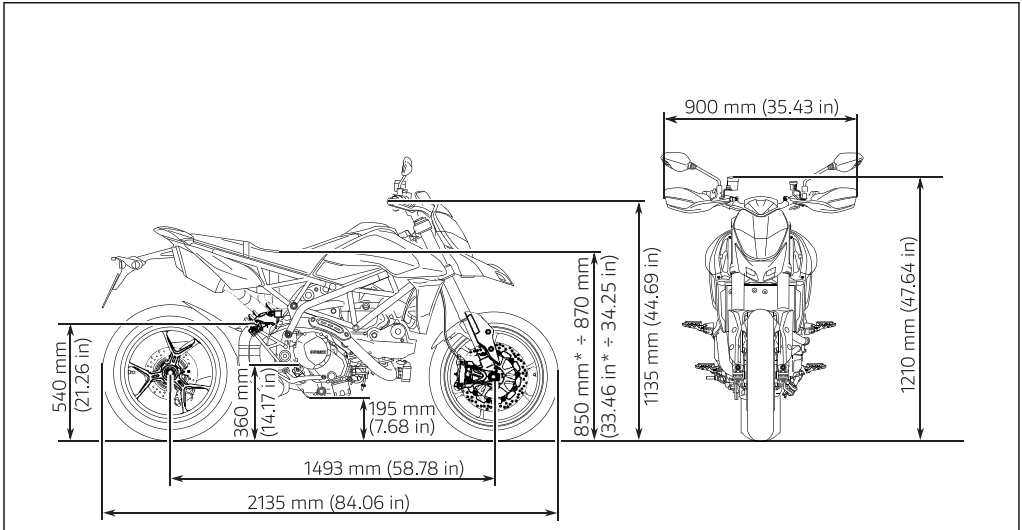



図 223

* ROK および TWN バージョン用のみ有効

## 補給

| 補給 | タイプ | |
|---|---|---|
| 燃料タンク、リザーブ 3.5 リットル (0.77 UK ガロン) を含む | オクタン価が 95 以上の無鉛ガソリン SHELL V-Power を使用してください。 | 14.5 リットル (3.19 UK ガロン) |
| 潤滑システム | ドゥカティ社推奨オイルは SHELL Advance 4T Ultra 15W-50 (JASO：MA2、API：SN) です。 | 3.35 リットル (0.74 UK ガロン) |
| フロント/リアブレーキシステム、クラッチ | DOT 4 | - |
| 電極保護液 | 電気系統の保護スプレー | - |
| フロントフォーク | SHELL Donax TA | 145±2 $cm^3$ (5.59 in) (チューブのプリロードおよびスプリングがなく、レッグのストロークエンド位置で測定) |
| 冷却システム | 不凍液 ENI Agip Permanent Spezial (薄めずに使用) | 2.2 リットル (0.48 UK ガロン) |

**重要**
燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。

**警告**

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

## エンジン

コグベルト式、デスモドロミック DOHC、気筒ごとに 4 バルブと 8 ロッカーアーム

ボア mm：：94 mm (3.7 in)

ストローク mm：67.5 mm (2.66 in)

総排気量 $cm^3$：936.9 $cm^3$ (57.17 $in^3$)

圧縮比：(13.3±0.5) :1

クランクシャフト最高出力、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X、kW /HP：
84 kW / 114.3 HP / 9000 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X：
95.6 Nm / 9.8 kgm / 7250 rpm

最高回転数、rpm ：10200

**重要**

走行中いかなる状況においても、決して最高回転数を超えてはいけません。

**参考**

記載されている出力/トルクデータは、基準適合規則に従って静的テストベンチを使用して測定されたもので、認証時に測定され車両登録証に記載されているデータと同じになります。

## タイミングシステム

8個のロッカーアーム、およびダブルオーバーヘッドカムシャフトで制御されるシリンダーごとに4バルブのデスモドロミックシステム。スパーギア、プーリー、コグドベルトを介してクランクシャフトで制御されます。

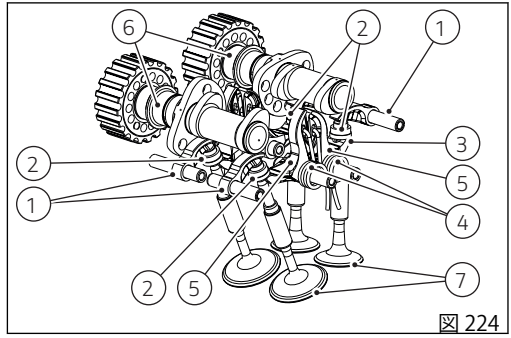


図 224

デスモドロミックタイミングシステム

1) オープニング (アッパー) ロッカーアーム
2) オープニングロッカーシム
3) クロージング (ロア) ロッカーシム
4) クロージングロッカーアームリターンスプリング
5) クロージング (ロア) ロッカーアーム
6) カムシャフト
7) バルブ

## 性能データ
各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく守り、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

## 重要
これらの条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducatiモーターホールディング社は一切責任を負うものではありません。

## スパークプラグ
メーカー：
NGK
タイプ：
MAR9A-J

## 燃料供給
Continental 間接式エレクトロニックインジェクションシステム
フルライドバイワイヤシステムを備えた直径 53 mm (2.09 in) の円形スロットルボディ
シリンダーごとのインジェクター数：1
インジェクター孔数：4
ガソリン燃料：95-98 RON

## 警告
この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています。このような燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

## ブレーキ
各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたホール効果センサーで制御されます。ABSの解除が可能です。

フロント
320 mm (12.6 in) セミフローティングダブルディスク
ブレーキシュー材質：ステンレススチール
右側ハンドルレバーのアジャスタブルレバーによる油圧コントロール
ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO
タイプ：M4.32 b
ブレーキパッド材質：TT 2182 FF
キャリパーシリンダー径：32 mm (1.26 in)
ディスク厚：4.5 mm (0.18 in)
ディスクの摩耗限界：4 mm (0.16 in)
フロントブレーキポンプ：PR18/19

ポンプシリンダー径：18 mm (0.71 in)

リア
穴付き固定ディスク、スチール製
ディスク径：245 mm (9.65 in)
ディスク厚：5 mm (0.2 in)
ディスクの摩耗限界：4.5 mm (0.18 in)
車体右側ペダルによる油圧コントロール
メーカー：BREMBO
タイプ：P34e
ブレーキパッド材質：Ferit I/D 450 FF
キャリパーシリンダー径：34 mm (1.34 in)
ポンプシリンダー径：11 mm (0.43 in)

**警告**
ブレーキフルードは腐食性があります。
万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

## トランスミッション

メカニカルコマンド式湿式多板クラッチ、左側ハンドルレバーによる操作。セルフサーボ機構およびスリッパークラッチ機構
エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達。
エンジンスプロケット/クラッチスプロケット比：33/61

6 速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作

ギアスプロケット/リアスプロケット比：15/43
変速比：
1 速 15/37
2 速 17/30
3 速 20/28
4 速 22/26
5 速 23/24
6 速 24/23

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動伝達
メーカー：REGINA
タイプ：520 ZRDK
リンク数：106

**重要**
上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

この車両を競技用に仕様変更を望まれるお客様に、Ducati モーターホールディング社から特別なギア比に関する情報を提供することが可能です。Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

**警告**
リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。
この部品の誤った交換は、ライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

## フレーム
スチール製トレリスパイプフレーム、メインパイプ径 34mm
スチール製リアサブフレーム
キャスター角：25.5°
ステアリングアングル：左側 35° / 右側 35°
トレール：104 mm (4.09 in)

## ホイール
フロント
軽合金 Y 型 3 本スポークホイール
寸法：MT3.50x17" M/C

リア
軽合金 Y 型 3 本スポークホイール
寸法：MT5.50x17" M/C

両ホイールともシャフトの取り外しが可能です。

## タイヤ
フロント
チューブレスラジアルタイヤ Pirelli Diablo Rosso III
寸法：
120/70-ZR17 M/C (58W)

リア
チューブレスラジアルタイヤ Pirelli Diablo Rosso III
寸法：
180/55-ZR17 M/C (75W) TL (D)

## サスペンション
フロント
Marzocchi 製油圧式フルアジャスタブルフォーク
インナーチューブ径：
45 mm (1.77 in)
ホイールトラベル：
170 mm (6.69 in)

リア
SACHS 製ショックアブソーバー、プログレッシブタイプショックアブソーバーはリバウンドダンピングとスプリングプリロードの調整が可能です。下部を基点にしてアルミニウムダイキャスト製片持ち式スイングアームと接続されています。このシステムは車両に高い安定性をもたらします。
ショックアブソーバーストローク：

61.5 mm (2.42 in)
リアホイールトラベル：
150 mm (5.91 in)

## エキゾーストシステム

2–1–2 エキゾーストシステム、アルミニウム製エンドカバー、触媒コンバーターとラムダセンサー 2 個付き。

## カラーバリエーション

### ドゥカティレッド

Ducati アニバーサリーレッド 部品番号：473.101 (PPG)
ベース (アクリフレックス ホワイト)、部品番号：L0040652 (LECHLER)
エナメル (アクリプラストレッドストーナー SF)、部品番号：LMC06017 (LECHLER)
マーキュリーグレーサブフレーム、製品タイプ：Interpon A3000 Mineral Grey、部品番号：MW/2/11375AVB (Akzo Nobel)
レッドフレーム、製品タイプ：パウダーエナメル (パワーコート) TOA-PS P CA03- 90 RED、部品番号：PU CA03-90 (TOA-PC)
ブラックホイールのカラー構成：
ベース (プライマー) パワープライマー、部品番号：P09809-C (Petere Lacke)
エナメル (トップコート) PEHADUR EINBRENNLACK、部品番号：VPCH03250 (Petere Lacke)

### VILLA D'ESTE レプリカ

フューエルタンクカバーとロアライトハーフマスク：
ベース：プライマーホワイト、部品番号：DS20052 (LECHLER)
ベース：GP19 レッド、部品番号：0084 (PPG)
クリアー 1：デコシーラー、部品番号：31676 (LECHLER)
クリアー 2：TIXO KLARLACK、部品番号：09 96230
ラジエーターカバー、アッパーライトマスク、サイドパネル：
ベース：プライマーブラック、部品番号：DS20051 (LECHLER)
ベース：ブラックステルス、部品番号：929.R223 (PALINAL)
クリアー 1：デコシーラー、部品番号：31676 (LECHLER)
クリアー 2：TIXO KLARLACK 09、部品番号：96230 (LECHLER)
フロントマッドガードとテールライトカバー：
ベース：プライマーブラック、部品番号：DS20051 (LECHLER)
ベース：ブラックステルス、部品番号：929.R223 (PALINAL)

クリア：TIXO KLARLACK 09、部品番号：96230
(LECHLER)

## エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。

### ヘッドライト

ロービーム / ハイビームランプ：
H4 blue vision 電球 (12V – 60/55W)
パーキングランプ：
LED Stanley H9J　10 個
DRL (中国、カナダ、日本バージョンには DRL は装備されません)：
LED Stanley H9J　10 個

### ハンドル上スイッチ

フロントターンインジケーター：
LED Primax150 Nazy-BHG-MN3-1　12 個
リアターンインジケーター：
(ヨーロッパバージョン) LED Philips LXM2-PL01　1 個
(USA バージョン) 12V RY10W 電球
警告ホーン
ストップランプスイッチ

### 電装品

バッテリー　12V-10 Ah、ドライ
ジェネレーター 14V - 490W - 35A
電子レギュレーター、シート下の 30A ヒューズで保護。
スターターモーター：
12V-0.7 kW

### テールランプ

パーキングランプ：
LED LAE6SF　12 個
ストップランプ：
LED LAE6SF　12 個
ナンバープレートランプ：
LED CREE CLA1A　3 個

**参考**
電球の交換は、"ハイ/ロービーム電球の交換" を参照してください。

### ヒューズ

電装品の保護ヒューズはフロントヒューズボックスとリアヒューズボックス内に 13 個、スターターコンタクター上に 1 個あります。各ヒューズボックス内には予備ヒューズが 1 個あります。
ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。

フロントヒューズボックス (A) は左側に位置し、左フロントフェアリングを外してアクセスが可能です。ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外します。
リアヒューズボックス (B) は、シートの下、ABS コントロールユニット横にあります。リアヒューズボックスで作業を行うには、シートを取り外す必要があります。ページ 196 を参照してください。ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記されている保護カバーを外します。

| フロントヒューズボックス凡例 (A) | | |
|---|---|---|
| 配置 | 保護装置 | 容量 |
| 1 | ランプ | 5 A |
| 2 | インストルメントパネル | 10 A |
| 3 | Key-1 | 10 A |
| 4 | Key-2 | 15 A |
| 5 | 負荷 | 20 A |
| 6 | ECU | 5 A |
| 7 | BBS | 10 A |
| 8 | スペア | 10 A |

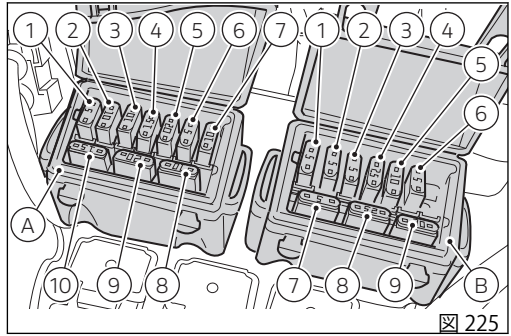


図 225

| フロントヒューズボックス凡例 (A) | | |
|---|---|---|
| 9 | スペア | 20 A |
| 10 | スペア | 15 A |

| リアヒューズボックス凡例 (B) | | |
|---|---|---|
| 配置 | 保護装置 | 容量 |
| 1 | オプショナルキー | 5 A |
| 2 | アラーム | 5 A |
| 3 | ストップ | 5 A |

| リアヒューズボックス凡例 (B) | | |
|---|---|---|
| 4 | 診断 | 7.5 A |
| 5 | ABS バルブ | 10 A |
| 6 | ABS モーター | 25 A |
| 7 | スペア | 5 A |
| 8 | スペア | 25 A |
| 9 | スペア | 30 A |

メインヒューズ (C) はリアヒューズボックス近く、スターターコンタクター (D) 上に設置されています。ヒューズを交換するには、保護キャップ (E) を取り外してください。切れたヒューズは、インナーフィラメント (F) が溶断しているかどうかで確認することができます。

**重要**

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーを OFF にしてください。

**警告**

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすおそれがあります。

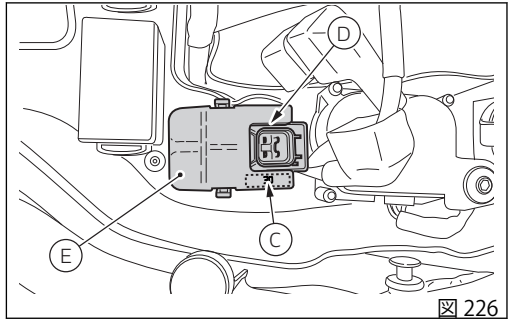


図 226

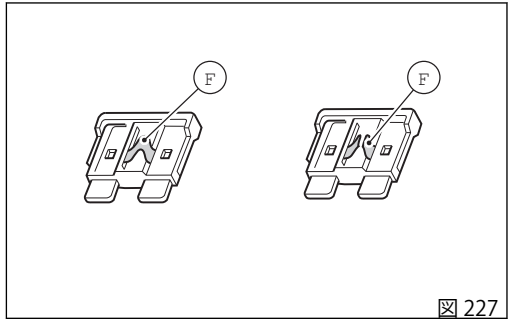


図 227

# 定期点検メモ

## 定期点検メモ

| キロメートル | マイル | ドゥカティサービス名 | 走行距離 | 日付 |
|---|---|---|---|---|
| 1,000 | 600 | | | |
| 12,000 | 7,500 | | | |
| 24,000 | 15,000 | | | |
| 36,000 | 22,500 | | | |
| 48,000 | 30,000 | | | |
| 60,000 | 37,500 | | | |

91374911JA

Stampato 05/2020